

科目名/Subject : 臨床心理基礎実習

曜日・講時/Day/Period : 通年 火曜日 1 講時. 通年 火曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 安保 英勇, 加藤 道代

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

カウンセリングの体験的学習

Experiential learning of counseling

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学に必要な基礎的な面接技法を修得する。

Learning basic counseling techniques necessary for clinical psychology

3. 学習の到達目標/Goal of study :

カウンセリング場面で必要とされる基本的な技法を修得し、実践的に活用できるようになる。技法修得を通じてのクライアント理解への姿勢をより深める。

Participants will

- 1) acquire the basic techniques required in the counseling
- 2) be able to use counseling skills practically.
- 3) deepen their understanding of clients.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

カウンセリングのトレーニングプログラムであるマイクロカウンセリングに基づいて、カウンセリングの諸技法を体系的に学ぶ。前期は基本的なかわり技法を中心に、各技法の解説、映像教材による技法の観察、小グループでのロールプレイによる練習、振り返り、といった段階により修得した後、試行カウンセリングを行い、より具体的な理解を図る。これを受けて後期は、試行カウンセリングを連続的にを行い、そのプロセスを含めて詳細に検討し、より実践場面にむけた技法の修得とクライアントへの傾聴と共感についての体験的理解を深める。

1-4 オリエンテーション、グループエンカウンター

5-16 基本的なかわり技法：かわり行動、質問技法、はげまし技法、いいかえ技法、感情の反映技法、要約技法、5段階の面接。

17-30 試行カウンセリング(1)：基本的関わり技法を用いた試行カウンセリングの実施、逐語録の作成、スーパービジョン、カウンセリングプロセスの検討など。

31-60 試行カウンセリング(2)：試行カウンセリングの実施、逐語録の作成、スーパービジョン、カウンセリングプロセスの検討を通じて、基本的なかわり技法を基礎とした技法の統合を体験する。

Participants systematically learn counseling techniques based on counseling training program, micro counseling. In the first semester, after acquiring the basic engagement technique, trial counseling is performed using counseling techniques.

In the second semester, trial counseling will be conducted continuously and the process will be examined in detail. Participants will acquire hands-on techniques and deepen their experiential understanding of listening to clients and empathy.

1-4 Orientation, group encounter

5-16 Basic attending skills

17-30 trial counseling 1

31-60 trial counseling 2

5. 成績評価方法/Evaluation method :

討議への参加状況 (60%)、発表とレポート (40%) による。

attitude in class:60%, presentations and final report:40%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

アイヴィら (福原真知子訳) 1999、マイクロカウンセリング基本的なかわり技法、丸善

Ivey A.E., Gluckstern N. B., Ivey M. B., Basic attending skills 3rd edition.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキストの事前講読、修得技法の練習、試行カウンセリングの実施と逐語録の作成

Preliminary reading of text, practice of acquired technique, implementation of trial counseling and creation of serialization

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition:

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。

This class is set up for students in the clinical psychology course.

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

q5yxprg

② 第一回授業の開始時期

4月21日(火) 1限: 8:50 までに掲示

③ 授業の実施方法

オンデマンド方式(動画(音声 p p t) 配信方式)

④ 関連資料の入手方法

授業用の動画・資料は Classroom で紹介

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談 (hideo.ambo.d5@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

10. 更新日付/Last Update:

2020/03/10 13:57:41

科目名/Subject : オープンエデュケーション論合同演習

曜日・講時/Day/Period : 通年 水曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 小嶋 秀樹, 渡部 信一, 熊井 正之, 中島 平, 佐藤 克美, 大河 雄一, 伊 得霞

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育情報デザイン論領域における研究方法の修得
Designing research on educational informatics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育情報デザイン論に関する研究を進める上で求められる基礎的な能力について学ぶ。研究の在り方や意義についての理解、研究方法に関する基礎的な理解、研究論文の書き方や研究発表の方法についての基礎といった多様な視点から、教育情報デザイン論の研究を進める上で修得が強く望まれる事項について学ぶ。

In this course of seminars, students acquire the basic capabilities on designing and proceeding your own research for Master thesis. Topics include, but not limited to, the significance of research activities, how to proceed with your research, how to write reports and thesis, and how to present your work.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

・教育情報デザイン論に関連する研究手法に関する基本的な知識を学び、研究事例から学ぶことや、研究事例を批評することができる。

・自身の研究を進める上で必要な基礎的な研究方法論（研究の進め方、論文の書き方、発表の仕方など）や事例を学び、その後の学修・研究に向けた動機づけや、実践的な教育方法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。

To be able to learn the fundamental methods in the research on educational informatics, and to learn and critically evaluate the existing research cases in this field.

To be able to learn the fundamental skills for conducting and presenting your research, and to motivate yourself for further study and research in this field.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：イントロダクション－趣旨説明・ISTUの活用（小嶋・佐藤）・留学生へのアドバイス（尹）

第2回：研究方法論（1）－認知科学の研究手法（渡部）

第3回：研究方法論（2）－人間科学とロボティクスの融合研究の方法（小嶋）

第4回：研究方法論（3）－コミュニケーション研究の方法（熊井）

第5回：研究方法論（4）－教育現場での研究（佐藤）研究方法の展開（中島）

第6回：研究方法論（5）－研究方法の展開（中島）

第7回：合同セミナー（1）－修士論文中間発表会（参加・聴講）

第8回：研究発表の作法（1）－研究発表の基礎（佐藤）

第9回：合同セミナー（2）－課題研究構想発表会（参加・発表）

第10回：研究発表の作法（2）－統計の基礎（小嶋ほか）

第11回：研究発表の作法（3）－続・統計の基礎（小嶋ほか）

第12回：論文の書き方（1）－論理的な文章の書き方（小嶋）

第13回：論文の書き方（2）－論文執筆の理論と実際（小嶋）

第14回：合同セミナー（3）－課題研究発表会（参加・発表）

第15回：合同セミナー（4）－修士論文発表会（参加・聴講）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時間内で随時行うミニットペーパー（計40%）と複数回の実践演習（論理的な作文、プレゼンテーション等）の出来（計40%）、合同セミナーへの参加態度（計20%）などを総合して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特になし（授業内で資料を適宜配布する）

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

本演習には、教育情報デザイン論分野の専任教員で共担する。

本演習は通年科目であるが、毎月2回（水曜2限）を原則として隔週開講する。スケジュールの詳細は年度初めのオリエンテーションなどで周知する。初回は4/22 水曜2限を予定している。コロナ感染症への対応状況に応じて繰り下げ等が生じた場合は、変更が生じる場合がある。

4回ある「合同セミナー」では、研究発表会等への参加聴講または参加発表を行う。これらの回については当該研究発表会への参加をもって出席とみなす。

研究発表会等のスケジュール等に合わせて、上記の授業内容について一部テーマや実施順序の変更がありうる。

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

vnijt3u

②第一回授業の開始時期

4月22日(水)2限:10:30~(収録動画の配信はその翌日から)

③授業の実施方法

Meet を用いたリアルタイム方式およびオンデマンド方式(収録動画の配信)を併用する。詳細については、初回の授業で説明する。

④関連資料の入手方法

授業用の Meet 接続情報・収録動画・配布資料はすべて Classroom 上で提供する。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

Meet の利用が困難な場合はオンデマンドで視聴すること。それでも困難な場合は xkozima@tohoku.ac.jp に連絡のこと。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 09:00:00

科目名/Subject : 人間形成論実習

曜日・講時/Day/Period : 通年 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 李 仁子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

文化人類学的フィールドワークの実践

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

文化人類学が長年培ってきたフィールドワークによる調査法を学び、各自の調査研究にどのように活かせばよいかを模索する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

各自のテーマに沿ってフィールドワークの具体的な計画を立て、実際に現場に入って調査を実践すると同時に、調査研究の成果発表を通じて調査をめぐる問題点や課題に関して互いに研鑽する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

授業では、フィールドワークに関する基本文献をベースに、フィールドワーク経験者の体験談を交えながら、現地調査の全体像や倫理的問題、参与観察や聞き取りの具体的な方法、フィールドノートのとり方、調査データの整理と分析の進め方、考察のまとめ方等を演習形式で学んでいく。また、各自の調査研究に関する計画発表や成果発表を随時行い、授業参加者全員によるディスカッションを通してフィールドワークに関する実践的な理解を深める。

1 ガイダンス

2～6 現地調査と研究倫理

7～12 参与観察と聞き取り

13～16 フィールドノート

17～23 調査データの整理と分析

24～26 民族誌と記述

27～29 理論と考察

30 総括

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席およびディスカッションへの参加状況（60％）や、各自の調査研究に関する計画もしくは成果の発表（40％）を総合的に判断する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

フィールドワークの計画作りや実際の調査に相応の時間を要する。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

海外へのフィールドワークを行う場合もある。

（Google クラスルーム対応）

① クラスコード

nlzx6uo

② 第一回授業の開始時期

4月23日 16時20分開場

③ 授業の実施方法

・オンライン授業（Google Meet）

・受講希望者は4月22日（水）正午まで、李までDCメールにて連絡をするように（mail@leeinja.net）

④ 関連資料の入手方法

初回の授業にて紹介する。基本的には、Classroomで紹介

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

対応困難な理由に沿って提示する。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/25 09:05:47

科目名/Subject : 教育政策科学合同演習 I

曜日・講時/Day/Period : 通年 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 井本 佳宏, 福田 亘孝, 島 一則, 青木 栄一, 後藤 武俊

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育政策科学研究法 1 / Research Methods in Education Policy 1

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育社会学、教育行政学、比較教育学、教育経済学の観点から、修士論文作成に向けた課題設定や文献研究についての指導を行う。より具体的には、参加者が各自の研究テーマに即して報告し、論文の執筆や研究を進めるために必要な知識や手法をアドバイスするための授業である。教育政策科学コース前期課程 1 年次学生の課題研究論文執筆のための研究指導を主たる目的とする。 / This course introduces the research methods in education policy from a viewpoint of educational sociology, educational administration study, comparative education study, and educational economics. In each lesson, participants report based on their own themes of research. The advice for improving paper writing is given to each report. This course is for 1st-year students in master's course program.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

受講学生は、学術水準の高い論文を執筆するために必要な力量を形成する。 / The goal of this course is to be able to write high-quality academic papers.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1 回 : 授業概要の説明、2~14 回 : 受講学生による報告と研究指導、15 回 : 授業の振り返りと最終成果報告 / 1. Orientation, 2-14. Reports by Students, 15. Reflection

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への貢献度による / Grading will be decided based on class attendance and attitude in class.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特になし

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については各回の報告内容や関連文献に基づいて、適宜指示する。 / The directions about preparation and review are given based on the contents and related literature of each report.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

本授業の評価については、課題研究論文とは別に行うので注意されたい。 / Notice: Participants are evaluated in this course independently of the evaluation of other research papers.

(Google クラウド対応)

① クラスコード

nu5jx5e

② 第一回授業の開始時期

・第 1 回授業の開始時期 : 4 月 23 日 (木) 16:20~

③ 授業の実施方法

・授業の実施方法 : Meet を用いた双方向授業とオンデマンド方式 (動画配信方式) の併用。

・詳しくは Slack の「教育政策科学コース教職員・院生」ワークスペース内の「合同ゼミ」チャンネル上に説明を掲示するので、第 1 回授業の前日までに確認しておくこと。

④ 関連資料の入手方法

・授業用の資料は各回の授業日までに Slack の「教育政策科学コース教職員・院生」ワークスペース内の「合同ゼミ」チャンネル上で紹介。

・授業用の動画はリアルタイムの授業実施後、メンバーのみアクセス可能な Google Drive の本授業用共有フォルダにて共有。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・個別に相談に応じる。

・オンラインでの受講が困難な事情説明を、DC メールを使って 4 月 22 日 (水) 正午までに井本 (imoto@tohoku.ac.jp) へ連絡すること。

⑥ その他

教育政策科学コースの M1 は必ず履修すること。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/09 16:39:04

科目名/Subject : 教育政策科学合同演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 通年 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 井本 佳宏, 福田 亘孝, 島 一則, 青木 栄一, 後藤 武俊

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育政策科学研究法 2 / Research Methods in Education Policy 2

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育社会学、教育行政学、比較教育学、教育経済学の観点から、修士論文作成に向けた課題設定や文献研究についての指導を行う。より具体的には、参加者が各自の研究テーマに即して報告し、論文の執筆や研究を進めるために必要な知識や手法をアドバイスするための授業である。教育政策科学コース前期課程 2 年次学生の修士論文のための研究指導を主たる目的とする。 / This course introduces the research methods in education policy from a viewpoint of educational sociology, educational administration study, comparative education study, and educational economics. In each lesson, participants report based on their own themes of research. The advice for improving paper writing is given to each report. This course is for 2nd-year students in master's course program.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

受講学生は、学術水準の高い論文を執筆するために必要な力量を形成する。 / The goal of this course is to be able to write high-quality academic papers.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1 回 : 授業概要の説明、2~14 回 : 受講学生による報告と研究指導、15 回 : 授業の振り返りと最終成果報告 / 1. Orientation, 2. ~14. Reports by Students, 15. Reflection

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への貢献度による / Grading will be decided based on class attendance and attitude in class.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特になし

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については各回の報告内容や関連文献に基づいて、適宜指示する。 / The directions about preparation and review are given based on the contents and related literature of each report.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

本授業の評価については、修士論文とは別に行うので注意されたい。 / Notice: Notice: Participants are evaluated in this course independently of the evaluation of other research papers.

(Google クラウド対応)

① クラスコード

5k2ma52

② 第一回授業の開始時期

・第 1 回授業の開始時期 : 4 月 23 日 (木) 16:20~

③ 授業の実施方法

・授業の実施方法 : Meet を用いた双方向授業とオンデマンド方式 (動画配信方式) の併用。

・詳しくは Slack の「教育政策科学コース教職員・院生」ワークスペース内の「合同ゼミ」チャンネル上に説明を掲示するので、第 1 回授業の前日までに確認しておくこと。

④ 関連資料の入手方法

・授業用の資料は各回の授業日までに Slack の「教育政策科学コース教職員・院生」ワークスペース内の「合同ゼミ」チャンネル上で共有。

・授業用の動画はリアルタイムの授業実施後、メンバーのみアクセス可能な Google Drive の本授業用共有フォルダにて共有。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・個別に相談に応じる。

・オンラインでの受講が困難な事情説明を、DC メールを使って 4 月 22 日 (水) 正午までに井本 (imoto@tohoku.ac.jp) へ連絡すること。

⑥ その他

教育政策科学コースの M2 は必ず履修すること。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/09 16:41:45

科目名/Subject : 国際教育共同実習

曜日・講時/Day/Period : 通年 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 松本 大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

地域づくり支援における「社会教育的専門性」

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

いわゆる地域づくりの過程や方法は、多くの場合ある種の社会教育や成人教育の形態を伴うが、一方で社会教育研究・成人教育研究はこれまで必ずしも地域づくり支援の専門性や技法を十分に検討してきたわけではない。そこでこの授業では、社会教育関係職員やコーディネーターが地域づくりを支援するとき、その方法論の教育学的な固有性や専門性はどこにあるのかを考察する。地域づくり支援における社会教育・成人教育固有の専門性の探究である。

担当者と受講者による共同の調査を予定しているが、具体的な調査対象・調査時期は決まり次第周知する。そのため、通年の科目になっているが、実際には夏もしくは秋以降に開始する予定である。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- (1) 地域づくりをめぐる国内外の社会教育研究・成人教育研究の研究動向を理解できる。
- (2) 教育や学習支援に関する専門性の意味を社会教育・成人教育研究の観点から考察できる。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- (1) 地域づくりや学習支援に関する社会教育・成人教育の先行研究を受講者と共に検討する。
- (2) 研究方法の基礎を担当者が講義する。調査方法は質的調査法を予定している。
- (3) 調査内容を具体的に検討し、調査を実施する。
- (4) 調査結果を分析し、考察をまとめる。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (50%)、レポート (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：なし。

参考書：授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

学外での調査を実施し、調査結果を検討、整理、考察する。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

- (1) 正規の授業日程以外で調査を行うことを予定している。
- (2) 実際に授業を行うのは夏以降であるが、受講希望者は5月までに松本に履修の意思を伝えること。

(Google クラウド対応)

① クラスコード

r3n7ss2

② 第一回授業の開始時期

- ・第一回目の授業は4月24日(金) 14:40~から実施

③ 授業の実施方法

- ・授業はGoogle Meet もしくは zoom によるリアルタイム方式で行います。
- ・受講希望者は4月24日(金) 13時までに松本までDCメールにて連絡してください (matsumoto.dai@gmail.com)。

④ 関連資料の入手方法

- ・授業の資料についてはClassroomにアップロード、もしくはメールで送付予定。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・松本までDCメールにて連絡してください (matsumoto.dai@gmail.com)。個別に対応します。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/18 14:50:07

科目名/Subject : 臨床心理実習Ⅲ (心理実践実習Ⅱ)

曜日・講時/Day/Period : 通年集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 若島 孔文, 加藤 道代, 安保 英勇, 吉田 沙蘭, 前田 駿太, 砂川 芽吹

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理実習 / Clinical Psychology (Practice)Ⅲ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理臨床の専門性を有した援助と連携について、実習を通じて学習する。 / In this subject, students will learn about specialized support methods and cooperation in clinical psychology.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

実際の心理面接を遂行できること、また、他機関との連携ができること。 / The goal is to allow students to conduct actual psychological interviews and to be able to collaborate with other organizations.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

実習講義事前指導、学外実習施設（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野）、学内相談施設（臨床心理相談室における心理面接、ケース検討、スーパービジョン）での実習を軸に進める。

1. ～30. を通じて、以下の内容について実習を通じて学習する。

心理に関する支援を要する者等に関する知識および技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携および地域連携、職業倫理および法的義務 /

This subject is practical training in the Clinical Psychology Counseling Room in Tohoku University and the outside institution (health and medical field, welfare field, education field, legal field, industry field).

Through practical training, learn about specialized knowledge and skills (communication, psychological assessment, psychotherapy, regional support, etc.), professional understanding needs, preparing support plans, professional team approach, multi-occupation collaboration and regional collaboration, professional ethics and legal obligations.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

学内・学外両実習の活動状況（70%）および期末レポート（30%）で総合的に判断する。 / Evaluate by activities and submission of several reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

実習先等に関する資料を随時、提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各実習先の概要および関連する法律の調査、実習記録の作成。 / Preparation of practical training and preparation of report

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business ○

9. その他/In addition :

この授業は臨床心理学コースの学生のために開講されている。

実習先に関する詳細は別紙にて配布する。

(Google クラウドルーム対応)

① クラスコード

dr5fv5f

② 第一回授業の開始時期

・第一回目の授業は4月23日（木）16:20～から実施

③ 授業の実施方法

・授業はGoogle Meetを使用し行う予定

④ 関連資料の入手方法

・授業の資料については、授業開始前までに共有ドライブにアップロード予定（受講希望者を招待する）。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・オンライン授業への参加が困難な学生については、若島までメールにて連絡をするように (kobun.wakashima.d3@tohoku.ac.jp)。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 11:00:37

科目名/Subject : 教育情報学応用論特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2020 倉元 直樹

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

Advanced Lecture on Application Theories of Educational Informatics I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

データを収集し、計量的方法を用いて分析するテクニックは、テーマによらず実証的研究の方法論的基礎である。言うまでもなく、教育現場において児童・生徒の学習成果の評価を行う際にも必須である。一方、教育評価に関わる技術を理論的に整然と学ぶ機会は多くはない。受講者の中には具体的なデータ解析手法や教育評価論の既習者もいるだろうが、単なるハウツーや抽象的観念の集積では教育現場において適切な応用はできない。さらに、データ解析法を全く経験せずに進学してきた者にとっては、e-ラーニング、対面授業を問わず、本講義は将来の教育実践の大切な基礎となる方法論を学ぶ機会である。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育評価の基礎となる統計的方法の基礎的な概念を身につける。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 教育評価と教育測定：目的と位置づけ
2. ヒストグラム・累積度数折線による教育評価の図的表現
3. 教育評価の数値的表現 1：数値による分布の要約（モーメント系）
4. 教育評価の数値的表現 2：数値による分布の要約（分位数系）
5. 複数の教育評価結果の関係性
6. 教育評価の構造と予測
7. 教育測定の基礎理論と古典的テストモデル 1 妥当性の定義と検証
8. 教育測定の基礎理論と古典的テストモデル 2 信頼性の定義と検証
9. 初等統計学の数学的基礎 1：確率
10. 初等統計学の数学的基礎 2：二項分布・正規分布
11. 評価結果の一般化 1：統計的仮説検定
12. 評価結果の一般化 2：期待値
13. 評価結果の一般化 3：標本平均の分布
14. 教育評価のための統計手法各論 1：2 群の母集団平均値の差に関する検定
15. 教育評価のための統計手法各論 2：さまざまな検定

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席点（40%程度）、課題提出状況（課題成績）（30%程度）、期末テスト（30%程度）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

[教科書]

なし（自作の授業ノート）

[参考書]

中村知靖、松井仁、前田忠彦共著、2006 年、心理統計法への招待、サイエンス社

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8 回のレポートを課す予定。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他/In addition :

初回の講義で授業運営方針について説明する。

（Google クラウド対応）

① クラスコード

tbugv25

② 第一回授業の開始時期

- ・ISTU（4/15 [水] 以降、可能な限り早くで配信予定）
- ・初回、第 1 回～第 3 回の授業は公開、それ以後は受講者のみ限定

③ 授業の実施方法

- ・ISTU によるオンデマンド方式（出席点有）
- ・8 回出題するレポートはメールで送付のこと（※切厳守）

④ 関連資料の入手方法

- ・ISTU から各自ダウンロード

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・ISTU へのアクセス法が分からない者はClassroomにアップロードされている「授業ノート（第1回）」を参照のこと
- ・ISTU に関する問い合わせは<http://help.istu3g.dc.tohoku.ac.jp/access.html>

⑥その他

- ・授業内容に関する問い合わせについては第1回の授業動画で説明
- ・一部、重大な誤りが有るので、事前にClassroomにアップロードされている「【重要】動画（第1回）の誤りについて」を参照のこと

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 15:02:09

科目名/Subject : 人間形成学合同演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2020 李 仁子, 八鍬 友広, 池尾 恭一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
人間形成学の研究方法
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
人間形成の本質およびその動態的な展開過程についての洞察力を育成することを目的として、哲学・歴史学・文化人類学などの方法により、人間形成研究の事例に関する合同の演習をおこなう。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
教育および人間形成を総合的に理解することができる。
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**
 - 1 回 「ガイダンス」
 - 第 2 回～ 4 回 : 教育哲学の研究方法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 李)
 - 第 5 回～ 7 回 : 教育思想史の研究方法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 池尾)
 - 第 8 回～ 10 回 : 日本教育史の研究方法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 八鍬)
 - 第 11 回～ 14 回 : 教育人類学の研究方法～教育現実の事例に即して～ (1) (担当: 李)
 - 第 15 回 : 全体討議、まとめ
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
「討論への参加 (50%) およびレポートの内容 (50%)」によって評価する。
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
初回の授業で提示する。
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
(Google クラウドルーム対応)
 - ① クラスコード
ad2kts
 - ② 第一回授業の開始時期
講座の先生たちと 5 月 11 日からの開始を考えている。
 - ③ 授業の実施方法
 - ・ オンライン授業 (Google Meet)
 - ・ 受講希望者は 5 月 10 日 (水) 正午まで、李まで DC メールにて連絡をするように (mail@leeinja.net)
 - ④ 関連資料の入手方法
初回の授業にて紹介する。基本的には、Classroom で紹介
 - ⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策
対応困難な理由に沿って提示する。
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/25 09:01:20

科目名/Subject : 多文化教育論概論**曜日・講時/Day/Period :** 前期 月曜日 2 講時**担当教員/Instructor :** 2020 渡部 由紀, 末松 和子**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :** 日本語**1. 授業題目/Class subject :**

グローバル化と高等教育の国際化

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

グローバル化及び知識基盤社会の進展とともに、国内外で指導的人材として活躍する、いわゆる高度専門グローバル人材育成を目指した高等教育改革が世界規模で進みつつある。例えば、世界銀行やアジア開発銀行などの国際開発金融機関は、その投資を初・中等教育から高等教育に移行し、欧州委員会などの地域連合政策執行機関は、地域的な高等教育圏を構築し、欧州域内の高等教育の質と競争力の向上を目指している。

本授業では、グローバル化の高等教育への影響を分析し、グローバル化に対応するために、大学や高等教育機関が促進する国際化の課題及び概念的フレームワークへの理解を深めると同時に、国や地域レベルの高等教育政策や、大学の高等教育機関における具体的な国際化の戦略や施策等について考察する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・ 高等教育におけるグローバル化と国際化に関する主要な概念を理解する。
- ・ グローバル化及び知的基盤社会の進展における、高等教育の役割を探索する。
- ・ 国内外の高等教育政策における、国際化施策に関する知識をもとに、日本の大学の国際化政策を批判的に分析し、国際社会およびグローバル化・多様化する社会に必要な教育課題を発見する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 グローバル化と高等教育への影響
- 第3回 高等教育の国際化の概念的フレームワーク
- 第4回 高等教育の国際化の目的
- 第5回 学生の国際的なモビリティ
- 第6回 教育の国際化とグローバル人材育成
- 第7回 教育の国際化と留学生教育・支援
- 第8・9回 教育の国際化を再考しケースに学ぶ
- 第10回 アカデミック主要言語としての英語
- 第11回 トランス・ナショナル・プログラム
- 第12回 高等教育の国際化とODA
- 第13回 高等教育の国際化と質保証
- 第14回 新しい高等教育のモデル
- 第15回 まとめ：ファイナルレポート提出

5. 成績評価方法/Evaluation method :

- 1. 授業の参加・貢献度 + ショートプレゼンテーション 65%
- 2. プレゼンテーション・レポート 35%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は特に定めませんが、授業に沿った参考図書を教材とする。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業でのディスカッションに貢献できるよう参考図書等を精読し準備すること

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウドルーム対応)

① クラスコード

sqce26g

② 第一回授業の開始時期

- ・ 4月27日(月) 2限: 10:30 から実施。
- ・ 4月20日(月) 2限までに授業内容の説明動画を Google Classroom に掲載予定。科目履修を決める参考にしてください。

③ 授業の実施方法

- ・ Meet 等を用いた双方向授業。
- ・ 4月27日の初回授業 (Meet 会議) の実施方法は、4月20日(月)に Classroom に掲載します。

④ 関連資料の入手方法

- ・授業用の資料は、Google Classroom の Google Drive で共有

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・オンライン授業への参加が困難な学生については、4 月 23 日（木）正午までに渡部までDCメールにて連絡をするように（yuki.watabe.c6@tohoku.ac.jp）。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/27 19:56:23

科目名/Subject : 教育心理学概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 深谷 優子, 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

日本における教育心理学研究の諸問題

Problems in Educational Psychology Research in Japan

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育心理学研究の諸問題およびわが国におけるそれらの研究動向について学ぶ。本授業では、わが国における教育心理学研究の各部門の研究動向について、主に日本語で公開された展望論文（査読付）を用いながら検討する。

The aim of this course is to help students acquire current educational psychology research trends in Japan.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育心理学研究の諸問題について学ぶ。
- ・展望論文のスタイルについて学ぶ。

The students are expected to 1) Read the paper that they are responsible for presenting 2) Prepare for their presentation.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：展望論文とは

第2回～第7回：教育心理学年報掲載の論文の報告・討議

第8回～第14回：児童心理学の進歩掲載の論文の報告・討議

第15回：まとめ

(1) What is a review?

(2) ～(8) Reports and discussions of papers published in “The annual report of educational psychology in Japan” .

(9)～(14) Reports and discussions of papers published in “Annual review of Japanese child psychology” .

(15) Review

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献（70%）、期末レポート（30%）により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(70%) and term paper(30%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教育心理学研究年報 “The annual report of educational psychology in Japan”

児童心理学の進歩 “Annual review of Japanese child psychology”

その他授業中に適宜参考書を紹介する。

Will be introduced in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・査読付の展望論文を読む。
- ・簡潔に発表できるよう、レジюме作成と発表準備を行う。

The students are expected to 1) Read the paper that they are responsible for presenting 2) Prepare for their presentation.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: “○”Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウドルーム対応)

①クラスコード

6rccx6s

②第一回授業の開始時期

4月20日（月）3限 13:00～

③授業の実施方法

- ・Meet を用いた双方向授業の予定。詳細はClassroomで連絡する。
- ・受講希望者は授業開始前までにクラスコードを用いて登録を済ませておくこと。授業開始 5 分前までには、Classroom に会議の案内を掲示する。

④関連資料の入手方法

授業用の資料はClassroomで共有する。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に対応する。4月19日（日）までに深谷（yuko.fukaya.a7@tohoku.ac.jp）に連絡すること

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/26 17:43:37

科目名/Subject : 教育アセスメント特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 松林 優一郎

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

自然言語処理学入門

Introduction to Natural Language Processing

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

人間によって生み出されるテキストは、その知的活動の表出と見ることができる。テキストをデータ解析することによる教育アセスメントの試みは、小論文問題等、試験問題の自動採点を代表として近年盛んに研究されている。本特論では、テキストデータ解析に必要な自然言語処理の基礎知識を学ぶ。

Texts produced by humans can be viewed as the manifestation of their intellectual activity. Attempts at educational assessment by analyzing text data have been actively studied in recent years, as represented by automatic scoring of exam including essay scoring. In this course, students learn basic knowledge of natural language processing necessary for text data analysis.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

形態素解析、構文解析、意味解析、言語知識獲得など、自然言語処理の様々な基盤技術を幅広く理解する

The goal of this course is to understand fundamental technologies in natural language processing including part-of-speech tagging, syntactic parsing, semantic parsing, and lexical knowledge acquisition.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 自然言語処理概説
- 第2回 分類問題の学習
- 第3回 品詞解析
- 第4回 プログラミング演習
- 第5回 プログラミング演習
- 第6回 構文解析 (1)
- 第7回 構文解析 (2)
- 第8回 意味解析
- 第9回 単語埋め込み
- 第10回 Feedforward ニューラルネットワーク
- 第11回 文構造のためのニューラルネットワーク
- 第12回 プログラミング演習
- 第13回 機械翻訳
- 第14回 質問応答
- 第15回 総論

- Lecture 1 Introduction to natural language processing
- Lecture 2 Learning on classification problem
- Lecture 3 Part-of-speech tagging
- Lecture 4 Programming Exercise
- Lecture 5 Programming Exercise
- Lecture 6 Syntactic parsing 1
- Lecture 7 Syntactic parsing 2
- Lecture 8 Semantic parsing
- Lecture 9 Word embeddings
- Lecture 10 Feedforward neural networks
- Lecture 11 Neural networks for sentence structure
- Lecture 12 Programming Exercise
- Lecture 13 Machine translation
- Lecture 14 Question answering
- Lecture 15 Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

適宜行う小レポート (50%) + 最終レポート (50%)

Several assignments (50%) + Final project (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義毎に適宜資料を配布する。

[参考書] (購入は必須ではありません)

Materials will be distributed as needed for each lecture.

[Reference book] (Purchase is not required)

Daniel Jurafsky & James H. Martin. Speech and Language Processing, Second Edition. Pearson, 2009.
Christopher

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

適宜小レポートの提出を求める

Students need to submit three to four assignments.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

gxuxhv6

②第一回授業の開始時期

4月20日 (月) 3講時

③授業の実施方法

Zoom、Meet 等によるオンライン授業 および Google Classroom によるアーカイブ配信

④関連資料の入手方法

オンライン授業の実施方法は配布資料は Classroom で共有

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

ウェブ会議による授業欠席の場合は、授業スライド PDF の閲覧と各授業毎のレポート課題提出をもって出席に換える。個別に相談するので y.m@tohoku.ac.jp へ連絡のこと。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 19:44:32

科目名/Subject : 教育情報学実践論特論Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 山下 祐一郎 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

情報セキュリティ教育の動画学習を実践するための知識・技能について

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業では、ICT (Information and Communication Technology) 活用指導力において必要不可欠な情報リテラシーと授業設計について学ぶ。特に、ICT 活用指導力の柱のひとつである情報セキュリティ教育に焦点を当てる。情報セキュリティ教育を実践するためには、まず、基本的な情報セキュリティに関する知識が必要である。そこで、授業の前半では、基礎的な情報セキュリティについて確認をする。授業の後半では、動画学習を設計するための知識と技能を、ビデオ作成を行いながら身に付けていく。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・ICT 社会に必要な情報セキュリティに関する知識について説明できる
- ・情報セキュリティを学習するための動画授業を設計することができる
- ・スクリーンキャストアプリなどを用いて動画を作成することができる

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション (情報セキュリティと動画授業の実践について概観する)
2. 情報セキュリティの基盤となる情報技術 (主にコンピュータとネットワーク) について主要な点を説明する
3. 情報セキュリティは機密性・完全性・可用性を満たす必要がある。また、リスクと脅威は別である。さらに、悪意ある人はどのように攻撃をしてくるのだろうか。これらについて講義を行う。
4. 教育の情報化について
5. 学校教育において情報セキュリティはどのように扱われているのかを概観する。加えて、情報セキュリティ教育によく用いられている手段として動画による学習がある。その手法についても概観する。
6. 作成する動画のテーマを決める (テーマは情報セキュリティに関すること)
7. 教材作成の基礎・学習目標を決める
8. 課題分析表を作る
9. 指導方略表を作る
10. 絵コンテを作る
11. コンテンツ作成の機器操作
12. 撮影・編集(1)
13. 撮影・編集(2)
14. 教材の確認とデジタル教科書
15. まとめと発表会 (作成した動画を学生同士で見せ合う)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業内の活動 (例えば、リフレクションシート、動画作成に関する成果物、ディスカッションなど) から判断する

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

必要な資料は講義の中で配布もしくは紹介する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業に関して予習と復習を行うこと。具体的な内容については、各授業回において指示をする。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウドスルーム対応)

① クラスコード

cjzle3p

② 第一回授業の開始時期

4/20 3 限目 (13:00-) を授業開始とする。

③ 授業の実施方法

Google Classroom と Meet を利用する。

④ 関連資料の入手方法

Google Classroom にて紹介予定

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

受講生が少ないと思うので学生と相談して決める。基本方針は、Meet の画面を動画化しておき、後日視聴をしてもらう。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/20 13:16:51

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 末松 和子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

多文化教育論研究演習 I Seminar I: Research on International Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

高等教育におけるカリキュラムの国際化、多文化教育、国際共修、留学生教育等の分野において、先行研究のレビューを中心に現状と課題を整理する。リサーチクエスチョンを設定し、研究の内容に沿った検証方法を検討し、研究計画を立てるための準備を行う。

This seminar provides students with an opportunity to explore research on international education such as internationalization of curriculum, intercultural/multicultural education, intercultural collaborative learning, and education and support for international students. Based on the basic literature review, students will identify some "issues" in the field of their academic interest and gain insights into appropriate research methodologies in order to address the issues.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・関心のある研究分野の文献に精通する
- ・先行研究レビューをもとに検証すべき課題を設定する
- ・定性的研究を中心に調査方法を学ぶ

Students should become able to

- carry out literature review
- find issues from the previous studies
- learn how to conduct qualitative research

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：授業の概要説明、ディスカッション

第2～6回：先行研究レビュー

第7～9回：リサーチクエスチョン設定

第10回～13回：研究方法

第14回：研究計画書

第15回：授業の振り返りと最終発表

1st Class: Introduction of the seminar and expectations for the students taking this seminar

2nd-6th class: Literature review

7th-9th class: Research questions

10th～13th class : Research methodologies

14th: Research proposal

15: Reflection and final presentation

5. 成績評価方法/Evaluation method :

課題（レポート）50%、ディスカッションへの貢献 30%、最終プレゼンテーション 20%

Assignments (reports) 50%, Contribution to class discussions 30%, Final presentation 20%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。授業内で文献等を教材として配布する。

Will be provided in class

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業に貢献できるよう予習すること

Students are encouraged to become independent learners

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

① クラスコード

gdqzkcs

② 第一回授業の開始時期

4月26日3限13:00～

③授業の実施方法

MEET

④関連資料の入手方法

Classroom

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

メール（末松和子 <kazuko.suematsu.a3@tohoku.ac.jp>）

10. **更新日付/Last Update :**

2020/03/19 11:48:16

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 渡部 由紀

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
文献調査研究 I
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
多文化教育論研究演習 I・II は、グローバル共生教育論・多文化教育論コースを専攻する前期課程学生の課題研究論文・修士請求論文のための研究指導を主たる目的としたゼミである。演習 I では、多文化・国際教育研究の領域において、受講生が各自研究テーマを設定し、研究論文を批判的かつ建設的に読み、文献レビューを書く力を身につける。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
 - 1) 多文化・国際教育研究領域の研究論文を批判的かつ建設的に評価分析ができる。
 - 2) 主要調査文献リストを作成する (20 件以上)。
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
 - 第 1 回 授業概要の説明
 - 第 2 回～3 回 研究テーマおよび文献リストの作成
 - 第 4 回～14 回 受講学生による報告と討議
 - 第 15 回 授業の振り返りと最終成果報告
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
 - 30% 授業への参加・貢献
 - 30% 発表
 - 40% 文献調査分析報告書
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
教科書は特に定めないが、授業に沿った参考図書を適宜紹介する。
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
学習目標の到達に必要な学習
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
 - ① クラスコード
p5jmkyo
 - ② 第一回授業の開始時期
・ 4 月 27 日 (月) 3 限: 13:00 から実施。
 - ③ 授業の実施方法
・ Meet 等を用いた双方向授業。
・ 4 月 27 日の初回授業 (Meet 会議) の実施方法は、4 月 20 日 (月) に Classroom に掲載します。
 - ④ 関連資料の入手方法
・ 授業用の資料は、Google Classroom の Google Drive で共有
 - ⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策
・ オンライン授業への参加が困難な学生については、4 月 23 日 (木) 正午までに渡部まで DC メールにて連絡をするように (yuki.watabe.c6@tohoku.ac.jp)。
10. **更新日付/Last Update :**
2020/02/15 13:57:32

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 高橋 美能

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

多文化共生と教育

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業は、クラスという1つのコミュニティに参加する一人ひとりの間に「多文化共生」の関係性を構築するため、いかなる教育実践が効果的であるのかを考えることを目的としている。具体的には、学習環境、教育方法、学習テーマの3つの観点から、多文化共生実現に向けた教育実践を検討する。

授業では教育現場における実践に興味のある学生、および自身の研究テーマと関連のある学生を対象に、まずは多文化共生とは何かを考え議論する。そして、自身の研究テーマと多文化共生の関係性を考察する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 多文化共生社会の構築に必要な教育のあり方を考える。
2. 多文化共生と自身の研究の関係性を考え、文献収集、および分析、発表を通じて自身の研究を深める。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

初回の授業はオリエンテーションで授業概要の説明、および自身の研究分野等の自己紹介を行ってもらう。2回目の授業以降は、議論や文献収集を行いつつ、定期的に自身の研究発表を行ってもらう。最後には自身の研究成果をレポートにまとめ、提出を求める。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席および議論への参加度 (30%)、発表 (30%)、レポート (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表の準備、およびレポート作成にかかる時間

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 11:02:22

科目名/Subject : 教育行政学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 後藤 武俊

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育政策研究の基盤的知識としての政治哲学/Political Philosophy as the Basic Knowledge for Education Policy Studies

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

政治哲学の基礎的諸概念（社会正義、自由、平等、民主主義等）を理解し、当該知識を用いて、教育制度・政策に関する規範的判断の論拠を適切に分析できるようになることを目標とする。/The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts of political philosophy (social justice, freedom, equality, democracy and so on). It also enhances the development of students' skill in analyzing normative justification behind education policies by using those concepts.

NOTICE: This course will be taught in Japanese.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・政治哲学の基礎的諸概念を理解できるようになる。
- ・政治哲学の基礎的諸概念を用いた論文を正確に読みこなせるようになる。
- ・政治哲学の基礎的諸概念を用いて適切な論証を行えるようになる。

/--The goals of this course are to

- 1) understand the basic concepts of political philosophy.
- 2) obtain the skill to read correctly the articles using the concepts of political philosophy.
- 3) obtain the skill to discuss thoughts by using the concepts of political philosophy.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

テキスト・参考書に挙げた図書を輪読するかたちで進めていく。論点・疑問点をまとめた資料（ワークシート）を毎回作成して持参することが求められる。/We will discuss the contents of the textbooks. Participants are required to write their impressions, thoughts and questions for the textbooks on the worksheet every week.

1. オリエンテーション
2. ラディカル・リベラリズムの枠組み
3. ジェンダー
4. 多文化主義
5. セグリゲーション
7. 学校選択
8. 政治理論の始め方／政治とは何か？
9. 「私の勝手」で済むか？／どうして助け合わなければいけないのか？
10. あなたも「不正義」に加担している？／みんなで決めたほうがよい？
11. 多数決で決めればよい？／民主主義は国境を越えるか？
12. 「私」とは誰か？／私は何をどこまでできるのか？／できないのか？
13. 「私のこと」も政治か？／「国民である」とはどういうことか？
14. 異文化体験でわかりあえるか？／公共性はどこにある？
15. 「市民である」とはどういうことか？／まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ワークシートへの評価（60%）、最終レポート（40%）

/Your overall grade in this class will be decided based on the following:

- Quality of comments written in worksheet: 60%
- Final report: 40%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- ・ハウ, K. (大桃敏行・中村雅子・後藤武俊訳)『教育の平等と正義』東信堂。
- ・田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望 (2017)『ここから始める政治理論』有斐閣。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキストの熟読およびワークシートの作成。/ Reading textbooks and writing comments on worksheet.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

【使用言語】

日本語のみ。 / This course will be taught in Japanese

【その他】

E-mail: taketoshi.goto.a8@tohoku.ac.jp

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

iifonjv

②第一回授業の開始時期

第1回：4月20日（月）14:40～

③授業の実施方法

- ・リアルタイム型（Google Meet を使用）

④関連資料の入手方法

- ・googole classroom から入手すること

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・通常の課題に加えて、補足の課題提出とメールでのやりとりで対応する

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 11:49:10

科目名/Subject : スポーツ文化論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 甲斐 健人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

スポーツ・体育社会学研究の構想と展開

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、関連領域を含めたスポーツ社会学、体育社会学領域の文献を取り上げ、検討する。あわせて、各自の研究課題にそって、事例研究および学術論文の作成を進めていくための研究発表と討論を行う。

Those who take this advanced seminar will advance their own research through introduction of literature in relevant areas and presentation of their own research, and discussion based on them.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

研究対象についてのアプローチの方法や分析視点をみにつけ、学術論文作成の技法を学ぶ。

After taking this advanced seminar, you should be able to :

①Prepare the thesis and research presentation at academic societies.

②Describe theories and the research trends on your own research themes.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

各自の研究課題にそって、研究の構想や展開、実証的研究の進め方等について報告し、参加者で検討する。

問題意識を作る

研究課題の設定

研究計画の策定

実証的研究の方法

論文作成

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席（50%）と報告内容（50%）によって評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

適宜指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

適宜指示する

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

（Google クラウドルーム対応）

①クラスコード

r57m67f

②第一回授業の開始時期

4月20日（月）13:00開始

③授業の実施方法

google meet を想定。ただし、何らかの形で円滑な授業運営が難しい場合は別の対応を検討する。受講希望者は4月19日（日）までに甲斐までDCメールで連絡のこと（taketo.kai.a2@tohoku.ac.jp）。

④関連資料の入手方法

検討中。追って連絡する

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

連絡の際に、その旨を申し出ること。

⑥その他

授業担当者はMe e t等を利用した活動はほぼ初めてであり、円滑な授業運営が難しい場合は代替案をとる可能性がある。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/17 14:47:50

科目名/Subject : Practical English for Education

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 LEIS ADRIAN PAUL (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class subject :

Practical English for Educational Sciences

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

In this course, we will look at skills required for speaking in public as well as participating in discussions.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

At the end of the course, you will be able to confidently lead and participate in lectures, poster sessions, and workshops.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1 回目 Course explanations, What makes a good public speaker?

2 回目 Flow of a presentation, Presentation sandwich, Citations, references, and using pictures in your presentation

3 回目 The Introduction, Importance of the Introduction, Background information + Thesis statement, Telling a story, Finding ideas for research, Explanation of Assignment 1

4 回目 Presentation 1 (3 minutes)

5 回目 The Body 1 Research Questions, Describing the Study (methodology, participants, etc.), Figures & Tables

6 回目 The Body 2 Discussion the results of your study, Importance of three main points (with the strongest point last), Why did you find these results?, What is interesting for the listener?, What implications are there from the results of this study?

7 回目 Presentation 2 (8 minutes)

8 回目 The Conclusion 1, What is the purpose of the conclusion, What are limitations?, What are future directions?

9 回目 The Conclusion 2, Telling a story to finish, One big story (referring back to the introduction), Finishing strong

10 回目 Presentation 3 (3 minutes)

11 回目 Performing under pressure, Making a good impression, When you are not prepared

12 回目 Presentation 4: Impromptu Presentation

13 回目 Who is listening?, Changing the language and style of your presentation to match your audience, Bilingual presentations, Design of slides, Using humor

14 回目 Final presentations

15 回目 Final presentations

5. 成績評価方法/Evaluation method :

Presentations 1-4 30%

Weekly Quizzes 20%

Final Presentation 40%

Participation 10%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

なし

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事前に配布する資料を勉強しておくこと。Handouts and information regarding the next week's lesson will be distributed in class. Make sure you read the material beforehand. Materials will include videos to watch online.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

You must attend class each week. If you are going to be late or absent, contact the lecturer beforehand. A maximum of three absences will be allowed. If you are absent four or more times, you will not be able to pass the course.

(Google クラウド対応)

① クラスコード

1h2s7jm

② 第一回授業の開始時期

授業は Google Meet で行う。

③授業の実施方法

1 回目の授業（4 月 2 0 日）に詳しく説明する。

毎週の授業は月曜日 16:20~17:50 に行われる。

④関連資料の入手方法

授業用の資料は Classroom で紹介する。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に対応する。adrian@staff.miyakyo-u.ac.jp へ連絡のこと。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/20 13:14:11

科目名/Subject : 発達心理学概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 長谷川 真里

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
道徳性・向社会性発達研究の展開 / New perspectives on moral and prosocial development
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
道徳性・向社会性発達研究の基本文献を読み、最新の文献を批判的にレビューすることを通して、研究の動向を知る。
/This course aims to describe the current trends in developmental studies on childhood through intensive reading of the basic literature and latest research papers on moral and prosocial development.
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
道徳性・向社会性発達研究の基礎的な理論、および最新の研究動向を理解する。この領域の発達研究の手法を身につける。
/At the end of the course, students should be able to grasp the various basic theories and current issues, as well as study methods, in moral and prosocial development.
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
毎回、報告担当者がレジュメを作成する。
第1回 オリエンテーション
第2-5回 道徳性発達研究の基本文献
第6-7回 向社会性発達研究の基本文献
第8-10回 道徳性発達の最新の研究
第11-13回 向社会性発達の最新の研究
第14, 15回 まとめ
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
発表および授業への参加・貢献(70%), 期末レポート(30%)により評価する。
/ Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(70%) and term paper(30%).
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
授業中に指示する。
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
あらかじめ資料を読み、議論の準備をする。
/Students are expected to read the assigned papers beforehand and prepare for the discussions.
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
授業の運営については、初回に説明する。/The course management will be explained in the first lecture.

(Google クラウドルーム対応)
①クラスコード
zoaak2d
②第一回授業の開始時期
4月20日(月)6限(ガイダンスのみ)
③授業の実施方法
Classroomに掲載されたガイダンス資料を読むこと。受講を決定した学生はメンバー登録をし、発表準備をすること。本格的には5月以降開始。
④関連資料の入手方法
Classroomにガイダンス資料および課題資料を登録する。
⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策
資料配布形式であるので、大きな問題は生じないと思われる。
10. **更新日付/Last Update :**
2020/02/26 14:06:27

科目名/Subject : 教育アセスメント特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 有本 昌弘

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

「イノベティブな学習環境」を文化的文脈から読み直す

Read "Innovative learning environment" from the cultural context

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

激変する世界と人口減少の地方の諸課題の中で、学校全体でシステム思考を取り上げてきた米国の学校も取り上げつつ、震災後の国内パイロット校ともコラボを進める。「各人は所詮お互い分かり合えず、学習者は伝えられる以上のことを知って」おり、アセスメントを積み重ねることが、生徒や学生が未来の概念に格闘できるカリキュラムを創造できるという前提からスタートする。学校教育のみならず、良き市民、近年の職場学習における「学び」を、アセスメントとエヴァリュエーションの枠組みの下、豊かな概念から、21 世紀型のコンピテンシーとその測り方について、学習者・教師・コンテンツ・リソース・構成要素の組織を通じて吟味・検討する。様々な学問分野（太陽光、機械、生物や生体、水資源・生態、社会経済）でみられるシステム思考の方法論を教育学に導入し、教科を重視し、教科を超える知識を新たな知育の可能性を探る。とともに、日本の社会文化の中での独自の社会組織の中での学びを、日本語の文化的なコードワードによって、解明していく。これを過去のデータを再分析する中で行う。

To collaborate with domestic pilot schools after the earthquake while taking up US schools that have taken up system thinking throughout the school, among the various problems of the rapidly changing world and the rural population declining. "Each person cannot understand each other after all, learners know more than they can be told", and starts from the premise that students can create a curriculum that can fight the future-oriented concepts by accumulating assessment. Not only school education, good citizens, "learning" in recent workplace learning, from the rich concept under the framework of assessment and evolution, about the 21st century competency and how to measure and examine through the learners-teachers, organization of contents, resources and components. Introduction of system thinking methodology as seen in various academic disciplines (sunlight, machinery, living organisms, living organisms, water resources / ecology, socioeconomic) into pedagogy, emphasizing subjects, focusing on subjects, Explore the possibilities. Together with cultural code words we will clarify learning in our own social organization in Japanese social culture. This is done while reanalyzing the past data and field study.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

ルーブリックなどアセスメントツールの開発、アセスメントの成果・プロセス・文脈についての枠組みをアングロサクソンはじめ他の国々から学び、教育アセスメントとリーダーシップに関して比較研究を行う力を身につけ、東北地方の教育実践に置き換え読み解いていく。特に、アセスメントとかなりの部分が重なるレッスンスタディは、英米からは、日本側研究者に対して、undertheorized として不十分にしか理論化ないし研究されていないとの批判がある。これに真摯に応えていく。

Developing the assessment tools such as rubrics, acquiring the ability to conduct comparative research on educational assessment and leadership, learning about the outcome, process and context of the assessment from the Anglo-Saxon and other countries, replacing it and reading it. In particular, the lesson study, which overlaps a considerable part with the assessment, has been criticized by the UK and the United States for Japanese researchers as being Insufficiently theoretically studied or researched as undertheorized. We will respond to this with sincerity.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第 1 回 講義のアウトライン、21 世紀型コンピテンシーの説明とクライテリアの共有

第 2 回 ミニパフォーマンス課題と文脈・プロセスの共有（第 1 回）

第 3 回 ILE 関連文献の購読

第 4 回 学習者・教師・コンテンツ・リソース・構成要素の組織の日本型への読み替え

第 5 回 "

第 6 回 "

第 7 回 過去の学習理論と（行動主義、認知主義、社会構成主義、社会文化理論）と日本の学校の「授業研究」実践

第 8 回 "

第 9 回 社会実在論による社会構成主義批判

第 10 回 "

第 11 回 文化・歴史的活動理論を日本の文化的スクリプトから読み解いていく

第 12 回 "

第 13 回 "

第 14 回 ミニパフォーマンス課題と文脈・プロセスの共有（第 2 回）

第15回 レポート提出とまとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

無断欠席は2回までとする。パフォーマンス課題を複数回に分けたミニタスクによるレポート提出(40%)、ルーブリック(採点指標)によるセルフ・ピアアセスメント(40%)、ポートフォリオの選択(20%)とするが、これについては、意味のあるクワイテリア(尺度や物差し)を受講生と探し、共有することに努める。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Arimoto, M. et al (2015). Cultural Perspectives on Classroom Assessment -A Path Toward the. "Japanese Assessment for Learning Network" -. Annual Bulletin, Graduate School of Education, Tohoku University, 1, 41 - 61.

Arimoto, M. & Xu, C. C. (2016) Scenar

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

BYOD により Trello を用いて文献(書籍と論文)を指定し、関連文献等を探し出し、時間外学習の課題レポート作成を、時間外学修をより深めるミニパフォーマンス課題により行う。

データの再分析の時間を、講義のコマ数にカウントする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness ○ JICA ベトナム派遣教育専門家、アフリカ・中南米(南アフリカ、ガーナ; ボリビア、ペルー) 派遣教員向け講義

9. その他/In addition :

下記を参照のこと

<https://researchmap.jp/read0140777/>

https://scholar.google.co.jp/citations?user=_YlsilcAAAAJ&hl=ja

https://www.researchgate.net/profile/Masahiro_Arimoto2/research

(Google クラウドルーム対応)

① クラスコード

ilocq6r

② 第一回授業の開始時期

・ 第一回目の授業は4月20日(月) 18:00~から実施

③ 授業の実施方法

・ 授業はGoogle Meet を使用し行う予定

・ 受講希望者は4月20日(月) 正午までに有本までDCメールにて連絡をするように(m.a@tohoku.ac.jp)。27日(月)も繰り返す。

④ 関連資料の入手方法

・ 授業の資料については、授業開始前までに共有ドライブにアップロード予定(受講希望者を招待する)。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・ オンライン授業への参加が困難な学生については、4月20日(月) 正午までに有本までDCメールにて連絡をするように(m.a@tohoku.ac.jp)。27日(月)も繰り返す。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 14:57:40

科目名/Subject : 教育測定学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 熊谷 龍一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

テスト理論の基礎と分析手法

Basic concept and analysis methods of test theory

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育測定・評価の中で必須となる、テスト理論について基礎理論から、統計ソフトを利用した実際のテストデータの分析までを学ぶ。テスト理論では、例えば Σ 計算などの数学的知識が必要となるが、これについても学習を行なう。

This course deals with the basic concept of test theory, methods of test data analysis using computer program and basic knowledge about mathematics.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. テスト理論の基礎を習得し、それをテストデータの分析に用いることができる。
2. テストデータの分析およびその解釈を適切に行うことができる。
3. データ分析から得られた指標を正しく読み取り、教育評価に生かすことができる。

The goals of this course are to

1. be able to recognize and apply the basic concept of test theory to test data analysis,
2. be able to evaluate and judge the result of test data analysis appropriately,
3. be able to read the result of analysis, apply it to educational assessment.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：オリエンテーション（授業全体の概要把握）

第2回：テスト法について

第3回：テスト理論に必要なとなる数学的知識（1）：平均，分散，標準偏差

第4回：テスト理論に必要なとなる数学的知識（2）：共分散，相関係数

第5回：項目分析

第6回：相関係数

第7回：古典的テスト理論：基本モデルと測定精度

第8回：古典的テスト理論：信頼性係数（1）推定方法について

第9回：古典的テスト理論：信頼性係数（2）実際のテストにおける信頼性係数

第10回：古典的テスト理論：信頼性係数（3）クロンバックの α 係数の導出

第11回：古典的テスト理論：妥当性

第12回：テスト得点の標準化

第13回：テスト得点の等化

第14回：項目反応理論の基礎

第15回：項目反応理論の応用

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度（発言，質問等，50%），適宜行う小レポート＋最終レポート（50%）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

熊谷龍一・莊島宏二郎（2015）教育心理学のための統計学．誠信書房．

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

（Google クラウドルーム対応）

① クラスコード

6nwkbxn

② 第一回授業の開始時期

・第1回目の授業は4月21日（火）10：30から実施

③ 授業の実施方法

・授業は Google Meet を使用し行う予定

・受講希望者は4月20日（月）正午までに熊谷までDCメールにて連絡をするように（ryuichi@tohoku.ac.jp）。

④ 関連資料の入手方法

・関連資料については Google Classroom にて共有予定。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・オンライン授業への参加が困難な学生については4月20日（月）正午までに熊谷までDCメールにて連絡をするように（ryuichi@tohoku.ac.jp）。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 12:01:27

科目名/Subject : 社会教育学概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 石井山 竜平

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

自治体改革と住民の学び

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

日本の教育システムを支える法、制度、行政施策は、大きな転換点を経由している。そこには、戦後改革の中から生まれた憲法的価値の転換を図る、グローバル経済に対応した新自由主義的な改革原理と、それに親和的な新保守主義的な原理が融合がみられる。

こうした教育をめぐる構造改革の影響に加えて、社会教育・生涯学習行政には、市町村合併に伴う社会教育の再編、指定管理者制度の広がり、首長部局行政への社会教育行政の包摂、社会教育の学校支援行政への特化など、大きな変化が現れている。

こうした社会教育・生涯学習をめぐる今日の変化と、そのなかでいかなる生涯学習計画の組み立てられ方が実効的であるのか、それが先行研究でどこまで究明されているのかを確認する。あわせて、文献でとらえたことを確かめるために、授業の一部を活用して、地元自治体への調査も予定している。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

地域・自治体レベルの社会教育・生涯学習行政の再編をめぐるこれまでの動向と最新動向を理解する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 イントロダクション
- 2 社会教育・生涯学習政策の動向
- 3 社会教育法改正をめぐる近年の動向
- 4 地方分権・規制緩和・行政改革
- 5 市町村合併と社会教育
- 6 社会教育・生涯学習行政と首長部局移管
- 7 社会教育財政
- 8 住民参画による社会教育・生涯学習の計画づくりの系譜(1)
- 9 住民参画による社会教育・生涯学習の計画づくりの系譜(2)
- 10 教育振興基本計画
- 11 韓国における社会教育・生涯学習の動向
- 12 中国における社会教育・生涯学習の動向
- 13 日本各地における社会教育行政の再編の動向と住民の対応(1)
- 14 日本各地における社会教育行政の再編の動向と住民の対応(2)
- 15 日本各地における社会教育行政の再編の動向と住民の対応(3)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業および調査活動への参加、最終レポートにより評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

正規の時間外での訪問調査を予定している。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他/In addition :

8月29～31日に南三陸で開催される社会教育研究全国集会への参加もあわせて取り組んでいただくことを求める。

(Google クラウド対応)

① クラスコード

54yvvhq

② 第一回授業の開始時期

・第一回目の授業は4月21日(火)3限13:00～から実施

③ 授業の実施方法

・授業はGoogle Meetを使用し行う予定

・受講希望者は4月20日(月)正午までに石井山までDCメールにて連絡をするように(ryuhei.ishiiyama.el@tohoku.ac.jp)。

④ 関連資料の入手方法

・授業の資料については、授業開始前までに共有ドライブにアップロード予定(受講希望者を招待する)。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・オンライン授業への参加が困難な学生については授業前日正午までに石井山までD Cメールにて連絡をするように(ryuhei.ishiiyama.el@tohoku.ac.jp)。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/22 13:52:32

科目名/Subject : 教育測定学概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 柴山 直

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育測定学概論

Introduction to Educational Testing and Measurement

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育測定の基礎理論を体系的に学ぶ。初等統計レベルの知識を前提とする。

The aim of this course is to acquire the basic skills and knowledge of educational measurement and assessment. Elementary statistical skills are required.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ① 大規模アセスメントによって収集されるデータに関して実証的な観点からの品質保証ができること
- ② そのデータからさまざまな情報を読み取れ適切な客観的判断ができること
- ③ エビデンスにもとづく教育施策立案 (EBPM) 等に生かすためのバックグラウンドとなる力を修得すること

After taking this course, you will be able to:

- analyze the data such as scores obtained from large-scale assessments to infer the proficiencies of students.
- obtain various information from the data and make appropriate objective decisions.
- acquire basic skills to use in evidence-based education policy making (EBPM).

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 テスト実施・採点・評価・報告第1回 オリエンテーション(教育測定論入門)
- 第2回 必要な数学的基礎
- 第3回 教育における測定と評価
- 第4回 日本のテスト文化について
- 第5回 項目分析
- 第6回 心理測定モデル：古典的テスト理論
- 第7回 因子分析モデル (1)
- 第8回 因子分析モデル (2)
- 第9回 確率分布
- 第10回 心理測定モデル：項目反応理論
- 第11回 OECD/PISA に見る国際水準の学力調査技術
- 第12回 テスティング技術の最前線尺度の標準化・等化・対応づけ
- 第13回 テストの実際 (1) 教師作成テストの作成・客観的テストの作成
- 第14回 テストの実際 (2) 解釈課題・論述・パフォーマンス課題の作成
- 第15回 テストの実際 (3) テスト実施・採点・評価・報告

1. Orientation
2. Statistical Methods
3. Educational Measurement and Evaluation
4. Large-scale assessment in Japan
5. Item Analysis
6. Construction and Use of Evaluation Instruments
7. Factor Analysis 1
8. Factor Analysis 2
9. Score Distribution and Scaling Methods
10. Item Response Theory
11. International Large-Scale Assessment
12. Equating and Scaling of Educational Tests
13. Class room application
14. Performance assessment
15. Test Development Process and Test Evaluation

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ほぼ毎回課するショート・レポート (100%)

100% for submitted assignments

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

j7rp7mm

② 第一回授業の開始時期

4月21日(火) 3限

③ 授業の実施方法

Classroom に講義資料と課題をアップ

④ 関連資料の入手方法

授業用の資料は Classroom で紹介

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

オンライン授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談 (sibayama@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/12 11:59:34

科目名/Subject : グローバル共生教育論基礎論

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 松本 大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

現代社会と社会教育・成人教育・生涯学習

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

私たちの生活や暮らしにとって社会教育・成人教育・生涯学習はどのような意味をもつのか、そして社会教育・成人教育・生涯学習を必要とする現代社会とはどのような社会なのか。現代社会における生活や暮らしと関連づけて社会教育・成人教育・生涯学習の本質や理念を考察する。

具体的には、子ども、子育て、学校、労働、地域社会といった人生や生活の諸次元に即して、社会教育・成人教育・生涯学習の意義や役割を講述する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- (1) 社会教育・成人教育・生涯学習に関わる国内外の理念、制度、概念の基礎を理解できる。
- (2) 生活課題や社会問題との関わりから社会教育・成人教育・生涯学習の特徴を考察できる。
- (3) 自身の研究テーマとの関連で、社会教育・成人教育に関する言説を批判的に検討できる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：社会教育・成人教育・生涯学習の概念
- 第2回：地域学校協働活動と社会教育（1）－展開と実態－
- 第3回：地域学校協働活動と社会教育（2）－課題と論点－
- 第4回：子ども・若者と社会教育（1）－展開と実態－
- 第5回：子ども・若者と社会教育（2）－課題と論点－
- 第6回：子育てと社会教育（1）－展開と実態－
- 第7回：子育てと社会教育（2）－課題と論点－
- 第8回：労働と成人教育（1）－リカレント教育－
- 第9回：労働と成人教育（2）－ワークプレイスラーニング－
- 第10回：地域づくりと社会教育（1）－地域づくりと学習との関係－
- 第11回：地域づくりと社会教育（2）－東北の地域課題と社会教育－
- 第12回：地域づくりと社会教育（3）－課題と論点－
- 第13回：高齢者と社会教育（1）－展開と実態－
- 第14回：高齢者と社会教育（2）－課題と論点－
- 第15回：まとめ

授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度（15%）、中間レポート（15%）、最終試験（70%）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：使用しない。毎回資料を配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

関連する研究について文献収集を進めること。

自身の研究テーマとの関係で、講義内容を省察すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

① クラスコード

qxdc15u

② 第一回授業の開始時期

・第一回目の授業は4月21日（火）14:40～から実施

③ 授業の実施方法

・授業はGoogle Meet もしくは zoom によるリアルタイム方式で行います。

・受講希望者は4月21日（火）13時までに松本までDCメールにて連絡してください (matsumoto.dai@gmail.com)。

④ 関連資料の入手方法

・授業の資料についてはClassroomにアップロード、もしくはメールで送付予定。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・松本までD Cメールにて連絡してください (matsumoto.dai@gmail.com)。個別に対応します。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/18 14:55:10

科目名/Subject : 投影法特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 池田 忠義

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

描画法・SCT 演習

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理査定的重要手段である投影法のうち、描画法およびSCT（文章完成法）を取り上げ、その特徴・実施方法・解釈の基礎について実習を通して学ぶ。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

描画法およびSCTについて、その理論的背景・特徴を把握すると同時に、実施・解釈の方法に関する基礎的な知識を身につける。また、自身が検査者・被験者の両方を体験し、自己理解を深める。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：投影法の意義と種類
- 第2回：描画法およびSCTの理論的背景・特徴
- 第3回：描画法の実施法・被験者体験
- 第4回：描画法の事例検討(1)内容分析
- 第5回：描画法の事例検討(2)形式分析
- 第6回：描画法の事例検討(3)総合所見
- 第7回：事例と総合所見の比較・検討
- 第8回：描画法による複数事例間の比較・検討
- 第9回：SCTの実施法・被験者体験
- 第10回：SCTの事例検討(1)内容分析
- 第11回：SCTの事例検討(2)形式分析
- 第12回：SCTの事例検討(3)総合所見
- 第13回：事例と総合所見の比較・検討
- 第14回：SCTによる複数事例間の比較・検討
- 第15回：心理査定における描画法およびSCTの活用

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的参加および発表（70%）、レポート（30%）による。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は、特に指定しない。

参考書：樹木画テスト 高橋雅春・高橋依子 北大路書房

その他は、授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事例検討に際しては、事前に配付する資料を予習した上で授業に臨むことが求められる。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この授業は、臨床心理研究コース所属の学生のために開講される。

（Google クラウド対応）

① クラスコード

cth4nuw

② 第一回授業の開始時期

- ・第一回目の授業は4月21日（火）14：40～実施

③ 授業の実施方法

- ・授業はGoogle Meetを使用し行う予定
- ・受講希望者は4月20日（月）正午までに池田でDCメールにて連絡をして下さい（tadayoshi.ikedai@tohoku.ac.jp）。

④ 関連資料の入手方法

- ・授業の資料については、共有ドライブにアップロード予定。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・オンライン授業への参加が困難な学生については、4月20日（月）正午までにDCメールにて連絡をして下さい（tadayoshi.ikedai@tohoku.ac.jp）。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/23 17:03:08

科目名/Subject : 心理療法特論

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 中島 正雄

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
学生相談における心理療法的アプローチ
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
大学における学生相談活動では、特定の心理療法アプローチに固執することなく、来談者に合わせた柔軟な対応が求められる。本授業では、学生相談における多様な心理療法的アプローチの特徴や留意点について事例をもとに学習する。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
学生相談における多様な心理療法的アプローチの特徴および相違点について理解する。
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**
 1. オリエンテーション
 2. 学生相談について
 3. 学生相談における多様な心理療法的アプローチ:
 - ・来談者中心療法
 - ・認知行動療法表現療法
 - ・箱庭療法
 - ・リラクゼーション法
 - ・精神分析的心理療法
 - ・音楽療法、表現療法、コンサルテーション、他職種との連携
 4. まとめ
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
ディスカッションへの参加度 (20%)、発表 (30%)、期末レポート (50%)
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
授業内で適宜紹介する
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
学生相談事例に関する事例論文 1 本について、心理療法的アプローチに触れながら、1 人 1 回は発表する。事例論文は事前に用意するが、自分で探してきても良い。発表後は全員で事例検討を行うが、その事例検討内容も含めてレポートを書いて提出することを課題とする。
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
この授業は臨床心理学コース所属の学生のために開講されている。

(Google クラウドルーム対応)
① クラスコード
4fm3xhe
② 第一回授業の開始時期
4 月 21 日 (火) 5 限: 16 時 20 分～
③ 授業の実施方法
Classroom に講義資料と課題をアップ。第一回授業は Meet を用いてガイダンスを行う。
④ 関連資料の入手方法
授業用の資料は Classroom で紹介
⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策
個別に相談 (masao.nakashima.d3@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/25 14:13:41

科目名/Subject : 成人教育研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 松本 大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
成人教育の理論と実践研究 (1)
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
(1) 自身の研究に関連する国内外の先行研究を収集し報告する。
(2) 学会発表や論文投稿を予定している場合は、その内容を発表・検討する。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
(1) 自身の研究テーマに関わる研究動向を把握できる。
(2) 他者との協働的な関係のなかで研究課題を探究できる。
(3) 査読付きの学会誌における論文等から、研究方法や研究論文の作法を理解できる。
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**
自らの研究テーマに関連して各自論文を収集、報告をして、それにもとづき議論を深める。
学会発表や論文投稿が近い場合には、その内容を報告・検討する。
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
発表 (50%)、授業への参加度 (50%)
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
教科書：なし。
参考書：授業中に適宜紹介する。
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
先行研究を収集・批判的に検討し、報告資料を用意すること。
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
(Google クラウドルーム対応)
① クラスコード
owfztrd
② 第一回授業の開始時期
・ 第一回目の授業は 4 月 21 日 (火) 16:20 から実施
③ 授業の実施方法
・ 授業は Google Meet もしくは zoom によるリアルタイム方式で行います。
・ 受講希望者は 4 月 21 日 (火) 13 時までに松本まで DC メールにて連絡してください (matsumoto.dai@gmail.com)。
④ 関連資料の入手方法
・ 授業の資料については Classroom にアップロード、もしくはメールで送付予定。
⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策
・ 松本まで DC メールにて連絡してください (matsumoto.dai@gmail.com)。個別に対応します。
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/18 14:49:02

科目名/Subject : エデュフェア・マインド

曜日・講時/Day/Period : 前期前半 水曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2020 安保 英勇, 後藤 武俊, 神谷 哲司, 池尾 恭一, 李 仁子, 柴山 直, 劉 靖, 川崎 聡大, 島 一則

単位数/Credit(s) : 1

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

エデュフェア・マインド

edufare-mind

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業の目的は次の3点である。①博士後期3の課程で研究を進めるために必要な研究倫理を理解する。②「公正で包摂的な社会」の必要性やその構築に向けた諸分野の取組について学び、今後の研究・教育活動のなかに視点として採り入れていけるようにする。③コースや専門領域の異なる人と話をする際に必要なコミュニケーション能力を獲得する。

第1回、2回は、研究倫理に関する現状と諸課題について、その基礎となる人間と倫理の関係を踏まえつつ講ずる。東北大学「研究倫理に関するキャリア・ステージ別学習参照基準」をふまえた内容とする。第3回から8回は、各コース1名の教員が1回ずつ担当する。指定された文献に基づき、受講生はワークショップを行う。

In the 1st and 2nd class, professors will discuss the current status and issues related to research ethics, taking into account the relationship between humans and ethics as the basis. These are based on Tohoku University's "Criteria for Study Ethics at Each Career Stage".

From the 3rd to the 8th lesson, professors of each course are in charge. Students will have discussions based on the specified articles.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1) 研究倫理を学び「公正で包摂的な社会」の必要性やその構築につながる諸研究分野の取組について大学院生が学び、今後の研究活動のなかに視点として採り入れていけるようにすること。
- 2) 他の分野・領域の学生と対話することを通じて、分野・領域の異なる人と話をする際に必要なコミュニケーション能力を獲得すること。
- 3) 他の分野・領域の学生と知り合い、今後の共同研究に向けた素地を創り出すこと。

Students will

- 1) while learning research ethics, learn about the necessity of a "fair and inclusive society" and activities in various research fields that will lead to it, and be able to adopt this perspective..
- 2) gain the necessary communication skills to talk to researchers in other fields by discussion with students in other courses.
- 3) get acquainted with students in other fields and areas and prepare a foundation for future joint research.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：人間と倫理 (池尾 恭一)

第2回：研究と倫理 (野口 和人)

第3回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ (李 仁子)

第4回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ (柴山 直)

第5回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ (劉 靖)

第6回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ (川崎 聡大)

第7回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ (島 一則)

第8回：「公正で包摂的な社会」に関するワークショップ (安保 英勇)

The 1st: Humans and ethics (By Ikeo)

The 2nd: Research and ethics (By Noguchi)

The 3rd : Workshop 1 on "Fair and Inclusive Society" (By Lee)

The 4th : Workshop 2 on "Fair and Inclusive Society" (By Shibayama)

The 4th : Workshop 3 on "Fair and Inclusive Society" (By Liu)

The 5th : Workshop 4 on "Fair and Inclusive Society" (By Kawasaki)

The 6th : Workshop 5 on "Fair and Inclusive Society" (By Shima)

The 8th : Workshop 6 on "Fair and Inclusive Society" (By Ambo)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席と各回ごとに提出するレポートによる。後期3年の課程に所属する受講生には、テーマに関連した文献の書評を課す。

Depending on attendance and reports submitted each class.

Doctor course students will be given an additional review of the article related to edufare-mind.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

指定された文献をあらかじめ読んで出席することが求められる。

Read the specified article in advance.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

業務の都合等で指定された曜限に出席できない場合は相談の上、ISTU による参加を認める場合がある。あらかじめ安保まで申し出ること (amb@sed. tohoku. ac. jp)。

If a student is unable to attend due to business reasons, watching a video by ISTU may be considered attended. In this case, be sure to inform AMBO in advance. (amb@sed. tohoku. ac. jp)

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

hibufdx

② 第一回授業の開始時期

第1回: 4月22日(水) 8:50~

③ 授業の実施方法

- ・リアルタイム&オンデマンド (Google Meets を使用)
- ・リアルタイムでの受講者には、第2回からオンライン上でのグループワークを課す。
- ・オンデマンドでの受講者は、講義と全体討議の録画を後日視聴し、課題を提出する。オンデマンド受講を希望する場合は、4月28日(火)までに後藤までDCメールで連絡すること (amb@sed. tohoku. ac. jp)。
- ・M1は必修科目なので、必ず履修すること。

④ 関連資料の入手方法

- ・google classroom から入手すること

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・オンデマンドの受講を勧めるが、それも難しい場合は個別に相談 (amb@sed. tohoku. ac. jp) のこと

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/14 18:26:32

科目名/Subject : 情報リテラシー

曜日・講時/Day/Period : 前期後半 水曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2020 小嶋 秀樹, 渡部 信一, 熊井 正之, 中島 平, 佐藤 克美, 大河 雄一, 伊 得霞

単位数/Credit(s) : 1

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育実践や教育学研究に必須となる「情報を扱う能力」の修得

Information processing literacy for the research and practice in education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ICT (Information and Communication Technology) 社会においては ICT 利用の操作の知識、技術のみならず、法律等も知らなければならない (知識)。そして、その知識をもとにうまく ICT を活用していく必要がある (実践)。さらに教育者は、学習者にその知識を伝え、ICT を活用させること (教授) が求められる。本講義では ICT を活用した教育を実施するうえで必要となる、コンピュータとそのネットワークについて、知識、実践、教授の 3 側面から学習する。

より具体的には、コンピュータとネットワークで使われている技術について解説し、その技術が教育現場にどのようにおおよされているのか紹介していく。

In our society that relies on ICT (Information and Communication Technology), one must possess not only the knowledge and skills for using ICT but also the law with regard to the use of ICT. Also, one has to utilize ICT effectively, and also has to have skills for teaching such knowledge and skills to the learners. In this course of lectures, students learn to utilize computers and networks for educational purposes, from three viewpoints of knowledge, practice, and teaching.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・情報通信技術 (ネットワーク、情報の収集・管理、セキュリティなど) の基礎を理解することができる。
- ・教育における情報通信技術活用のあり方 (実践例・今後の展望を含む) について考察し、その後の学修・研究に向けた動機づけや、実践的な教育方法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。

To be able to understand the basic concepts regarding ICT (network, security, and handling information).

To be able to envision how ICT can be utilized for education and be motivated for further study and research on the field.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第 1 回: イントロダクション: 情報リテラシーとは

第 2 回: 教育学を志す人のための情報通信技術 : デジタルの基礎

第 2 回: 教育学を志す人のための情報通信技術: コンピュータ技術

第 3 回: 教育学を志す人のための情報通信技術: ネットワークおよびセキュリティ

第 4 回: 情報活用の実践: 新しい技術の活用

第 5 回: 情報活用の実践: 教育現場での活用

第 6 回: 情報活用の実践: 障害者支での活用

第 7 回: まとめ: AI 時代における教育

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ミニットペーパーとレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特になし (授業内で資料を適宜配布する)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

講義の理解を深めるため、各回の復習が必要となる、また課題に取り組むための時間が必要である

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

受講生の興味・関心に合わせ講義の内容、順番を若干変更する可能性がある

(Google クラウド対応)

① クラスコード

55q76u4

② 第一回授業の開始時期

6 月 24 日から Classroom を用いて講義動画の配信を開始します。

③ 授業の実施方法

講義は Classroom を用いて、映像を中心とした講義の配信を行います。受講生はその講義を視聴し、決められた期日までレポート等を提出します。

④関連資料の入手方法

Classroomに必要な資料をアップロードします。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

6月1日～14日の間に、担当、佐藤克美 katsumi[at]tohoku.ac.jp まで連絡ください

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 15:04:25

科目名/Subject : 教育政策科学概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 井本 佳宏, 福田 亘孝, 島 一則, 後藤 武俊

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育政策科学研究の基礎 / Basic Research Methods in Education Policy

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業は、教育政策科学を構成する教育社会学、教育行政学、比較教育学の学問分野において、共通かつ必須の研究法の基礎をトレーニングするための演習科目である。研究全体の計画から、研究の方法論、量的な研究計画、質的な研究計画に至るまでの基礎事項を学ぶ。また、同時に、研究のための英語力を培うことも、この授業のねらいである。 / This course deals with the basics of research methods in education policy composed of educational sociology, educational administration study, and comparative education study. In this course, the basics from total planning of research to the methodology of research, designing quantitative research, and designing qualitative research are introduced. And it is also an aim of this course to improve the ability of English for research.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

学術水準の高い論文を執筆するための基礎的能力を身につける。 / The goal of this course is to be able to write high-quality academic papers.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1 回 : 授業概要の説明、2~5 回 : 研究計画・方法論、6~10 回 : 量的データとその取り扱い、11~15 回 : 質的データとその取り扱い / 1. Orientation, 2-5. Research Designs and Methodology, 6-10. Analysis of Quantitative Data, 11-15. Analysis of Qualitative Data

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への貢献度による 4 名の担当教員の評価を総合化する。 / Grading will be decided based on class attendance and attitude in class. Four teachers evaluate separately and, finally, marks are averaged.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書 : Punch, K. F. and Oancea, A., Introduction to Research Methods in Education (2nd edition), Sage, 2014.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回指示する英文文献について予習と学習内容の整理を行うこと。 / The participants need to read before each lesson the literature written in English, and need to reflect on the contents after each lesson.

8. 実務・実践的授業/Practical business ※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

教育政策科学コースに属する博士課程前期 1 年生は、必ず履修すること。それ以外の学生についても、教育政策科学の研究方法を身に付けたい学生には、本授業の履修を勧める。 / 1st-year students in master's course belonging to the Education Policy and Social Analysis Program must take this course. It is recommended also for other students who want to learn the research methods in education policy to take this course.

(Google クラウド対応)

① クラスコード

yqd4zvn

② 第一回授業の開始時期

・第 1 回授業の開始時期 : 4 月 22 日 (水) 2 限 : 10:30~

③ 授業の実施方法

・授業の実施方法 : Meet を用いた双方向授業。

・詳しくは Classroom 上に説明を掲示するので、第 1 回授業の前日までに確認しておくこと。

④ 関連資料の入手方法

・授業で使用する資料については、授業開始前までにメンバーのみアクセス可能な Google Drive の本授業用共有フォルダにアップロード予定。

・メンバーに招待するので、受講希望者は必ず 4 月 21 日 (火) 正午までに井本 (imoto@tohoku.ac.jp) まで DC メールでその旨連絡すること。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・個別に相談に応じる。

・オンラインでの受講が困難な事情説明を、DC メールを使って 4 月 21 日 (火) 正午までに井本 (imoto@tohoku.ac.jp) へ連絡すること。

⑥ その他

教育政策科学コースの M1 は必ず履修すること。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/09 18:25:40

科目名/Subject : 発達心理学特論

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 神谷 哲司

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

現代日本における子育て家族の心理社会的問題とその支援

Psychosocial issues in and supports for child rearing family in contemporary Japan

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

少子化、育児不安・ストレスに、児童虐待・ネグレクト、夫婦共働きに保育所待機児童問題など、現代日本社会における子育て家族を取り巻く諸問題の現状とその歴史を概観することを通して、家族を心理学的に支援するとはどういうことかを考える。

The aim of this course is to help participants consider what family support is through an overview of the history of Japanese child rearing family and current issues, such as low-birth rate society, child rearing anxiety, child maltreatment, marital double-career and childcare waiting list in Japanese contemporary society.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

日本の家族における現代的な論点とその支援に関する知識を得る。

Obtain basic knowledge about the contemporary psychological issues of Japanese families and the family support.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション：生涯発達と家族
2. 戦後日本の社会変動と家族の変遷 (1)：世帯変動から見た戦後の日本家族
3. 戦後日本の社会変動と家族の変遷 (2)：高度経済成長と女性のライフコースの多様化
4. 戦後日本の社会変動と家族の変遷 (3)：平成期の家族の矮小化と諸問題
5. 現代家族の諸問題(1)：少子化と児童虐待
6. 現代家族の諸問題(2)：育児ストレスと三歳児神話
7. 現代家族の諸問題(3)：父親の育児とイクメン、子どもの諸問題
8. 家族支援の視座(1)：家族システムと家族発達
9. 家族支援の視座(2)：ライフキャリアと生態学的アプローチ
10. 子どもの発達プロセスと家族
11. 育児期家族への移行と親発達
12. 夫婦サブシステムとコペアレンティング
13. 子どもの成長と親子関係の変容：児童期・思春期の家族問題
14. 子ども家庭福祉の変遷と現状
15. 子育て家庭の支援の枠組みと留意事項

(講義内容は若干、変更の可能性あり)

1. Orientation: Life-span Development and Family
2. Historical Social changes and family shift (1): Japanese families after WWII from the view point of household changes
3. Historical Social changes and family shift (2): Rapid Economic Growth and Diversification of Women's Life Course
4. Historical Social changes and family shift (3): Minimization of Family and Various Problems in the Heisei Era
5. Problems of Modern Family (1): Declining Birthrate and Child Maltreatment
6. Problems of Modern Family (2): Parenting Stress and Myths of Three-Year-Olds
7. Problems of Modern Family (3): Parenting by Fathers and IKUMEN, Problems of Children
8. Family Support Perspective (1): Family System and Family Development
9. Family Support Perspective (2): Life Career and Ecological Approach
10. Child Development Process and Family
11. Transition to parenting and parental development
12. Marital Couple Subsystem and Parenting

13. Child Growth and Transformation of Parent-Child Relationship: Childhood and Adolescent Family Issues
14. Transition and present situation of child family welfare
15. Framework and considerations for child care family support

(Lecture contents may be slightly changed.)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業内容に対するコメント (30%) と期末レポート (70%)

Minute Papers: 30%, and Term-end report: 70%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

本郷一夫・神谷哲司(編著) 子ども家庭支援の心理学. 建帛社. 2019 年

白井利明(編著) 生涯発達の理論と支援. 金子書房. 2019 年

松村和子・澤江幸則・神谷哲司(編著) 保育現場で出会う家庭支援論－家族の発達に目を向けて－ 建帛社 2010 年

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時間内に指示する。

Will be suggested in the class.

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

7mdzfeb

② 第一回授業の開始時期

初回: 4 月 22 日 (水) 10:30～

③ 授業の実施方法

・ 授業は Google Meet か Zoom を使用する予定

・ 受講希望者は授業開始前までにクラスコードを用いてこの授業の classroom のメンバー登録を済ませておいてください。

授業開始 5 分前までには, classroom 内のストリームにビデオ会議の案

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:41:54

科目名/Subject : コミュニティ心理学特論

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 小島 奈々恵

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

コミュニティ心理学特論

Community Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

コミュニティ心理学の基礎概念について学び、基本姿勢や支援方法、支援対象について理解を深める。

Students will deepen their understanding about the basics of community psychology, basic behaviors, support, and who to support.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

コミュニティ心理学の基礎概念を理解し、専門家としての在り方について考えを深める。

Students will deepen their understanding about the basics of community psychology, and the meaning of becoming a professional clinical psychologist.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. コミュニティ心理学とは

2. コミュニティ心理学の基本

3. コミュニティ心理学実践

・地域における支援：子育て支援、児童虐待、DV、母子支援

・教育における支援：いじめ、不登校、特別支援、学生相談

・医療における支援：自助グループ、HIV カウンセリング、緩和ケア

・多文化コミュニティにおける支援：海外居住とその家族、留学生支援

4. まとめ

1. What is community psychology

2. Basics of community psychology

3. Practice of community psychology

・Support in the community: parental support, child abuse, DV, maternal and child support

・Support in education: bullying, school absence, special needs, school counseling

・Medical support: self-help, HIV counseling, palliative care

・Multicultural support: emigrating families, international student support

4. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的参加および発表 (60%), レポート (40%)

Postive participation and presentation (60%), report (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。

Not specifically specified.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表準備と、ディスカッションに積極的に参加するための準備。

Preparation for one's presentation, and preparation for the discussions so that one may participate positively.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

臨床心理学コースの学生のための授業科目である。

This class is for students in the Clinical Psychology Course.

(Google クラウド対応)

① クラスコード

oc2sflk

② 第一回授業の開始時期

4 月 22 日 (水) 3 限: 13:00~

③ 授業の実施方法

Meet を用いた双方向授業&Classroom に講義資料と課題をアップ

Meet 等での会議の実施方法について Classroom で紹介

④関連資料の入手方法

授業用の資料はClassroomで紹介

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談（nanae.kojima.e5@tohoku.ac.jpへ連絡のこと）

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/18 10:39:29

科目名/Subject : 教育情報学応用論特論Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 佐藤 智子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

社会構成主義の学習理論

Learning Concepts of Socio-Constructivism

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育や学習の効果・成果をどう評価するかは、社会や文化の特質によって多様である。その多様性の前提としては、教育や学習とはどのようなものか、その過程や結果をいかに理解し、どう概念化するかについての理論的な変遷や蓄積がある。現代の教育カリキュラムの重点が知識習得から能力形成へと移行する中で、「何を学ぶか」のみならず「どのように学ぶか」が焦点化されるようになってきている。教育実践の中でも、個人学習より協働学習がより重視される状況になってきており、間主観的な協働学習の過程をどう概念化し、それをどのように具体的に評価していくのかが、喫緊の学術的・実践的課題となっている。

そこでこの授業では、昨今のカリキュラム・デザインや教育政策の基盤を成す学習理論となっている構成主義、特に社会構成主義の考え方・理論を基礎から理解することを目指す。

How to evaluate the effects and results of education and learning depends on the nature of society and culture. As a premise of its diversity, there are theoretical accumulation and transition on what learning is and how its process and results are, and how to conceptualize it.

Not only "what to learn" but also "how to learn" is being focused, as the emphasis of modern education curriculum shifts from knowledge acquisition to skill formation. In educational practice, collaborative learning is becoming more focused than individual learning,

In this class, we aim to deeply understand some learning concepts of socio-constitutionism, which forms the foundation of today's curriculum design and educational policy.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1) 社会構成主義の学習理論を概観し、それぞれの論者の考え方を理解する。
- 2) 社会構成主義の考え方の本質を熟考し、様々な形態や方法による多様な学習をどう理解し概念化すべきかについて、自らの考えを深化させる。
- 3) 授業への積極的な参加を通して、学習に関する多様な考えや価値観を理解・受容し、討議や対話に参画するために必要な能力を醸成・向上させる。

1) Outline learning concepts of socio-constructivism and understand each viewpoint of thinkers.

2) Ponder the essence of the idea of socio-constructivism and deepen your thought on how to conceptualize diverse learning.

3) Understand and accept diverse ideas and values of learning through active participation in classes, then to foster and improve generic abilities to facilitate discussion and dialogue.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

この授業では、社会構成主義の考え方を理解する上での必読書を取り上げ、輪読形式により各論者の基本理論を理解する。取り上げる図書は、受講生の研究関心等によって決定する。

授業は、一方向的な講義ではなく、共創と対話を基本とするワークショップ形式とし、受講者には積極的な参加（発言と傾聴）を期待する。毎回の課題として、授業の記録を作成し、ふり返り（リフレクティブ・ジャーナルの作成など）を行うことを基本とする。

取り上げる文献の候補は以下の通りである（但し、受講生と相談の上で最終決定する）。

1. デューイ『経験と学習』・『公衆とその諸問題』・『民主主義と教育』
2. ヴィゴツキー『思考と言語』・『「発達」の最近接領域』の理論』
3. ブルーナー『教育の過程』・『可能世界の心理』・『意味の復権』
4. エンゲストローム『拡張による学習』・『ネットワークする活動理論』

など

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的な参加（50%）

毎回の小レポート（授業記録とリフレクションレポート）（50%）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

必要に応じて、適宜紹介する。また各自で関連文献を探索して予習・復習することを期待する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

指定文献を事前に熟読し、各自が論点をまとめてくる。

毎回の授業について、授業記録（授業内容の要約）とリフレクション・レポート（ふり返り）に取り組んでもらうことにより、学修の定着と思考の深化を図る。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition:

問い合わせ・相談がある場合には、下記まで連絡してください。

メールアドレス: sato-t@tohoku.ac.jp

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

4j6ghbj

② 第一回授業の開始時期

受講生が確定したら、改めて日程調整を行います。

③ 授業の実施方法

・授業は Google Meet を使用し実施。

・受講希望者は 4 月 24 日（金）正午までに D C メールにて連絡 (sato-t@tohoku.ac.jp)

④ 関連資料の入手方法

・Google Classroom を使用。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・受講希望でオンライン授業への対応が困難な場合も、4 月 24 日（金）正午までに D C メールにて連絡 (sato-t@tohoku.ac.jp)

10. 更新日付/Last Update:

2020/03/04 15:23:04

科目名/Subject : 発達障害学概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 川崎 聡大, 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学概論

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本講義の目的は発達障害の現状を様々な角度から理解することです。

発達障害に関する教育および保育・医療・療育に関する実態について観察・見学・参加を通じて理解を深めます。

This course introduces the actual situation in education and the childcare of the developmental disability to students taking this course.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

発達障害や発達障害を引き起こす疾患、気になる子どもの実態について理解を深めます

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

本講義は発達障害を支援する現場や実際の事例指導への観察参加を中心に構成されます。初回オリエンテーション時に詳細を決定します。観察参加と事後レポート、ディスカッションから構成されます。そのため、講義は見学先等の都合により所定の時間外に行われることがあります（*希望者は事前にご相談ください）。

【全体の流れとして】

1. 初回オリエンテーション時に講義概要の説明と今後の予定をお話します。

2. 観察参加については「①個別支援コース」と「②集団支援コース」の二つに分かれて行います（初回オリエンテーション時に履修者の希望を踏まえて分かります）。

3. 14 回目・15 回目は全体での成果発表となります。

*評価にはコースごとのレポート、最終発表が含まれます。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業（観察含む）への参加（70%）、レポート（30%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 70%

- Short reports: 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特にありません

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

観察参加時（先方との調整のため）は当該時間と異なります。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business ○

9. その他/In addition :

発達障害や「気になる子ども」、障害や医療に関する研究テーマに興味関心の高い人が望ましい

（Google クラウド対応）

① クラスコード

7guoeky

② 第一回授業の開始時期

シラバスに記載の通り、この授業は実践の場への参画を通じた学修をねらいとしています。しかしながら、コロナ・ウィルス感染の現在の状況においては、実践の場を確保する見通しが立たない状況にあります。そのため、授業開始をゴールデン・ウィーク明けの5月13日(水)とします。

③ 授業の実施方法

初回講義までにクラウドに掲示します

④ 関連資料の入手方法

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

⑥ その他

受講を希望する者は、「①個別支援コース」と「②集団支援コース」のどちらを希望するかを付して、川崎 (akihiro.kawasaki.c5@tohoku.ac.jp) 及び野口 (kazuhito.noguchi.a5@tohoku.ac.jp) までDCメールを送ってください。期限は4月22日(水)17時とします。最終的には全体で発表とディスカッションを行います。未定の方は双方の教員にメー

ルを送ってください。昨今の状況により希望調整を行う場合があります。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/18 13:06:58

科目名/Subject : 教育心理学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2020 深谷 優子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育心理学研究の諸問題

Current topics in Educational Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育および関連する領域の心理学研究の諸問題および世界におけるそれらの研究動向について学ぶ。本授業では、日本国内外における教育心理学研究の各部門の研究動向について、主に英語で公刊された展望論文（査読付）を用いながら検討する。

The aim of this course is to help students acquire current educational psychology research trends in Japan and other countries through intensive reading of meta-analytic papers and other narrative reviews that are written in English.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・心理学研究の諸問題について学ぶ。
- ・展望論文のスタイルについて学ぶ。
- ・メタ分析の基礎的な知識を得る。

Goals of study are to enable students to: (1) have comprehensive understanding of current research trends in educational psychology through intensive reading of review papers in English, (2) acquire knowledge of review papers' styles, (3) obtain basic knowledge of meta-analysis.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 : 展望論文とは

第2回 -- 第5回 : メタ分析とは

第6回 -- 第14回 : 英語の展望論文の報告・討議

第15回 : まとめ と ふりかえり

(1) Styles of Review Papers

(2) -- (5) Basics of Meta-Analysis

(6) -- (14) Reports and Discussions of Review Papers written in English

(15) Review

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献 (70%), 期末レポート (30%) により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution (70%) and term paper (30%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

○参考書

Psychological Bulletin

山田剛史・井上俊哉 編 2012 メタ分析入門 : 心理・教育研究の系統的レビューのために 東京大学出版会

その他授業中に適宜参考書を紹介する。

References and reading materials will be distributed at class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・査読付の英文の展望論文を読む。
- ・簡潔に発表できるよう、レジюме作成と発表準備を行う。

The students are expected to read handouts and/or assigned review papers beforehand and to prepare presentations.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業の運営については、初回に説明する。

This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

r4uvhom

②第一回授業の開始時期

4月23日(木) 1限 8:50～

③授業の実施方法

- ・Meet を用いた双方向授業の予定。
- ・受講希望者は授業開始前までにクラスコードを用いて登録を済ませておくこと。授業開始 5 分前までには、Classroom に会議の案内を掲示する。

④関連資料の入手方法

授業用の資料は Classroom で共有する。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に対応する。4月22日(水) 正午までに深谷 (yuko.fukaya.a7@tohoku.ac.jp) に連絡すること

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/26 17:38:57

科目名/Subject : 成人教育概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 松本 大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

成人教育研究の基礎

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

成人教育に関する文献講読をとおり、成人教育に関する概念、社会的背景、理論等に関する近年の国際的な研究動向を把握し、成人教育研究をめぐる基礎的理解を獲得することを目指す。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

成人教育研究に関する国際的な言説を理解し、自らの研究テーマに即して批判的に考察できる。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 : ガイダンス

第2~3回 : What Counts as Adult Education?

第4~5回 : Who Participates in Adult and Continuing Education?: Mapping the Adult Learning Landscape

第5~6回 : Who Are Adult Educators, and What Do They Do?

第7~8回 : Sociology of Adult and Continuing Education: Some Key Understandings for the Field on Practice.

第9~10回 : The Landscape of Adult Education: Prominent Organizational Contexts of Adult Education

第11~12回 : The Landscape of Adult Education: Community-Based and Community Action Contexts of Adult Education

第13~14回 : Changing Boundaries of Adult and Continuing Education

第15回 : まとめ

進捗状況によって内容が異なる場合がある。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表 (40%)、授業への参加度 (30%)、レポート (30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書

Ross-Gordon, J. M., Rose, A. D., & Kasworm, C. E. (2016). Foundations of Adult and Continuing Education. San Francisco: Jossey-Bass.

Kasworm, C. E., Rose, A. D., & Ross-Gordon, J. M. (2010). Handbook of Adult and Continuing Education (2010 Edition). Thousand Oaks: SA

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

受講者は関連する文献も収集整理しながら担当する章のレジュメを作成すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

① クラスコード

6bvdw6w

② 第一回授業の開始時期

・ 第一回目の授業は4月23日 (木) 10:30 から実施

③ 授業の実施方法

・ 授業は Google Meet もしくは zoom によるリアルタイム方式で行います。

・ 受講希望者は4月22日 (水) 18時までに松本までDCメールにて連絡してください (matsumoto.dai@gmail.com)。

④ 関連資料の入手方法

・ 授業の資料については Classroom にアップロード、もしくはメールで送付予定。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・ 松本までDCメールにて連絡してください (matsumoto.dai@gmail.com)。個別に対応します。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/18 14:53:19

科目名/Subject : 教育情報学実践論概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 小嶋 秀樹, 中島 平

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育情報学に基づく教育／学習方法の実践例研究と新手法の創出

Case studies and original creation of new methods for teaching/learning based on educational informatics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育情報学の実践に関して、様々な実践例を通して学ぶ。具体的には例えば研究中の最先端の ICT 機器を現場で活用した事例を視聴したあとで議論し、実際に教室内で体験した後で、新たな実践方法を考え出すという活動を行う。それらの活動を通して教育情報学の実践に対する興味を引き出し、その基礎的な内容を理解するとともに、自分自身で簡単な教育／学習方法を提案・実践できるようになることを目的とする。

Students learn the practical cases of educational informatics. For example, you will be studying the cases of utilizing advanced ICTs in educational fields and discussing with your co-learners about the cases in order to create a new method. Through these activities, students will deepen their interest and understanding of educational informatics, and will be able to design their own method for teaching/learning.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育情報学の融合性・学際性・先端性について理解する
- ・教育情報学の様々な実践例を学ぶことを通して、自分自身で情報通信技術を用いた簡単な教育／学習方法を提案し、実践できる。
- ・To be able to understand the integrity, interdisciplinarity, and advancement of educational informatics.
- ・To be able to design, propose, and practice your own teaching/learning method using ICTs.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：オリエンテーション（担当：全員）
- 第2回：教育のための情報技術(1)：ロボットを使った自閉症療育支援（担当：小嶋秀樹）
- 第3回：教育のための情報技術(2)：人工知能入門（担当：小嶋秀樹）
- 第4回：教育のための情報技術(3)：情報環境のデザインと支援技術（担当：小嶋秀樹）
- 第5回：教育における情報技術(4)：データ可視化とインフォグラフィクス（担当：小嶋秀樹）
- 第6回：教育における情報技術(5)：議論の可視化とファシリテーション（担当：小嶋秀樹）
- 第7回：教育における情報技術(6)：未来の学びをデザインする（担当：小嶋秀樹）
- 第8回：講義型授業における ICT(1)：実践事例（担当：中島平）
- 第9回：講義型授業における ICT(2)：背後にある技術と教授法（担当：中島平）
- 第10回：講義型授業における ICT(3)：試作と実践（担当：中島平）
- 第11回：実習型授業における ICT(1)：実践事例（担当：中島平）
- 第12回：実習型授業における ICT(2)：背後にある技術と教授法（担当：中島平）
- 第13回：実習型授業における ICT(3)：試作と実践（担当：中島平）
- 第14回：教育情報学実践論概論まとめ(1)：実践に関するディスカッション（担当：全員）
- 第15回：教育情報学実践論概論まとめ(2)：全体のふり返り（担当：全員）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ミニットペーパーとレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特になし。必要に応じて配布する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

第2回目以降では、事前に前回の講義について自主レビューしておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

① クラスコード

44n4cyy

② 第一回授業の開始時期

4月23日(木) 2限: 10:30～(収録動画の配信はその翌日から)

③ 授業の実施方法

Meet を用いたリアルタイム方式およびオンデマンド方式(収録動画の配信)を併用する。詳細については、初回の授業で説明する。

④ 関連資料の入手方法

授業用の Meet 接続情報・収録動画・配布資料はすべて Classroom 上で提供する。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

Meet の利用が困難な場合はオンデマンドで視聴すること。それでも困難な場合は xkozima@tohoku.ac.jp に連絡のこと。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 08:59:16

科目名/Subject : 人間形成史特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 八畝 友広

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

日本におけるリテラシーの歴史

History of literacy in Japan

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

現代における教育の最大の特質は、文字を使用しておこなわれる知識形成と人間形成とが教育の中核として位置づけられているところにある。この講義では、このような教育の在り方が日本においてどのように展開し現在に至ったのかということに関して歴史的に講ずるものである。これにより、教育と人間形成全体のなかで文字およびその教育がどのような位置を占めるのかについて考察し、日本の歴史に即して、リテラシーがどのように形成されてきたのかについての理解を育成する。

History of literacy in Japan is introduced, focusing on the relation between the human formation and literacy in Japan.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育と人間形成の歴史的な形成過程を明らかにする一環として、文字についての教育、および文字を使用した教育に焦点をあてて、その展開過程について講ずる。これにより、日本におけるリテラシーの歴史、およびリテラシーを形成する教育の歴史について、専門的な知見を形成することを目的とする。

The aim of this course is to help students acquire the historical process of distribution of literacy and education in premodern Japan and Meiji Japan.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：リテラシーの歴史的な形成という視点について

第2回：認知的道具としての文字

第3回：教育・人間形成と文字の関係

第4回：西洋における識字の歴史

第5回：日本における識字の歴史

第6回：日本における書記言語と読み書き教育の特色

第7回：前近代日本における教科書（往来物）の成立

第8回：前近代日本における教科書（往来物）の展開

第9回：前近代日本における読み書き教育の成立と展開

第10回：近世日本におけるリテラシーの構造

第11回：認知的道具としての文房具

第12回：近代学校の教育課程

第13回：近代学校とリテラシーの転換

第14回：成人の自己教育とリテラシー

第15回：リテラシーの歴史に関するカンファレンス

1. Viewpoint of the historical process of literacy

2. Letter and character as cognitive tools

3. Relation between human formation and literacy

4. The history of literacy in Western societies

5. The history of literacy in Japan

6. Characteristic of character, letter and education in Japan

7. Birth of textbook in premodern Japan

8. Development of textbooks in premodern Japan

9. Birth and development of education for reading and writing in premodern Japan

10. Literacy in Tokugawa Japan

11. Stationary as cognitive tools

12. Curriculum of modern school

13. Change of literacy and modern school system

14. Adult education and literacy

15. Conference on the history of literacy

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート課題 (50%)、カンファレンス発表 (50%)

Report:50%

Presentation on conference:50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は指定しない。

参考書については、授業時間中に適宜指示する。

No text book

Reference books will be introduced in the lecture

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レポートの作成およびカンファレンスの発表のための学習を要する。

The students need to prepare for report and presentation on conference

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

tveklbs

②第一回授業の開始時期

4月23日(木曜)10:30~開始

③授業の実施方法

Google Meet によるリアルタイム方式で実施。受講希望者は前日までに、八咫まで DC メールにて連絡のこと (tomohiro.yakuwa.b8@tohoku.ac.jp)。また当日、Meet の URL をクラスルームに掲示する。

④関連資料の入手方法

授業の資料は、クラスルームに置いておくので、各自あらかじめダウンロードのこと。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

オンライン授業参加困難な学生は、八咫までメール (tomohiro.yakuwa.b8@tohoku.ac.jp) のこと。なんらかの代替的措置を講ずる。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 09:43:13

科目名/Subject : スポーツ文化論特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 鷲谷 洋輔

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

からだで学ぶということ

Learning from the body

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

「からだで学ぶ」とはどういうことか。いかなる学びも、からだを除いては成立しない。ゆえに、「からだで学ぶ」ということの意匠を考えるには、からだとは何か、学びとは何かというように重層的に入り組んだ問いにあらためて向き合うことが求められる。これを踏まえながら、本授業では「からだで学ぶ」ということを検証すること、実践することの二つの軸を縫い合わせながら進めていく。

What does “learning from the body” mean? It is necessary to reconsider the multi-layered questions around what is the body and what is learning. The course focuses on examining the acts of learning through/with /from the body, while simultaneously practicing such attempts through self-directed fieldwork.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

「からだで学ぶ」ということの理解を深める

Develop an understanding of learning through/with /from the body through fieldwork.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

授業は以下のようなテーマに沿って進められる。トピックごとの発表者を決め、レポートの発表とディスカッションを行う。
Contents and progress schedule of the class: Students give presentations on topics suggested below and lead classroom discussions.

1－3 身体知 Bodily knowledge

4－6 エンボディメント Embodiment

7－9 フィールドワーク Fieldwork

10－12 観察 Observation

13－15 アートと学術 Arts and academic productions

5. 成績評価方法/Evaluation method :

中間レポート (40%)、期末レポート (60%)

Midterm paper (40%), Final paper (60%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

文献の精読とディスカッション、発表準備に加え、フィールドでの実践を各自が同時進行で進めることが求められる。

Aside for reading materials and preparing for presentations, each student is required to conduct fieldworks of their chosen interests on their own.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: “○” Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

① クラスコード

7pk7ldx

② 第一回授業の開始時期

4/23 (木) 10:30-

Google Meet にて実施する。受講者は 4/22 まで東北大メールで以下まで通知すること (yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp)

③ 授業の実施方法

基本的に授業は Google Meet を用いるライブ方式と、課題の提出とを交えて行う。講義資料や課題は Classroom にて提示する。

④ 関連資料の入手方法

Classroom に適宜アップロードする

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談の上対応する (yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp まで連絡のこと)

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/16 10:32:22

科目名/Subject : 臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 安保 英勇

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

心理アセスメント演習

psychological assesment

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

質問紙法によるパーソナリティと症状の査定、及び知能の査定を扱う。講義と共に実際のツールに触れ、体験的な理解も目指す。

This class deals with personality and symptom assessment by questionnaire method and assessment of intelligence.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

心理アセスメント技法の基礎を習得する。諸検査の特徴を理解し、必要に応じ適切な検査を選択し、実施できるようになる。

Learn the basics of psychological assessment techniques.

Understand the characteristics of various tests.

Participants will be able to select and conduct appropriate inspections as necessary.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 性格の類型論
- 2.-3. 性格の特性論
- 4-10 パートナリティテスト
- 11-12 精神症状の査定
- 13-15 知能テスト

1. Typology of personality
- 2.-3. Trait theory
- 4-10 Personality tests
- 11-12 Assessment of mental states
- 13-15 Intelligence test

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加状況 30%、学期末のレポート 70%

attitude in class:30%, final report:70%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

参考書 : 下仲順子編、臨床心理査定技法 1、誠信書房、2004。このほか適宜教室で指示。

Some handouts will be distributed in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキスト講読、質問票への回答等

Text reading, answering questionnaire etc.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

この授業は、臨床心理研究コースの学生のために開設されている。

This class is set up for students of the clinical psychology research course.

(Google クラウドルーム対応)

①クラスコード

mlqpgi5

②第一回授業の開始時期

4月23日（木）2限：10：30 までに掲示

③授業の実施方法

オンデマンド方式（動画（音声 p p t）配信方式）

④関連資料の入手方法

授業用の動画・資料はClassroomで紹介

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談（hideo.ambo.d5@tohoku.ac.jp へ連絡のこと）

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 13:56:27

科目名/Subject : 学校教育論概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 劉 靖

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

SDGs 時代における学校教育の在り方と教育改革 School Education and Education Reform in the Era of SDGs

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業は、日本を含むグローバル社会における教育改革の流れと学校教育の展開を通して、SDGs 時代における学校教育のあり方および教育改革の可能性と限界を理解することを目的とする。

本授業は大きく四部に構成される。第1部（第2-5回）は、持続可能な社会と学校教育のあり方について。第2部（第6-8回）は、グローバル教育改革について。第3部（第9-12回）は、日本の教育改革と学校教育について。第4部（第13-15回）は、未来への学校教育について概説する。

This course aims at enhancing participants' understanding of school education in the era of SDGs and possibilities and limitation of education reform through reviewing education reform movement and development of school education both in Japan and the global society.

There are four parts, including Part 1 (Session 2-5): Sustainable Society & Education; Part 2 (Session 6-8): Global Education Reform; Part 3 (Session 9-12): Japan's Education Reform & School Education; and Part 4 (Session 13-14): School Education of the Future.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

本演習の目的は次の2点である。

- ①日本を含むグローバル社会における教育改革の流れと学校教育の展開および最新動向を把握できる。
- ②SDGs 時代における学校教育のあり方および未来への学校教育の可能性と限界について理解を深める。

The goals of this course include,

- 1. understand education reform movement and development and new trends of school education both in Japan and the global society.
- 2. enhance understanding of school education in the era of SDGs and the possibilities and limitation of school education for the future.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 Session 1: オリエンテーション Orientation: 教育改革の論理と学校教育の展開 Theoretical Background of Education Reform & Development of School Education

第1部 Part 1: 持続可能な社会と学校教育のあり方 Sustainable Society & Education

第2回 Session 2: SDGs 時代における教育のあり方 School Education in the Era of SDGs

第3回 Session 3: 持続可能な開発目標としての学校教育 School Education as goals of SDGs

第4回 Session 4: 持続可能な社会の構築の方法としての学校教育 School Education as Means for Constructing a Sustainable Society

第5回 Session 5: 学校教育とパートナーシップ School Education & Partnership

第2部 Part 2: グローバル教育改革 Global Education Reform

第6回 Session 6: グローバル教育の変遷: 四つの道 Global Education Change: Four Ways

第7回 Session 7: グローバル教育改革運動① 競争と標準化 Global Education Reform Movement 1: Competition & Standardization

第8回 Session 8: グローバル教育改革運動② 学校選択 Global Education Reform Movement 2 School choice

第3部 Part 3: 日本の教育改革と学校教育 Japan's Education Reform and School Education

第9回 Session 9: 日本の学校教育制度 Japan's School Education System

第10回 Session 10: 日本の教育改革のあゆみ Japan's Education Reform Movement

第11回 Session 11: 日本の学校教育の課題 Issues of School Education in Japan

第12回 Session 12: Society 5.0 に向けての学校教育 School Education towards Society 5.0

第4部 Part 4: 未来への学校教育 School Education of the Future

第13回 Session 13: 学習内容の転換 Shifting learning content

第14回 Session 14: 学習経験の転換 Shifting learning experiences

第15回 Session 15: 振り返り Reflection

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (20%), 発表 (40%), 最終レポート (40%) による総合評価

Participants will be evaluated comprehensively through their participation attitude (20%), presentations (40%), and final report (40%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書: 適宜、配布 (ISTU を通して) 予定。Reading assignments will be distributed through ISTU.

参考文献 References :

藤田英典著『教育改革: 共生時代の学校づくり』岩波書店、1997 年

橋木俊詔著『日本の教育格差』岩波書店、2010 年

中澤渉著『日本の公教育: 学力、コスト、民主主義』中央公論新社刊、2018 年

北村友人・佐藤真久・佐藤学編著『SDGs 時代の教育』学文社、2019 年

広田照幸著『教育改革のやめ方: 考える教師、頼れる

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

学生には、日本を含めるグローバル社会における教育改革の流れと学校教育の展開および最新動向に関する情報を収集し、クラスで情報を共有することを強く推奨する。

Students are highly encouraged to collect information on education reform movement and development and new trends of school education both in Japan and the global society and ac

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

このクラスには、英語での高い読解力が望ましい。ただし、このことは英語初学者の受講を排除するものではない。

A high level of reading comprehension in English is expected for this class. However, English speaking beginners are also warmly welcome to join the class.

オフィスアワー: 木曜日 15:00-17:00

Office hour: Thursday 15:00-17:00

担当教員メールアドレス: jing.liu.e8@tohoku.ac.jp

Email of Lecturer in Charge: jing.liu.e8@tohoku.ac.jp

(Google クラ斯拉ーム対応)

① クラスコード

5y6k2ty

② 第一回授業の開始時期

4月23日(木) 13:00~

③ 授業の実施方法

- ・授業は Google Meet を使用し行う予定
- ・受講希望者は4月22日(水) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように (jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。

④ 関連資料の入手方法

- ・授業の資料については、授業開始前までに Google Classroom の共有ドライブにアップロード予定 (受講希望者を招待する)。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・説明会や授業を録画し、Google Classroom で履修生に共有する
- ・オンライン授業への参加が困難な学生については、4月22日(水) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように (jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/07 16:49:11

科目名/Subject : 人間形成論特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 李 仁子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

地域社会と祭り

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

東日本大震災の被災地では、地域の祭礼を支えるコミュニティが大きな傷手を被り、多くの祭りが一時的に開催不能に追い込まれた。しかし、復興の精神的象徴として祭りの復活を求める声は日増しに大きくなり、規模や形式は従前とは異なるものの多くの地域で祭りが再び行われるようになってきた。そこで、この授業では、被災地で復活した地域密着型の祭りを主たる対象にして、従来の祭り研究の蓄積を参照しつつ、地域社会と祭りについて再考していきたい。同時に、さまざまな地域の伝統的な祭りから都市部の現代的な祭礼まで、多様な祭りを比較軸に据え、祭りをめぐる諸問題についても考察を深めていく。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・ 祭りという文化的事象を通して地域社会や伝統文化に対する理解を深める。
- ・ 被災地のコミュニティや個人にとって祭りとはどのようなものかを考えることで、被災地やその復興プロセスに関して複眼的な視点を得る。
- ・ 現代の多様な祭りを横断的に比較することにより、異質なものと他者に対する文化人類学的なとらえ方を身につける。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1) オリエンテーション
- 2) 祭りに関する民俗学的研究
- 3) 祭りに関する宗教学的的研究
- 4) 祭りに関する文化人類学的研究
- 5) 祭りの諸相① (都市と地方)
- 6) 祭りの諸相② (伝統と革新)
- 7) 祭りの諸相③ (平時と非常時)
- 8) 大規模な祭りを支えるコミュニティとネットワーク
- 9) 地域密着型の祭りを支えるコミュニティとネットワーク
- 10) 祭りの継承と伝授
- 11) 村おこしとしての祭り
- 12) 被災地の復興とコミュニティ
- 13) 被災地のコミュニティと祭り
- 14) 被災者にとっての祭り
- 15) 地域社会と祭り再考

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業での発表やディスカッション (50%)、レポート (50%)。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業の初回に紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業においては積極的に発言し、自発的に発表するような姿勢が求められる。

(Google クラウドルーム対応)

① クラスコード

vh22a4b

② 第一回授業の開始時期

4月23日 13時00分開始

③ 授業の実施方法

・ オンライン授業 (Google Meet)

・ 受講希望者は5月10日 (水) 正午まで、李までDCメールにて連絡をするように (mail@leeinja.net)"

④ 関連資料の入手方法

初回の授業にて紹介する。基本的には、Classroomで紹介

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

対応困難な理由に沿って提示する。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/25 08:44:24

科目名/Subject : 教育社会学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

社会理論の基礎と応用 (Social Theory)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

現代社会学の理論を理解し、実証分析に応用できるようになる

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- (1) 社会学研究で用いられる社会理論の基礎を理解する
- (2) 社会理論の知識を用いて、社会現象の分析が可能になる

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 Introduction
- 2 The Origins of Social Theory
- 3 Evolutionism and Functionalism
- 4 Radical Anti-capitalism
- 5 Social Action and Social Complexity
- 6 Political Social Theories
- 7 Economic Social Theories
- 8 Social Theory and Gender
- 9 Society, Self, and Mind
- 10 Systems, Structuration, and Modernity
- 11 Critical Theory
- 12 World System Theories
- 13 Symbolic Interactionism
- 14 Rational Choice and Exchange
- 15 Knowledge, Truth, and Power

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (20%), 発表・レポート (40%), 課題 (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Turner, R. (2008). The New Blackwell Companion to Social Theory. Wiley-Blackwell.
 Ritzer, G. & Stepnisky, J. (2014). Sociological Theory. McGraw-Hill Education.
 Calhoun, C. et al. (2012). Contemporary Sociological Theory. Wiley-Blackwell.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする
- ★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

- ★This is NOT an introductory class.
- ★A high level of proficiency in English is required for this class.
- ★Assignment は必ずやり遂げてから授業に出席すること
- ★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる
- ★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります
- ★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります
- ★本授業科目は東北大学国際高等研究教育院および文学研究科グローバルCOEの指定科目も兼ねる。

(Google クラウド対応)

① クラスコード

c6cgq5u

② 第一回授業の開始時期

4/23 日に第一回目の授業を行う。

③ 授業の実施方法

授業形式は google meet による Online 授業とする。

④ 関連資料の入手方法

授業の資料は、Classroom にアップロード予定。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

オンライン授業に参加困難な学生には授業で使用する PowerPoint のファイルを配布し、メールで質問を受け付ける

⑥その他

通常の教室での対面授業が可能になり次第、そちらに戻る

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 14:54:19

科目名/Subject : 教育情報学基礎論特論 II

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 熊井 正之

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

コミュニケーション研究法/Research Methods in Communication Studies

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、コミュニケーションのモデルと理論を概観するとともに、コミュニケーション研究法を解説する。

/This course provides an overview of the models and theories of communication, and explanations of research methods in communication studies.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

この授業の目標は、(1)コミュニケーションの要素、目的、特性を理解し、自分なりに説明できるようになること、(2)コミュニケーション研究法を理解し、応用できるようになることである。

/

The goals of this course are to

(1) be able to understand and explain the elements, purposes, and characteristics of communication in their own words,

(2) be able to understand and apply research methods in communication studies.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. コミュニケーションとは

2. 意味とは

3-4. コミュニケーションの要素

5. コミュニケーションの類型

6. コミュニケーションの目的

7. コミュニケーションの特性

8-10. コミュニケーションの滞り

11-15. コミュニケーション研究法

/

1. Definition of communication

2. Meaning of meaning

3-4. Elements of communication

5. Types of communication

6. Purposes of communication

7. Characteristics of communication

8-10. Communication problems

11-15. Research methods in communication studies

5. 成績評価方法/Evaluation method :

複数のショートレポート (約 55%)、学期末レポート (約 30%)、授業への取り組み (約 15%)

/Short reports (about 55%), final report (about 30%), class participation (about 15%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

各回に配付する資料を教科書・参考書として用いる。

/ No textbooks will be used. References are handed out at every class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

課題に取り組むことを中心に、各回の配付資料を用いて復習すること。

/Students are required to make a thorough review each class using handouts, mainly by completing assignments.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

① クラスコード

4q5jhuj

② 第一回授業の開始時期

・第 1 回講義 (オリエンテーション) は 4 月 30 日 (木) 13:00 から実施します。

③ 授業の実施方法

・履修希望学生は、4 月 23 日 (木) 14:30 までに熊井 (kum@tohoku.ac.jp) まで DC メールで「教育情報学基礎論特論 II を履修希望」と必ず連絡をしてください。

・Google Classroom を用いたオンデマンド型の講義動画配信を予定していますが、履修学生数により Google Meet を用いた生中継型授業等に変更する可能性があります。

④関連資料の入手方法

・各回の授業で用いる資料は、各回の授業開始日時までに Google Classroom にアップロードする予定です。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・講義動画の閲覧可能な状況になってからの視聴を認めます。状況が改善しない場合に備え、高圧縮した講義動画もアップロードする予定です。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/11 16:45:12

科目名/Subject : 臨床心理研究法特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 若島 孔文, 加藤 道代, 安保 英勇, 吉田 沙蘭, 前田 駿太, 砂川 芽吹, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学の研究手法 / Clinical Psychology Research

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学の研究手法の基礎およびその実践を学ぶ。

心理学研究の方法論、統計法などを踏まえ、調査研究、実験研究、事例研究などについて理解する。 / Learn the basics and practice of research methods of clinical psychology. Based on psychology research methodology, statistical method etc, understand survey research, experimental research, case study etc.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

臨床心理学の研究法を習得する。 / Mastering clinical psychology research methods

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

受講生は各自の研究テーマ、研究内容を計画し、発表・討論する。

1. オリエンテーション
2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介
15. 総括 /

Students plan their own research, present and discuss them.

1. Orientation
2. ～14. Presentation and discussion on research, and literature introduction
15. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

研究発表およびそのレポート、授業の参加、発表時の討論への積極的参加により評価する。 / Evaluate by submitting activities and reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に適宜、提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自研究テーマに従い、論文を読むこと。また、研究を計画していくこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

① クラスコード

i32tjgd

② 第一回授業の開始時期

・第一回目の授業は4月23日(木) 13:00～から実施

③ 授業の実施方法

・授業は ZOOM を用いて行う予定が各ゼミで異なる。

④ 関連資料の入手方法

・資料は各教員にメールにて送る。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・オンライン授業への参加が困難な学生については、各ゼミ担当の先生までメールにて連絡をするように。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 11:13:50

科目名/Subject : 教育情報学実践論特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 小嶋 秀樹

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

人間科学と認知工学の多様な接続の探究

Explorative integration of human sciences and cognitive engineering

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育・療育の先端的な研究に従事するには、人間の身体・脳・認知に関して、認知工学的な視点から理解するスタンスが求められる。この要請に対して学際的なアプローチをとる本講義は、人間に関する諸科学（脳科学・認知心理学・発達心理学・進化心理学など）を縦糸とし、担当教員が専門とする認知発達ロボティクスという工学的な視点を横糸として、それらが織りなす重層的な人間理解を解説していく。また、講義の後半では、このような学際的なアプローチの一例として、担当教員による一連の研究（ロボットを活用した自閉症療育支援）について詳説し、修士論文研究など今後の学修や研究に向けた見通し・動機づけを与える。

To engage in the cutting-edge research of education and therapy, students are required to cultivate a deep understanding of the human body, brain, and cognition from the viewpoint of cognitive engineering. In this interdisciplinary course of lectures, students learn to weave an integrated understanding of human nature from topics of cognitive developmental robotics research and the human sciences such as brain science, cognitive psychology, developmental psychology, and evolutionary psychology. In the final part of the course, students examine research on using robots for autism therapy that was done by the lecturer. Through these activities, students are expected to be able to foresee their future studies and research on the field.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育・養育の分野に関する人間の認知特性を工学的な視点から深く理解できる。
- ・未来の教育・療育の形をデザインし、技術的な実現可能性やその教育・療育における効果等について深く検討し、説明・表現することができる。
- ・人間理解とテクノロジーをつなげ、その後の学修・研究に向けた動機づけや、教育・療育における実践的な手法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。
- ・To be able to understand the fundamentals of human cognitive nature for future education and therapy from the viewpoint of cognitive engineering.
- ・To be able to design future forms of education and therapy, and to explain the expected effects of their technical feasibility and expected effects.
- ・To be able to have the perspective for producing innovative education and therapy in their future study and research.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：イントロダクション：人間科学と認知工学
- 第2回：身体性認知科学：環世界とアフオーダンス
- 第3回：脳科学概論：脳の構造と機能
- 第4回：認知発達理論の諸相（1）個体学習から社会的学習へ
- 第5回：認知発達理論の諸相（2）活動理論とナチュラルペダゴジー
- 第6回：コミュニケーション発達（1）共同注意
- 第7回：コミュニケーション発達（2）心の理論
- 第8回：模倣と言語の発達（1）行為と意図の模倣
- 第9回：模倣と言語の発達（2）シンボルと文法の獲得
- 第10回：模倣と言語の発達（3）文化の創造と継承
- 第11回：ロボットによる自閉症療育：ケーススタディー
- 第12回：ICTによる自閉症療育
- 第13回：自閉症研究の諸相
- 第14回：自閉症の脳科学
- 第15回：まとめ：人間科学と認知工学の融合に向けて
定期試験（レポート）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時間内で随時行う小テスト（計 50%）と最終レポート「人間の認知特性をふまえた研究構想」（50%）を総合して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- エドワード・リード「アフオーダンスの心理学」新曜社
- 河野哲也「環境に拓がる心」勁草書房

高橋宏知「メカ屋のための脳科学入門」日刊工業新聞社
遠藤利彦編「読む目・読まれる目」東京大学出版会

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

第2回目以降では、事前に前回の講義について自主レビューしておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

rjco4de

②第一回授業の開始時期

4月23日(木)4限:14:40~(収録動画の配信はその翌日から)

③授業の実施方法

Meetを用いたリアルタイム方式およびオンデマンド方式(収録動画配信)を併用する。詳細については、初回の授業で説明する。

④関連資料の入手方法

授業用の Meet 接続情報・収録動画・配布資料はすべて Classroom 上で提供する。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

Meet の利用が困難な場合はオンデマンドで視聴すること。それでも困難な場合は xkozima@tohoku.ac.jp に連絡のこと。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 09:04:48

科目名/Subject : 教育心理学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育心理学における「論争」

Clashing Views in Educational Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、教育心理学に関連する諸問題をめぐる学術論争を通して、論争の背景にある心理学理論ならびに教育思想の違いについて学ぶ。

In this course, students will learn about the differences in psychological theories and educational ideas behind the academic controversies over issues related to educational psychology.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①教育心理学に関する論争の内容について理解する。
- ②論争の背景にある理論的・思想的対立について理解する。
- ③論争について、自分なりの意見を持てる。

The goals of this course are to

- (1) Understand the content of controversies about educational psychology.
- (2) Understand the theoretical and ideological conflicts behind the controversies.
- (3) Having your own opinion on the controversies.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 心理科学は教育の質を向上させるか?
2. 生徒は自由であるべきか?
3. 構成主義的教授法は伝統的教授法よりもすぐれているか?
4. 国際比較は役に立つか?
5. 学年別編成は学習に役立つか?
6. インクルージョンは障害児にとって常に最善の選択肢か?
7. 宿題は学業成績を改善するか?
8. 教育に親が関与することは学業成績に影響するか?

1. Can psychological science improve the quality of Education? (E.L. Thorndike vs J. Dewey)
2. Should students be free?
3. Are constructivist teaching methods superior to traditional methods of teaching?
4. Are international comparisons helpful?
5. Does grading help students learn?
6. Is full inclusion always the best option for children with disabilities?
7. Does Homework improve student achievement?
8. Is parental involvement in education critical

5. 成績評価方法/Evaluation method :

議論への参加度 50%、期末レポート 50% で評価する。

The degree of participation in discussion (50%), final report (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

E.S. Chang (2017). Taking Sides: Clashing Views in Educational Psychology 8th Edition, McGraw-Hill Education.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

あらかじめ参考書および関連資料を読み、議論の準備をする。

The students are expected to read the reference books and related materials beforehand and prepare for the discussion.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

連絡先 : kudou@sed.tohoku.ac.jp

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

eo7ueh2

②第一回授業の開始時期

4/23 (木) 4 限開始。

③授業の実施方法

リアルタイム方式で、Meet を用いた双方向授業を予定。

④関連資料の入手方法

Google Classroom にて紹介予定

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

資料配付方式で対応

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/19 12:31:01

科目名/Subject : 臨床心理研究法特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 若島 孔文, 加藤 道代, 安保 英勇, 吉田 沙蘭, 前田 駿太, 砂川 芽吹, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学の研究手法 / Clinical Psychology Research

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学の研究手法の基礎およびその実践を学ぶ。

心理学研究の方法論、統計法などを踏まえ、調査研究、実験研究、事例研究などについて理解する。 / Learn the basics and practice of research methods of clinical psychology. Based on psychology research methodology, statistical method etc, understand survey research, experimental research, case study etc.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

臨床心理学の研究法を習得する。 / Mastering clinical psychology research methods

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

受講生は各自の研究テーマ、研究内容を計画し、発表・討論する。

1. オリエンテーション
2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介
15. 総括 /

Students plan their own research, present and discuss them.

1. Orientation
2. ～14. Presentation and discussion on research, and literature introduction
15. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

研究発表およびそのレポート、授業の参加、発表時の討論への積極的参加により評価する。 / Evaluate by submitting activities and reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に適宜、提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自研究テーマに従い、論文を読むこと。また、研究を計画していくこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

① クラスコード

7x6z36a

② 第一回授業の開始時期

・第一回目の授業は4月23日(木) 13:00～から実施

③ 授業の実施方法

・授業はZOOMを用いて行う予定が各ゼミで異なる。

④ 関連資料の入手方法

・資料は各教員にメールにて送る。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・オンライン授業への参加が困難な学生については、各ゼミ担当の先生までメールにて連絡をするように。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 11:15:06

科目名/Subject : 生涯学習論合同演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 石井山 竜平, 甲斐 健人, 鷲谷 洋輔

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
生涯学習研究の新動向
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
生涯学習に関係する注目すべき研究成果を取り上げ、教員および大学院生全員での検討を行う。また、関連学会の年報、紀要への投稿予定者や、学会発表予定者の事前検討会も合わせて行う。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
教員も院生も共に学び合う場であるので、到達目標は特に設定しない。
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**
 - ・日本社会教育学会等の紀要論文、及び年報論文などの検討
 - ・学会発表、論文投稿の事前検討
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
出席及びレポート、討議への参加などを総合的に評価する。
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
受講生で話し合いながら決定する。
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
担当教員を指導教員とする院生は、すでに受講済みの学生であっても、原則参加すること。

(Google クラスルーム対応)
① クラスコード
rtwtkug
② 第一回授業の開始時期
"・第一回目の授業は 4 月 23 日 (木) 4 限 16:20 から実施
③ 授業の実施方法
・授業は Google Meet を使用し行う予定
・受講希望者は 4 月 22 日 (水) 正午までに石井山まで D C メールにて連絡をするように
(ryuhei.ishiiyama.e1@tohoku.ac.jp)。"
④ 関連資料の入手方法
追って指示する。
⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策
・オンライン授業への参加が困難な学生については授業前日正午までに石井山まで D C メールにて連絡をするように
(ryuhei.ishiiyama.e1@tohoku.ac.jp)。
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/22 13:48:14

科目名/Subject : 教育心理学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 深谷 優子, 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育心理学研究の構想と展開 I

Research concept and its development of educational psychology 1

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業は、大学院生各自の研究について、それぞれの構想ないしデータ収集中の研究の途中経過を報告し、参加者全員で検討することを通して、研究の構想とその具体化、研究結果の記述などについて相互に学習する機会を提供することを目的とする。

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge that needed to conduct psychological research in education.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①研究計画の立案方法について知識を得る。
- ②自身の研究構想を実現するための具体的なデータ収集計画を立案できる。
- ③教育心理学研究におけるデータ分析の手法について理解を深める。
- ④自身の研究のデータ分析を的確に行うことができる。
- ⑤研究結果や考察の記述・呈示の方法について知識を得る。
- ⑥自身の研究結果について、適切な考察を記述できる。

The goals of this course are to

- (1) Learn the knowledge to make your own research plan.
- (2) Develop a data collection plan for your research.
- (3) Understand data collection techniques.
- (4) Analyze your data accurately.
- (5) Learn the knowledge about how to write research results and considerations
- (6) Consider your research results appropriately.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第 1 回 ~ 第 15 回 学生各自が自身の研究構想ないし途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。

Each student reports on their own research concept or progress and discusses it. Then, they report what changes have been made to their research plans as a result of the discussion. In addition, they report on their data and the results of their analysis.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献 (80%), 期末レポート (20%) により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution (80%) and term paper (20%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に用いない。参考書については授業内で適宜紹介する。

Will be introduced in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・研究構想 (途中経過も含む) を立案する。
- ・データおよびその分析を遂行する。
- ・討議の準備 (報告者によるレジュメ作成, 受講者による質問準備等) を行う。
- ・討議の結果を研究構想・計画, 論文等に反映させる。

The students are expected to 1) make their own research plan; 2) analyze their data; 3) prepare for discussion; 4) reflect the results of discussions

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この講義は教育心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。

This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

ptfdcmu

②第一回授業の開始時期

4月23日(木)5限 16:20～

③授業の実施方法

Meet を用いた双方向授業の予定。

④関連資料の入手方法

授業用の資料はClassroom で共有する。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に対応する。4月22日(水)までに深谷(yuko.fukaya.a7@tohoku.ac.jp)に連絡すること

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/26 17:46:36

科目名/Subject : 発達心理学研究演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 神谷 哲司, 長谷川 真里

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達心理学研究の方法と分析 I

Methods and Analyses of Developmental Psychology Research I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、大学院生各自の研究について、それぞれの構想と内容（目的・方法・結果等）を発表し、参加者全員で検討することを通して、研究の進め方、研究結果の記述、提示の方法について学ぶことを目的とする。

This course deals with the basic psychological research skills through discussion about participants' research design and report.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 研究計画の立案方法について学ぶ。
2. 発達心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。
3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。

The goals of this course are to learn

1. the way to make a research design
2. methods of data analysis on developmental psychological research.
3. how to describe connected thesis through purpose, results, and discussion.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第 1 回～第 15 回 学生各自が自身の研究構想ないし、途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。

Each participant reports on their own research concept or progress and discusses it. Then they report what changes have been made to their research plans as a result of the discussion. In addition, they report on their data and the results of their analysis.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献(80%), 期末レポート(20%)により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution (80%) and term paper (20%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に用いない。参考書等については、授業時間内に適宜紹介する。

Will be introduced in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・研究構想の立案
- ・データ分析
- ・討議の準備（報告者によるレジュメ作成、受講者による質問準備等）を行う。
- ・討議の結果を研究構想・計画、論文等に反映させる。

The participants are expected to 1) make their own research plan; 2) analyze their data; 3) prepare for discussion; 4) reflect the results of discussion in their research

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この講義は発達心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。

This course is for students whose research interests in Developmental Psychology. Other psychology students are also welcomed.

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

7m3317d

②第一回授業の開始時期

初回：4月23日(木) 16:20～

③授業の実施方法

・授業はGoogle Meet を使用する予定

④関連資料の入手方法

classroomにて共有

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に対応します。可及的速やかに神谷 (kamiya@sed.tohoku.ac.jp) まで連絡ください。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:41:54

科目名/Subject : 臨床心理実習 I (心理実践実習 I)

曜日・講時/Day/Period : 通年 随時

担当教員/Instructor : 2020 安保 英勇, 加藤 道代, 若島 孔文, 吉田 沙蘭, 前田 駿太, 砂川 芽吹, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理演習/
Clinical Psychology (Practice)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理臨床の専門性を有した援助と連携について、実習を通じて学習する。/
In this subject, students will learn about specialized support methods and cooperation in clinical psychology.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

実際の心理面接を遂行できること、また、他機関との連携ができること。/
The goal is to allow students to conduct actual psychological interviews and to be able to collaborate with other organizations.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

実習講義事前指導、大学病院実習、学外実習施設（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野）、学内相談施設（臨床心理相談室における心理面接、ケース検討（第1学期）、スーパービジョン）での実習を軸に進める。
心理に関する支援を要する者等に関する知識および技能（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等）、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携および地域連携、職業倫理および法的義務等の内容について、実習を通じて学習する。/
This subject is practical training in the Clinical Counseling Room in Tohoku University and the outside institute (health and medical field, welfare field, education field, legal field, and industry field).
Through practical training, learn about specialized knowledge and skills (communication, psychological assessment, psychotherapy, regional support, etc.) professional understanding needs, preparing support plans, professional team approach, multi-occupation collaboration and regional collaboration, professional ethics and legal obligations.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

学内・学外両実習の活動状況（70%）およびレポート（30%）で総合的に判断する。/
Evaluate by activities and submission of several reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

実習先等に関する資料を随時、提示する。
Information on the training institute etc. will be distributed.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各実習先の概要および関連する法律の調査、実習記録の作成。/
Preparation of practical training and preparation of report

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開講されている。
実習先に関する詳細は別紙にて配布する。
This class is offered for students in clinical psychology courses.

(Google クラウドルーム対応)

① クラスコード

h3vprp4

② 第一回授業の開始時期

4月23日(木) 5限: 16:20~ (心理実践実習 I・III と合同開催)

③ 授業の実施方法

Classroomを用いた資料配布、Google ドライブを用いた事前課題と、Meet (音声のみ)を用いた双方向授業

④ 関連資料の入手方法

授業用の資料・課題は Classroom に掲載

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談 (hideo.ambo.d5@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/25 18:33:46

科目名/Subject : 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 吉田 沙蘭, 加藤 道代, 若島 孔文, 安保 英勇, 前田 駿太, 砂川 芽吹, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理面接法
Method of Clinical Counseling

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

多様な臨床心理学的理論に基づいた見立てや介入の方法について、実際の事例を用いて学び、体験的に理解することを目的とする。

In this class, the participants learn about the method of assessment and intervention based on various psychological theories, using actual cases. The aim of this class is to understand experientially how to apply psychological theories to the cases.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 多様な心理学的理論について、実際の事例と結びつけて理解すること
2. 理論に関する知識を活用し、事例の見立てや介入について考えられるようになること
3. ひとつの事例について複数の理論的背景を基にした解説を聞くことで、比較の視点を養うとともに、より柔軟かつ多角的な事例の捉え方をすることができるようになること

1. To understand various psychological theories through actual cases.
2. To consider the assessment and intervention using psychological theories.
3. To attain flexible and various perspective in dealing with clinical cases.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

毎回の授業では、学生が提示した事例を用いて、各担当教員が多様な理論的背景に基づいた解説を行う。受講者は解説を受け、グループディスカッションおよび個人ワークを行い、各種理論および事例に対する理解を深める。

The faculty members will explain the cases presented by the participants based on various theoretical backgrounds.

The participants deepen their understanding of various theories and cases through group discussions and individual work.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期末レポートにより評価する
Term paper (100%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事例に関する資料は授業週の月曜日から臨床心理相談室事務室内で閲覧できるので、事前に目を通しておくことが望ましい
Participants are expected to read the case report prior to the lecture.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この授業は臨床心理学コースの学生のために開講される

This class is provided for the students of clinical psychology course.

(Google クラウド対応)

① クラスコード

dthjany

② 第一回授業の開始時期

4月23日(木) 5限: 16:20~ (心理実践実習 I・III と合同開催)

③ 授業の実施方法

Classroomを用いた資料配布、Google ドライブを用いた事前課題と、Meet (音声のみ)を用いた双方向授業

④ 関連資料の入手方法

授業用の資料・課題は Classroom に掲載

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談 (吉田 (saran.yoshida.d6@tohoku.ac.jp) へ連絡のこと)

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 22:06:30

科目名/Subject : グローバル共生教育論合同演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 劉 靖, 松本 大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

持続可能な社会と教育 Sustainable Society & Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

2015 年に採択された持続可能な開発目標 (SDGs) には「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」ことが持続可能な社会の実現のための教育目標として設定された。もう一方で、SDGs 時代の教育は持続可能な社会を実現する直接的な諸課題を解決する方法としても注目されてある。本演習では、SDGs 時代において、「目標としての教育」と「方法としての教育」を着目し、SDGs 時代における社会教育や学校教育を含むすべての教育の在り方について考察し、日本を含むアジア諸国の事例研究を通してその再構築の必要性や方法や課題などを理解し、課題設定力をはじめとする研究力を獲得することを目的とする。

In 2015, "Ensure inclusive and equitable quality education and promote lifelong learning opportunities for all" as an educational goal of SDGs for achieving a sustainable society. On the other hand, education is considered means of dealing with different issues for achieving a sustainable society. By taking education as goals and means, this seminar aims at enabling participants to consider the roles of all types of education (including school education & social pedagogy) in the era of SDGs, to understand the necessity, methods and challenges of reconstruction of these education through case studies of Asia including Japan, and to strengthen their research capacity.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

本演習の目的は次の 3 点である。

- ①持続可能な社会の実現をめぐる教育の役割を理解できるようになる。
- ②SDGs 時代における諸課題に対する教育的な視座を提供できるようになる。
- ③日本を含むアジア諸国の事例研究を通して、研究課題の設定力および考察力を身につけるようになる。

Three Goals of this seminars, including,

- 1. To deepen understanding of the roles of education in achieving a sustainable society;
- 2. To be able to provide an educational perspective to issues in the Era of SDGs;
- 3. To be able to consider and set up research topic through case studies of educational issues in Asia including Japan.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第 1 回 Session 1: オリエンテーション Orientation

第 2 回 Session 2: SDGs 時代における教育のあり方 Education in the Era of SDGs

第 3 回 Session 3: 持続可能な開発のための教育 Education for Sustainable Development (ESD)

第 4 回 Session 4: 地球市民教育 Global Citizenship Education (GCED)

第 5 回 Session 5: 目標としての教育(1) 平等と公平の教育 Education as goals (1) Equality & Equity

第 6 回 Session 6: 目標としての教育(2) 質の高い教育 Education as goals (2) Quality

第 7 回 Session 7: 目標としての教育(3) 学び方の転換 Education as goals (3) Transformation of Learning

第 8 回 Session 8: 目標としての教育(4) 教え方の転換 Education as goals (4) Transformation of Teaching

第 9 回 Session 9: 方法としての教育(1) 健康と福祉 Education as means (1) Health & Well-being

第 10 回 Session 10: 方法としての教育(2) Education as means (2) 環境と経済 Environment & Economy

第 11 回 Session 11: 方法としての教育(3) Education as means (3) 文化と社会 Culture & Society

第 12 回 Session 12: 方法としての教育(4) Education as means (4) パートナリーシップ Partnership

第13回 Session 13: 文献発表(1) Presentation (1)

第14回 Session 14: 文献発表(2) Presentation (2)

第15回 Session 15: 授業の振り返り Reflection

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (20%), 発表 (40%), 最終レポート (40%) による総合評価

Participants will be evaluated comprehensively through their participation attitude (20%), presentations (40%), and final report (40%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

北村友人・佐藤真久・佐藤学 (2019) 『SDGs 時代の教育』学文社

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

f7ahzk2

② 第一回授業の開始時期

4月23日(木) 18:00~

③ 授業の実施方法

・授業はGoogle Meetを使用し行う予定

・受講希望者は4月22日(水) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように(jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。

④ 関連資料の入手方法

・授業の資料については、授業開始前までにGoogle Classroomの共有ドライブにアップロード予定(受講希望者を招待する)。

・授業課題については、Google Classroomで知らせる予定。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・説明会や授業を録画し、Google Classroomで履修生に共有する

・オンライン授業への参加が困難な学生については、4月22日(水) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように(jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/03 19:43:48

科目名/Subject : 犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 1 講時. 前期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 菅藤 健一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

犯罪・非行心理学特論

Advanced lecture on Criminal Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

少年保護法制, 犯罪・非行の現況や犯罪・非行少年の心理的特性及びその支援についての理解を深め, 犯罪・非行臨床のみならず, その他の臨床現場等において直面する問題にできるだけ心理学的知識を獲得することを目的とする。

The aim is to acquire psychological knowledge as much as possible for problems encountered not only in criminal and delinquency clinics but also in other clinical settings by understanding the juvenile protection legislation, the current situation of crime and delinquency, the psychological characteristics of crime and delinquency boys, and their support.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・少年保護法制に関する基本的事実を踏まえて, 少年保護の現状について説明できる。
- ・犯罪・非行に至る少年の心理的特性と支援の方法を説明できる。
- ・犯罪・非行臨床の現況と将来について, 様々な角度から考察し, 説明できる。

Explaining the current status of juvenile protection based on the basic circumstances related to juvenile protection legislation.

Explaining the psychological characteristics of boys who lead to crime and delinquency and how to support them.

Examining and explaining the current status and future of criminal and delinquency clinical practice from various angles.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 オリエンテーション Orientation
- 2 少年保護法制の概説及び関係機関の説明 Outline of juvenile protection legislation and explanation of related organizations
- 3 少年事件の歴史と現況 History and present situation of juvenile case
- 4 架空事例による非行発生機序と処遇について～薬物犯 About mechanism of delinquency occurrence and treatment by fictitious case-drug offender
- 5 架空事例による非行発生機序と処遇について～放火犯 Arsonis
- 6 架空事例による非行発生機序と処遇について～財産犯 Property criminal
- 7 架空事例による非行発生機序と処遇について～女子非行 Women's delinquency
- 8 架空事例による非行発生機序と処遇について～発達障害を有する少年 Boy with developmental disabilities
- 9 少年鑑別所における鑑別システム Classification system in juvenile classification home
- 10 少年院における矯正教育 Corrective education in juvenile training schools
- 11 犯罪・非行臨床における心理アセスメント Psychological assessment in criminal and delinquency clinical practice
- 12 非行少年の人格上の問題, 拘禁の心理 Personality problems of delinquent boys, psychology of detention
- 13 被害者対応, 裁判員制度, 医療観察法他 Victim response, judge system, medical observation method, etc.
- 14 防犯 Crime prevention
- 15 授業の振り返り Review of class

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時の発言内容, 毎授業ごとの小レポートで 30%, 期末に実施する試験またはレポート課題で 70% の割合で評価する。

30% for the content of remarks during class, for small reports for each class, and 70% for exams or report assignments conducted at the end of the term.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書はありません。独自に作成したパワーポイントによる授業を実施します。

参考書としては, 日本犯罪心理学会編 犯罪心理学事典 丸善出版

法務省矯正研修所編 矯正心理学 矯正協会

細江達郎 犯罪心理学 (図解雑学) ナツメ社等を推薦します。

There are no textbooks. I will hold a class using our uniquely created PowerPoint.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

できるだけ新聞等で犯罪に関する記事を読むように心がけてください。日頃から犯罪・非行に対する興味関心を高めて、授業に臨んでいただくとより興味が増すかと思います。授業に主体的に取り組むことを期待しています。

Try to read articles about crime in newspapers and other media as much as possible. I think that raising interest in crime and delinquency on a regular

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business ○

9. その他/In addition:

現場での経験を織り交ぜながら犯罪・非行について解説します。実習や討論も実施します、より主体的・積極的に授業に参加してください。

Explains crimes and delinquencies while intermingling experiences on the spot. Practices and discussions will be held. Please participate more actively and actively in the class.

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

2qidcbp

② 第一回授業の開始時期

4月24日(金) 8:50~から隔週で実施する。

③ 授業の実施方法

授業は資料配布方式で実施する。

④ 関連資料の入手方法

授業の資料については、授業開始前までにアップロードする (google クラスルーム) または連絡係の院生にメール転送をお願いする。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

google クラスルームまたはメールにて教材 PPT を配布する。レポート課題も同様とするので、メールが使用できる環境であれば支障はないと思われる。

10. 更新日付/Last Update:

2020/02/26 18:27:15

科目名/Subject : 教育心理学基礎論

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

学習心理学と教授ストラテジー

Psychology of Learning and Teaching Strategy

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ストラテジー(strategy)とは目的遂行のための長期的な総合戦術のことである。教育においても、個別の教授活動をどうするかという問題を越えた、長期的かつ総合的な教授ストラテジー(teaching strategy)が必要となる。この講義では、教授ストラテジーとその理論的ベースを提供する学習心理学理論について概説する。

This course deals with theories of psychology of learning and its relation to teaching strategies.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①学習心理学の基本概念を知る。
- ②学習心理学理論と教授ストラテジーの関連について理解を深める。

The goals of this course are to

- (1) Obtain basic knowledge about psychology of learning.
- (2) Understand the relationship between theories of learning and teaching strategies.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. ガイダンス
2. 教授ストラテジーはなぜ必要か
3. 行動主義的学習理論
4. 行動主義的学習理論と教授ストラテジー
5. 積み重ね型ストラテジーの特徴(1)
6. 積み重ね型ストラテジーの特徴(2)
7. 認知主義的学習理論
8. 認知主義的学習理論と教授ストラテジー
9. 組みかえ型ストラテジーの特徴ー対決型ストラテジー(1)
10. 組みかえ型ストラテジーの特徴ー対決型ストラテジー(2)
11. 組みかえ型ストラテジーの特徴ー懐柔型ストラテジー(1)
12. 組みかえ型ストラテジーの特徴ー懐柔型ストラテジー(2)
13. 状況主義的学習理論
14. 状況主義的学習理論と教授ストラテジー
15. まとめ

1. Introduction
2. Why teaching strategy is needed.
3. Behaviorist view of learning theory
4. Behaviorism and teaching strategy
- 5~6. Cumulative-type strategy
7. Cognitivist view of learning theory
8. Cognitivism and teaching strategy
- 9~10. Teaching strategy for conceptual change; Confrontation-type strategy
- 11~12. Teaching strategy for conceptual change; Conciliation-type strategy
13. Situationist view of learning theory and teaching strategy
14. Situationism and teaching strategy
15. Review

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期末テスト 100%である。

Final Exam 100%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内で指示する。

Will be introduced in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

前回の講義内容を復習するとともに、与えられた課題について準備する。

The students are expected to 1)review the last lecture; 2) work on the given subject for the next lecture.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

連絡先 : kudou@sed. tohoku. ac. jp

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

iv6tqeo

②第一回授業の開始時期

4/24 (金) 2 限開始。

③授業の実施方法

資料配付方式

④関連資料の入手方法

Classroom に講義資料と課題をアップする。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

資料配付方式で対応

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/18 16:20:20

科目名/Subject : 教育情報学基礎論概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 佐藤 克美, 渡部 信一, 熊井 正之

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育情報学基礎

Educational informatics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育情報学とは超高度情報化社会、知的基盤社会における教育について、基礎及び応用そして実践と言う領域を内包した、融合的・学際的・先端的な学問領域である。基礎論概論では、教育情報学について、教育、心理学、認知科学、コミュニケーション論、情報科学、テクノロジーなどの視点から概観することで教育情報学という学問の融合性・学際性・先端性を理解するとともに、教育情報学の基礎的な知識を学習する。

Educational informatics is an integrated, interdisciplinary, and advanced academic discipline that encompasses basic, applied, and practical areas of education in highly computerized society and an intellectually-based society. In the introduction to fundamentals, students will provide an overview of the educational informatics focusing on the perspectives of education, psychology, cognitive science, communication theory, information science, and technology and understand the academic integration, interdisciplinary, and advanced academic discipline for educational informatics. At the same time, learn the basic knowledge of educational informatics.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育情報学の融合性・学際性・先端性について理解する
- ・教育情報学の基礎となっている心理学、認知科学、コミュニケーション論、情報科学、テクノロジーについて基本的な知識を学習する。

The purpose of this course is to help students better:

- ・Understand the academic integration, interdisciplinary, and advanced academic discipline
- ・Learn the basic knowledge of psychology, cognitive science, communication theory, information science, and technology, which are the foundations of educational informatics.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：オリエンテーション

第2回：教育情報学と心理学（担当：渡部信一）

第3回：教育情報学と文化人類学（担当：渡部信一）

第4回：教育情報学とロボット工学（担当：渡部信一）

第5回：教育情報学と認知科学（担当：渡部信一）

第6回：教育情報学とコミュニケーション（1）コミュニケーションについて（担当：熊井正之）

第7回：教育情報学とコミュニケーション（2）コミュニケーションの障害（担当：熊井正之）

第8回：教育情報学と遠隔教育（1）e-ラーニング（担当：熊井正之）

第9回：教育情報学と遠隔教育（2）Mooc（担当：熊井正之）

第10回：教育情報学と学校教育（担当：佐藤克美）

第11回：教育情報学と情報科学（担当：佐藤克美）

第12回：教育情報学を支えるテクノロジー（1）インターネット（担当：佐藤克美）

第13回：教育情報学を支えるテクノロジー（2）ICT機器と表現（担当：佐藤克美）

第14回：教育情報学基礎概論まとめ（1）ディスカッション（担当：全員）

第15回：教育情報学基礎概論まとめ（2）ディスカッション（担当：全員）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業毎に行うミニットペーパー、授業内の発言と数回のレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

参考書

佐伯胖監修・渡部信一編 『「学び」の認知科学辞典』 大修館書店

坂元 昂・岡本敏雄・永野和男編著 『教育工学とはどんな学問か』 ミネルヴァ書房

渡部信一監修 『高度情報化時代の「学び」と教育』 東北大学出版会

渡部信一 『超デジタル時代の「学び」 よいかげんな知の復権をめざして』 新曜社

その他、必要に応じて配布

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レポートの他、講義で課題を出します。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

cydorpt

②第一回授業の開始時期

第1回目の講義は、4月17日（金）に配信予定です。

③授業の実施方法

講義はClassroomを用いて、映像を中心とした講義の配信を行います。受講生はその講義を視聴し、決められた期日までレポート等を提出します。初回にオリエンテーション動画を配信するので提示されたクラスコードを入力し講義を視聴してください。

④関連資料の入手方法

Classroomに必要な資料をアップロードします。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

レポートの締め切り日にかかわらず、8月上旬ギリギリまで講義の視聴、レポート提出を遅らせることを認めます。(そういう学生は、一度担当、佐藤克美 katsumi[at]tohoku.ac.jp まで連絡ください)

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 15:25:00

科目名/Subject : 比較教育学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 井本 佳宏

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

現代ドイツにおける教育の論点 / Current Issues of Education in Germany

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ドイツの教育制度は日本の教育制度と比較して、分岐型の中等学校制度や充実した職業教育制度など、対照的な特徴を示している。本授業では、ドイツの教育雑誌 Pädagogik の Stand Punkt および Kontrovers の両コーナー掲載の諸論稿をもとに、現代ドイツにおいて教育上の論点となっている事項について日独比較の視点から考察を加えることで、日本の教育を広い視野から考察する力の育成を目指す。 / This course deals with the current issues of education in Germany. It also enhances the development of students' skill in looking at education from a comparative perspective.
Notice: This course will be taught in Japanese. But we shall read texts written in German.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 現代ドイツにおける教育上の諸論点について把握する。
2. ドイツにおける教育事情を日独比較の視座から考察することを通じて、海外の教育情報を普遍的な教育理解のための資源として活用するスキルを身につける。
3. 授業への参加を通じて独文読解力、討議能力および論証力を獲得する。
 / The goals of this course are to
 - understand educational issues in contemporary Germany,
 - acquire the skills to use foreign educational information as a resource for universal understanding of education,
 - acquire the basic skills to read texts in German and the ability for discussion and demonstration.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 オリエンテーション / Orientation
- 第2回 Brennpunktzulage nur für Lehrkräfte?
- 第3回 Gleitzeit für Schülerinnen und Schüler?
- 第4回 Externe anonyme Zweitkorrekturen im Abitur?
- 第5回 Angewandte Verschwörungstheorie: Die AfD stellt digitale Pranger für kritische Lehrkräfte auf
- 第6回 Verhaltenssammel im Unterricht
- 第7回 第2回から第6回までのまとめと討議 / Review and reflection from the 2nd to the 6th lesson
- 第8回 Verpflichtende Supervision
- 第9回 Ziviler Ungehorsam als demokratischer Impuls: Die Schülerbewegung »Fridays for Future«
- 第10回 Gebundener Ganztag - die kindgerechte Form der Schule?
- 第11回 Einphasige Lehrerausbildung?
- 第12回 WhatsApp mit Eltern?
- 第13回 Verpflichtendes Feedback für Lehrkräfte?
- 第14回 第8回から第13回までのまとめと討議 / Review and reflection from the 8th to the 13th lesson
- 第15回 全体のまとめと補足 / Review, reflection, and course evaluation

5. 成績評価方法/Evaluation method :

1. 授業内での報告および議論への貢献 (50%)
2. 期末レポート (50%)
 / Your overall grade in the class will be decided based on the following:
 - Presentation and attitude in class: 50%
 - Final paper: 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

以下の雑誌に所収の論稿の中から検討対象とするものを適宜指示する。
・Pädagogik, Beltz Verlag.
The papers to be discussed are selected from the following journal:
- Pädagogik, Beltz Verlag.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・検討対象の文献については授業までに必ず読んでおくこと。
 - ・各回の報告担当者は事前に準備すること。
- / The students are required to read the assigned papers.
The students in charge of the presentation in each lesson are required to prepare for it.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicate the practical business

9. その他/In addition :

- ・ オフィスアワー 火曜日 13:00~15:00

/Office Hour: 13:00-15:00, Every Tuesday

・ 毎回、雑誌見開き 2 ページ程度のドイツ語の記事を読むため、受講前に初歩的な独文読解力を身につけておくことが望ましい。ただし、このことはドイツ語初学者の受講を排除するものではない。/In each lesson, we will read two pages of articles written in German, so it is advisable to acquire basic German reading skills before taking the course. However, this does not preclude beginners of German from attending the course.

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

jldldz4

② 第一回授業の開始時期

- ・ 第 1 回授業の開始時期 : 4 月 24 日 (金) 2 限 : 10:30~

③ 授業の実施方法

"・ 授業の実施方法 : Meet を用いた双方向授業。

- ・ 詳しくは Classroom 上に説明を掲示するので、第 1 回授業の前日までに確認しておくこと。"

④ 関連資料の入手方法

・ 授業で使用する資料については、授業開始前までにメンバーのみアクセス可能な Google Drive の本授業用共有フォルダにアップロード予定。

・ メンバーに招待するので、受講希望者は必ず 4 月 23 日 (木) 正午までに井本 (imoto@tohoku.ac.jp) まで DC メールでその旨連絡すること。"

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・ 個別に相談に応じる。

・ オンラインでの受講が困難な事情説明を、DC メールを使って 4 月 23 日 (木) 正午までに井本 (imoto@tohoku.ac.jp) へ連絡すること。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 19:09:59

科目名/Subject : 人間形成史研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 池尾 恭一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

カント教育学講読/Reading Kant's Original Texts("Education By IMMANUEL KANT")

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

18 世紀ドイツの哲学者カントの文献 (英語訳を主に使用する) を精読し、その内容を検討することにより、哲学文献の読解を通して自律的に思考する態度を身につける。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

カントの文献を正確に読み解き、そこにあらわれた思考を追思考しながら、受講者自らが哲学的に思考することができる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1～3 カントの「倫理学」・「教育学」 概観 4～6 『教育学』序論 講読 7～10 『教育学』「自然的教育」論 講読 11～14. 『教育学』「実践的教育」論 講読 15 カントの「教育学」 総括

5. 成績評価方法/Evaluation method :

テキストの読解とそれに基づくディスカッションへの積極的な参加・取り組みを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Immanuel Kant über Pädagogik, herausgegeben von Friedrich Theodor Rink, 1803.

(Education By IMMANUEL KANT translated by Annette Churton)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Students are required to prepare for reading Kant's texts.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

前年度からの継続授業であるが、新規の受講者に対しては十分配慮する。

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

hyduriu (不使用予定)

② 第一回授業の開始時期

4 月 22 日 (金) を開講日とする。前日の 4 月 21 日 (木) 正午までに受講希望者は以下のメールアドレスにメールにて申請のこと (kyoichi.ikeo.d4@tohoku.ac.jp)。

③ 授業の実施方法

メールを通じて課題等を連絡する形で授業を実施する。

④ 関連資料の入手方法

メールでのやり取りとする。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

メールでの資料配布方式のために想定不要。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 11:59:25

科目名/Subject : 発達障害学特論 I (福祉分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 野口 和人, 砂川 芽吹

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

福祉分野における心理社会的課題と支援

Psychosocial problems and supports in the fields of welfare

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この講義では、児童福祉分野、家庭福祉分野、高齢者福祉分野、障害者福祉分野の各福祉分野における心理社会的課題について概観し、障害児・者にも大きく関わる諸問題（虐待、学校不適応、不登校、引きこもり、就労支援、社会生活支援など）を中心に、それぞれの問題に対する心理社会的支援について議論する。

This advanced lecture outlines psychosocial problems in each welfare field such as child welfare, home welfare, elderly welfare, welfare for people with disabilities. Psychosocial support for each problem will be discussed, focusing on various problems (abuse, school maladjustment, school refusal, withdrawal, employment support, social life support, etc.) which are greatly related to children / adults with disabilities.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①福祉分野における様々な心理社会的問題について理解する。

②それぞれの問題に対する適切な心理社会的支援について考える。

After taking this advanced lecture, you should be able to :

①Describe various psychosocial problems in the field of welfare.

②Provide appropriate psychosocial support for each problem.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション
2. 就学前の障害児における心理社会的問題と支援（家庭における生活）
3. 就学前の障害児における心理社会的問題と支援（養育施設等における生活）
4. 就学前の障害児における心理社会的問題と支援（地域社会における生活）
5. 学齢期（小学校段階）の障害児における心理社会的問題と支援（家庭における生活）
6. 学齢期（小学校段階）の障害児における心理社会的問題と支援（学校における生活）
7. 学齢期（小学校段階）の障害児における心理社会的問題と支援（地域社会における生活）
8. 学齢期（中学校以降）の障害児における心理社会的問題と支援（家庭における生活）
9. 学齢期（中学校以降）の障害児における心理社会的問題と支援（学校における生活）
10. 学齢期（中学校以降）の障害児における心理社会的問題と支援（地域社会における生活）
11. 障害児・者の就労支援における心理社会的問題①
12. 障害児・者の就労支援における心理社会的問題②
13. 障害児・者の地域社会生活における心理社会的問題と支援
14. 障害児・者の家族への支援
15. まとめ

1. Orientation
2. Psychosocial problems and supports for preschool children with disabilities (life at home)
3. Psychosocial problems and supports for preschool children with disabilities (life in nursing homes)
4. Psychosocial problems and supports for preschool children with disabilities (life in the community)
5. Psychosocial problems and supports for school-aged (elementary school) children with disabilities (life at home)
6. Psychosocial problems and supports for school-aged (elementary school) children with disabilities (life at school)
7. Psychosocial problems and supports for school-aged (elementary school) children with disabilities (life in the community)
8. Psychosocial problems and supports for children with disabilities during school age (after junior high school) (life at home)
9. Psychosocial problems and supports for children with disabilities during school age (after junior high school) (life at school)
10. Psychosocial problems and supports for children with disabilities during school age (after junior high school) (life in the community)

11. Psychosocial problems in employment supports for individuals with disabilities①
12. Psychosocial problems in employment supports for individuals with disabilities②
13. Psychosocial problems and supports in community life of individuals with disabilities
14. Supports for the families having children with disabilities
15. Conclusion

5. 成績評価方法/Evaluation method :

平常点 (70%) 及びレポート (30%) により総合的に評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance (70%) and report (30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。必要な資料は授業の際に配布する。

Not specified. Necessary materials will be distributed during class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回の授業において指示する。

Learning tasks will be instructed in the class..

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

① クラスコード

um43317

② 第一回授業の開始時期

・第1回目の授業は5月8日(金) 13:00~からとし、それまでの期間は各受講生の話題提供資料の作成準備期間とします。

③ 授業の実施方法

・授業はZoom等を使用して行う予定です。

・受講希望者は、4月23日(木) 正午までに、担当を希望するテーマ(シラバス参照して第3希望まで)を記したDCメールを砂川(mebuki.sunagawa.d7@tohoku.ac.jp)まで送付してください。希望を踏まえて、担当の割り振りを行います。

④ 関連資料の入手方法

・必要に応じ、共有ドライブを使用することを想定しています。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・オンライン授業への参加が困難な方は、4月23日(金) 正午までに送付のDCメールにて、その旨を申し出てください。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/06 20:19:15

科目名/Subject : 教育情報学基礎論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 渡部 信一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

「学び」の認知科学に関する演習

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

これまでの ICT を活用した教育に関する研究成果を理解する。

「学び」の認知科学を応用した学習指導ができるようになる。

映像撮影・編集手法、プログラミング教育に関する基礎知識・実践力を身に着ける。

超デジタル時代における学びの問題に関する教育・研究の計画・実施する能力の獲得を目指す。

近年は教育の様々な場面で映像が用いられることが増えている、またプログラミング教育の必要性がうたわれている。そのため今後は、映像を自らの手で教材化し、授業に活用する能力、またプログラミングに関する知識とそれを教育に生かす能力が求められる。しかしながら単に映像を用いればよい授業になる、プログラムを書けばよいわけではない。そこで演習前半では番組製作を通して、その映像撮影・編集の技術を習得するとともに、教材を作る際に考慮すべき点を、「学び」の認知科学を背景にしながら学ぶ。後半ではプログラミング教材を活用しながらプログラムの知識を得るとともに、その教育手法、プログラミング教育で得られる能力、さらにはプログラム（ロボット）と人の違いとは何かについて考察していく。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

超デジタル時代における「学び」に関する教育・研究の計画・実施する能力の獲得する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1 オリエンテーション

2 超デジタル時代の学び ICT を活用した教育(1) e-ラーニングの実践

3 超デジタル時代の学び ICT を活用した教育(2) モーションプロジェクト

4 協同的な学びと認知科学

5 グループによる映像製作活動-(1) 撮影・編集手法の習得

6 グループによる映像製作活動-(2) シナリオと教授デザイン・認知科学

7 グループによる映像製作活動-(3) シナリオとコンテンツ作製と指導案

8 グループによる映像製作活動-(4) 番組制作

9 グループによる映像製作活動-(5) 番組の評価

10 プログラミング教育実習-(1) プログラミング教育の背景

11 プログラミング教育実習-(2) 学習アプリのデザイン

12 プログラミング教育実習-(3) 学習アプリの作製・評価

13 プログラミング教育実習-(4) 人の学びとコンピュータの学習「フレーム問題」

14 プログラミング教育実習-(5) プログラミング学習と論理的思考

15 まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ミニットペーパーと発言、レポートおよび、演習で作製された成果物から総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書： 渡部信一著 『A I に負けない「教育」』(大修館書店 2018)

(教科書は図書館等で借りるか、購入することが望ましい。)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

講義の中で指示する書籍を学習する。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

① クラスコード

6dlrss4

② 第一回授業の開始時期

5月8日(連休明け)、第1回講義を配信する予定です。

③ 授業の実施方法

Meet を活用してライブ授業を行う

④ 関連資料の入手方法

Classroom にアップロード予定

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

メール等を活用し適時、対処する (shinichi.watabe.d1@tohoku.ac.jp)

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 08:21:09

科目名/Subject : 教育社会学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 島 一則

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育経済学の潮流:Trends in Economics of Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本特論では、①教育経済学の学問的性格、②その理論と方法の特質、③教育経済学の各研究領域における研究の展開と現状に理解し、実際のデータ・方法論を踏まえたうえで、教育がどのような経済的効果を有しているのか、教育の意義について考究する（以下のレビュー論文を前提としつつ、領域のキーとなる近年の論文に合わせて取り組む）。

In this class, we will understand (1) the academic character of economics of education, (2) the characteristics of its theory and methods, (3) the development and current state of research in each research area of economics of education.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

受講学生は、専門的知識・技能という観点からは、教育経済学という学問の特徴と研究の現状を英文文献の読解に基づき理解し、経済学の視点から教育に関わる研究課題を設定、データ・方法論の選択などを行える力量を身に付ける。また、汎用的技能、態度志向性という観点からは、コミュニケーションスキル・数量的スキル・論理的思考力・自己管理力・批判的思考力、生涯学習力を向上させる。

Students can understand the characteristics of economics of education and the current state of research based on their reading of readings of economics of education.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1・2回: Theoretical Concepts in the Economics of Education

3・4回: Empirical Research Methods in the Economics of Education

5・6回: Data in the Economics of Education

7・8回: Human Capital

9・10回: Signaling in the Labor Market

11・12回: Returns to Education in Developed Countries

13・14回: School Quality and Earnings

15回: Education and Economic Growth

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業内容についての理解とコミットメント (50%)・最終レポート (50%) による。ただし、出席状況によっては受験資格を喪失する。

Quiz (50%) / Final Report (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書/Textbook: D. J. Brewer and P. J. McEwan (eds.), Economics of Education Elsevier, 2010.

参考書/Related Material: 島一則編 (2011)『大学とマネー 経済と財政』(リーディングス日本の高等教育 第8巻) 玉川大学出版。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。

For the preparation and review, specific contents will be instructed in the class.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業中の発言など積極的な関与を求める。

Ask for active involvement, such as remarks during class.

(Google クラウド対応)

① クラスコード

mg6iyjk

② 第一回授業の開始時期

・第一回目の授業 (オリエンテーション) は 4 月 24 日 (金) 14:40 から実施

③授業の実施方法

- ・授業は Google Meet を使用し行う予定
- ・受講希望者は 4 月 23 日（木）正午までに島まで D C メールにて連絡をするように（kazunori.shima.e6@tohoku.ac.jp）。

④関連資料の入手方法

- ・授業の資料については、授業開始前までに共有ドライブにアップロード予定（受講希望者を招待する）。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・オンライン授業への参加が困難な学生については、4 月 23 日（木）正午までに島まで D C メールにて連絡をするように（kazunori.shima.e6@tohoku.ac.jp）。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/09 19:18:27

科目名/Subject : 教育アセスメント特論Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 熊谷 龍一, 柴山 直, 有本 昌弘, 松林 優一郎, 佐藤 智子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育評価・測定論研究の実際 (1)

Research of Educational Assessment and Measurement I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育評価論や教育測定論に関する論文や実践を共同で検討するとともに、各自の関心に基づいた研究を遂行し、進捗状況に応じた指導を受けることを目的とする。

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed for research activity. Students collaboratively discuss about academic articles and practical studies in the field of educational assessment and measurement and tackle some research topics based on individual interests. Staffs in charge support you and give you professional advice and guidance depending on the state of the progress.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 各自の関心を教育的・社会的意義のある研究テーマとして構築できる。
2. 各自の研究テーマに関する先行研究を的確に把握し、批判できる。
3. 各自の研究テーマに沿った研究を遂行できる。

After taking this course, you will be able to:

1. construct meaningful research project proposals based on your interests,
2. exhaustively survey related work on your target research topic, and understand or criticize them,
3. perform high-quality research on the selected topic.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 各自の関心の発表と研究テーマ化に向けた指導 (3 回)
2. 各自の研究テーマに関する先行研究のレビューと共同討議 (10 回)
3. 各自の研究テーマに沿った研究計画の作成・指導 (2 回)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表・レビュー (70%), 討議への参加 (30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義中に適宜指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

先行研究の探索・整理, レビューの執筆, 発表資料の作成

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

教育情報アセスメントコースの教育評価測定論領域に所属する院生は、すでに受講済みの学生であっても、各自の研究を相対化し知見を広げる機会となるので、原則参加すること。

(Google クラウドスルーム対応)

① クラスコード

wirstzx

② 第一回授業の開始時期

・第1回目の授業は4月24日(金) 14:40から実施予定。

③ 授業の実施方法

- ・授業の実施方法については、別途連絡を行う。
- ・受講希望者は4月23日(木) 正午までに熊谷 (ryuichi@tohoku.ac.jp) もしくは松林 (y.m@tohoku.ac.jp) までDCメールにて連絡をするように。

④ 関連資料の入手方法

・関連資料の入手方法についても別途連絡を行う。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・オンライン授業への参加が困難な学生についても、別途連絡をするので、4月23日(木) 正午までに熊谷 (ryuichi@tohoku.ac.jp) もしくは松林 (y.m@tohoku.ac.jp) までDCメールにて連絡をするように。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 12:01:00

科目名/Subject : 教育情報学基礎論特論Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 佐藤 克美

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

ICT を活用した教育
Education using ICT

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ICT を効果的に教育に活用するためには、技術の特性、またそれを利用した教材の特性を理解し用いることが求められる。そこで本講義では、現在 ICT 教材において、その中心をなしている映像教材を取り上げる。ICT 登場以前の視聴覚教材から最新の 3DCG 映像、バーチャルリアリティ等を活用した教育について具体例を取り上げながら学習し、それを通して映像教材の特性を理解するとともに実際に ICT 教材を作製する際に必要な基礎知識を学ぶ。

In order to use ICT effectively in education, it is necessary to understand and use the characteristics of technology and the characteristics of teaching materials. Therefore, this course focuses on the video teaching materials that are currently the center of ICT teaching materials. Students learn specific examples about education using audiovisual materials which are from before the emergence of ICT, to latest the 3DCG video, virtual reality, etc. Students will also understand the characteristics of video materials through them, and learn the basic knowledge which is necessary to actually create ICT materials.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・視聴覚教材、ICT を活用した教育手法とその効果を理解する
- ・映像教材の特性を理解し、教材作製に必要な基礎知識を理解する
- ・基礎的な映像教材を作製できるようになる

This purpose of this course is to help students better:

- ・Understand visual teaching materials, ICT-based educational methods and their effects
- ・Understand the characteristics of video teaching materials and the basic knowledge which is required for making teaching materials
- ・Be able to create basic video teaching materials

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 オリエンテーション 授業の概要と評価について
- 第2回 視聴覚機器を活用した教育 (1) 視聴覚機器とは
- 第3回 視聴覚機器を活用した教育 (2) 画像・映像・音声
- 第4回 コンピュータを活用した教育 (1) CAI
- 第5回 コンピュータを活用した教育 (2) マルチメディア
- 第6回 最近の ICT と教育 (1) 携帯端末の利用
- 第7回 最近の ICT と教育 (2) コンピュータグラフィックス (CG)
- 第8回 最近の ICT と教育 (3) バーチャルリアリティ
- 第9回 プログラミング的思考・プログラミング教育 (1)
- 第10回 プログラミング的思考・プログラミング教育 (2)
- 第11回 ICT を活用した教材のデザイン
- 第12回 映像を中心とした e-ラーニング教材に必要な要素
- 第13回 映像・画像の加工の技術 (1) 撮影
- 第14回 映像・画像の加工の技術 (2) 編集
- 第15回 講義のまとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ミニットペーパーと授業内の発言と数回課すレポート課題により総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義中に指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レポートの他に、課題を出すのでその課題に積極的に取り組む必要があります。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

※受講生の興味関心に合わせ若干進度・内容を変更する可能性もある。

※ISTU での受講を希望する学生は担当に問い合わせてください。

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

muzgdxp

②第一回授業の開始時期

第1回目の講義は、4月19日(日)までに配信予定です。

③授業の実施方法

講義はClassroomを用いて、映像を中心とした講義の配信を行います。受講生はその講義を視聴し、決められた期日までレポート等を提出します。初回にオリエンテーション動画を配信するので提示されたクラスコードを入力し講義を視聴してください。

④関連資料の入手方法

Classroomに必要な資料をアップロードします。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

レポートの締め切り日にかかわらず、8月上旬ギリギリまで講義の視聴、レポート提出を遅らせることを認めます。(そういう学生は、一度担当、佐藤克美 katsumi[at]tohoku.ac.jp まで連絡ください)

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 15:11:54

科目名/Subject : 臨床心理学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 安保 英勇, 加藤 道代

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学概論

Introduction to clinical psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学および、専門家としての臨床心理士・公認心理師に求められる知識や社会的責任・役割などについて総合的に学習する。

This class comprehensively deal with clinical psychology and knowledge and social responsibility and role required of clinical psychologists / certified psychologists as experts.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 臨床心理学、心理臨床家の基本問題を総合的に捉える。
2. 心理臨床家としての社会的責任を自覚し適切な援助を行うために必要な倫理的姿勢や判断について考察する。

Participants will

- 1) be able to comprehensively grasp the basic problems of clinical psychology and psychologists.
- 2) understand social responsibility as a psychologist and deepen their consideration of the ethics necessary for proper assistance.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

前半（安保担当）では『公認心理師の職責』を元に、レポーターの報告とそこでの問いをめぐり議論を中心とする。

後半（加藤担当）では、心理臨床に携わる者の職業倫理をテーマとした模擬事例をめぐり、グループ討論と全体討論を中心として考察する。

1. オリエンテーション、公認心理師と臨床心理士

2-8 . 心理専門家の職責

心理専門家の役割と法的義務・倫理

クライアント/患者らの安全の確保、情報の適切な取り扱い

保健医療分野、福祉分野における心理専門家の具体的な業務

教育分野、司法・犯罪分野における心理専門家の具体的な業務

産業・労働分野における心理専門家の具体的な業務、

支援者としての自己課題発見・解決能力、生涯学習

多職種連携・地域連携、心理専門家の今後の展開

9-15 心理臨床現場における倫理

専門性の自覚と境界の自覚

守秘義務

多重関係

治療契約

個人の尊重と自己決定権

公正と平等

インフォームド・コンセント

連携関係と職業倫理の共有 その他

In the first half, this class deals with basic matters related to clinical psychology (definition, history, qualification system, assignment and perspective).

In the second half, this class deals with clinical psychologist professional ethics.

1. orientation

2-8. Responsibilities of psychologist

9-15 .Ethics in clinical psychology

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表など授業への参加度(60%)、レポート(40%)による総合評価

Presentations an attitude in class:60%, report(40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

野島一彦編 公認心理師の職責 遠見書房 2019

このほか必要に応じて授業期間中に指示する

Other texts will be introduced during class if needed.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキストの事前講読、発表資料作成等

Pre-subscription of text, preparation of presentation materials etc.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。

This class is set up for students in the clinical psychology course.

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

vi2s5ra

② 第一回授業の開始時期

4月23日(木) 2限: 10:30 までに掲示

③ 授業の実施方法

資料配布形式

④ 関連資料の入手方法

授業用の資料は Classroom で紹介

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談 (hideo.ambo.d5@tohoku.ac.jp へ連絡のこと)

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 11:49:42

科目名/Subject : 発達障害学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学研究法 (1)

Research methods of developmental disabilities (1)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

課題論文・修士論文、学会発表論文、学術論文などの作成に向け、文献紹介・研究発表とそれらに基づく議論を通じて受講者各自の研究内容を深めることを目的とする。

Those who take this advanced seminar will advance their own research through introduction of literature in relevant areas and presentation of their own research, and discussion based on them.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①論文作成及びプレゼンテーションのスキルを習得する。

②受講者各自の研究テーマに関する国内外の研究動向、理論を把握する。

After taking this advanced seminar, you should be able to :

①Prepare the thesis and research presentation at academic societies.

②Describe theories and the research trends on your own research themes.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1～5. 各自の研究テーマに関する諸文献のクリティカル・レビュー

6～10. 各自の研究テーマに応じた研究デザインの検討

11～15. 各自の研究テーマに応じたデータ収集・分析の方法の習得

1～5. Critical review of research papers on one's own research theme

6～10. Examination of research design according to one's own research theme

11～15. Acquisition of data collection and analysis methods according to one's own research theme

5. 成績評価方法/Evaluation method :

平常点 (50%), 討論への参加 (25%), 研究発表内容 (25%) により、総合的に評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance (50%), participation in discussions (25%), and contents of research presentations (25%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。必要な資料は授業の際に配布する。

Not specified. Necessary materials will be distributed during class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

文献紹介・レビュー・論文等作成に向け、毎週複数の国内外の研究論文を読み進める。

You need to read several domestic and international research papers each week for introduction and review of research papers, and writing papers.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この授業は、発達障害学を専攻する学生を対象とする。また、発達障害学研究演習Ⅲと連続して行うので、受講者はⅠ・Ⅲの両方を履修すること。

This class is for students majoring in "Developmental Disorders". In addition, students must take Seminar I and seminar III, as both seminars will be conducted consecutively.

(Google クラウド対応)

①クラスコード

vvgj2q3

②第一回授業の開始時期

・ゴールデン・ウィーク明けからの開始とします。

③授業の実施方法

- ・この授業は、授業担当者の指導学生を対象としています。
- ・授業は、Google meet 等を用いたリアルタイム方式で行う予定です。

④関連資料の入手方法

- ・Google 共有ドライブ等の使用を想定しています。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・自宅の WiFi 環境が整っていない場合は、野口まで申し出てください。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/06 16:27:24

科目名/Subject : 発達障害学研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 川崎 聡大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学研究法

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

研究計画法を中心に、課題研究、修士論文の作成に向けた研究指導を行う。受講者は自分の研究に関する先行研究のレビューならびに研究状況の発表を行い、質疑や討論を通して研究を深める。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

先行研究の検索ならびにレビュー（プレゼンテーション）の方法について習熟し、研究方法や最新の研究知見について理解を深める。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

本演習は修士論文作成に向けた演習であり、以下の通り各自の研究テーマに沿った発表から 15 回を構成する。1. 先行研究のレビュー, 2. 各自の研究に関する構想発表, 3. 各自の研究計画に該当する必要な研究法（統計解析等）の習熟。これらについて受講生相互の討論により理解を深める。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業（ディスカッション）への参加（70%）、レポート（30%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 70%

- Short reports: 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自の発表内容並びに関連領域について適宜習熟を深める。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この授業は 1・2 学期を通して行われるので、受講者は連続して履修すること。

本演習は発達障害に関する研究を修論のテーマとする学生を対照とし、演習の中で研究データを深めうるものを対象とする。

（Google クラウド対応）

① クラスコード

5xomn5s

② 第一回授業の開始時期

本演習は障害系所属学生（実験系）の修論執筆のための準備演習です。該当分野の学生にはこちらからメールにて連絡します。

③ 授業の実施方法

ZOOM 使用による演習（ゼミ）

④ 関連資料の入手方法

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

4 月 20 日までに連絡をください

akihiro.kawasaki.c5@ohoku.ac.jp

⑥ その他

障害実験系（川崎ゼミ）対象です。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/17 15:53:30

科目名/Subject : 教育行政学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 荻原 克男 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
3. 学習の到達目標/Goal of study :
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
5. 成績評価方法/Evaluation method :
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
9. その他/In addition :
10. 更新日付/Last Update :

科目名/Subject : 国際教育論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 陳 榮政 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class subject :

International and Comparative Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

This course mainly focuses on course participants' academic awareness of doing research related to international education issues or comparative education theories. The curriculum is arranged with 3 parts: comparative education theories, crucial international education issues, and the development of international organizations, such as UNESCO, OECD, or ASEAN+3---that will allow course participants to deepen their understanding the content of education policy making and research. To enhance and engage with the diverse learning intentions within the class, the instructor will purposefully examine intersections of current education research, policy and practice and include examples from different countries or organizations. As an intensive course, our goal is to make sure the course participants are not only prepare for an intensive, but will also nurture the competence of doing academic research as many prestigious universities graduate students will do.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

The goals of the course are referring to the core values of international concepts on doing educational research and implementation. With the course design of group discussing and "country talks", it is therefore expected that the course participants will be accountable for their own learning and also form the community with diverse cultural perspectives sharing education experiences. Nurturing the awareness of international education and the ability of doing comparative education academically will be the basic concerns while checking up with the achievement of the course taking.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

There will some journal papers assigned as the required reading for each class and the participants will be also asked forming different groups representing specific countries or regions discussing newly education issues. Followings are the main sessions based on goals indicated above.

Session 1: Course introduction and conducting learning groups.

Session 2: Walking through reading materials

In the session, the instructor will lead the class examine the reading materials with the perspectives of cultivating international vision via studying classic theories and published papers.

Session3: Comparative education vs. International education

Framing questions:

☐ What is the current state of education research related to global issue and policy making? What remains to be known between comparative education and international education?

☐ How can education policy be adapted from country to country?

Required reading:

Crossly, M. & Jarvis. (2000). Introduction: continuity, challenge and change in comparative and international education. *Comparative Education*, 36 (3), 261-265.

Broadfoot, P. (1999). Change and the search for identity. *Comparative Education*, 33(1), 5-7.

Session4: Methodology of doing international and comparative education research

Framing questions:

☐ How to determine an approach of completing international or comparative education research?

☐ How can I enhance the prosperity of literature review in the academic writing?

Required reading:

Rust, V. (2003). Method and methodology in comparative education. *Comparative Education Review*, 47(3), iii-vii.

Bray, M., Adamson, B. & Mason, M. (2014) (Eds.) *Comparative Education Research: Approaches and Methods* (2nd edition). Hong Kong: Springer.

Session5: Theories and the education research model

Framing questions:

- ☐ What is the theoretical framework for doing international and comparative education?
- ☐ How can I improve my theoretical consciousness?

Required reading:

Dede, S, & A. Baskan. (2011). Theoretical basis of comparative education and suggestion of. A model: comparative education council in Turkish education system. Procedia Social and Behavioral Sciences 15: 3536-3542.

Session6: International organizations-1/2

Framing questions:

- ☐ Why international test matter?
- ☐ What is the trend of education policy making and operate a school?

Required reading:

Cohort reports of PISA test, OECD.

Cohort reports of TALIS, OECD.

Session 7: International organizations-2/2

Framing questions:

- ☐ How the international education standards are formed and implemented?
- ☐ What is education aids from the perspective of international education?

Required reading:

Education 2030, UNESCO

Session8: Group presentation

Framing questions:

- ☐ What is purpose of comparative education?
- ☐ What may be the limitations of doing international or comparative education?
- ☐ What are the main issues that concern you and why?

5. 成績評価方法/Evaluation method :

Course participation: 30% Paper exam: 30% Assignment: 20% Team work: 20%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Crossly, M. & Jarvis. (2000). Introduction: continuity, challenge and change in comparative and international education. Comparative Education, 36 (3), 261-265.

Broadfoot, P. (1999). Change and the search for identity. Comparative Education, 33(1), 5-7.

Rus

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 16:36:38

科目名/Subject : 国際教育論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 陳 陳 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class subject :
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
3. 学習の到達目標/Goal of study :
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
5. 成績評価方法/Evaluation method :
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note:"○"Indicates the practical business
9. その他/In addition :
10. 更新日付/Last Update :

科目名/Subject : 教育測定学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 安永 和央 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

項目分析の基礎と応用

Foundations and applications of item analysis

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業の目的は、テストや質問紙調査を計画した際に、これらの設計、作成、実施、分析、結果の解釈を行うことができるようになることである。

The purpose of this course is to be able to design, create and conduct test and questionnaire, analyze their data and consider the results.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. テスト研究や質問紙調査で活用される分析方法について理解する。
2. 授業で学んだ分析方法を統計ソフトウェア R で実行できるようになる。
3. 分析結果を適切に解釈できる。

Goals of this course are to

1. understand the analysis method in testing and questionnaire survey,
2. be able to use the analysis method learned in this course by R statistical software,
3. be able to make a proper interpretation of results.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 オリエンテーション:「物理的でないもの」の測定
- 第2回 テスト・調査の進め方:テストや質問紙調査の計画, 実施, 結果の公表
- 第3回 大規模テスト開発の流れ
- 第4回 テスト項目の分析
- 第5回 探索的因子分析と確認的因子分析 (1)
- 第6回 探索的因子分析と確認的因子分析 (2)
- 第7回 主成分分析
- 第8回 テストの妥当性の検討
- 第9回 テストの信頼性の検討
- 第10回~第12回 Rの演習 (1): 項目分析
- 第13回~第15回 Rの演習 (2): 妥当性と信頼性

1. Introduction
2. How to proceed with testing and questionnaire survey: Planning, conducting and result publication
3. The process for the large-scale test development
4. Item analysis
5. Exploratory factor analysis and confirmatory factor analysis 1
6. Exploratory factor analysis and confirmatory factor analysis 2
7. Principal component analysis
8. Validation
9. Reliability
10. ~ 12. Practice by R software: Item analysis
13. ~ 15. Practice by R software: Validation and reliability

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (50%), レポート (50%)

Attendance and presentation 50%, essay 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

〔教科書〕

野口裕之・大隅敦子 (2014). テスティングの基礎理論 研究社

〔参考書〕

足立浩平 (2006). 多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門— ナカニシヤ出版

山田剛史 (編) (2015). Rによる心理学研究法入門 北大路書房

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

集中講義が終わった後に、もう一度復習することが望ましい。

It is desirable to review contents of this course after its ending.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

授業について事前に知りたいことがあれば、いつでもメールで受け付ける。

yasunaga@artsci.kyushu-u.ac.jp

Students can email me with any question they have regarding the course, before it begins.

Email: yasunaga@artsci.kyushu-u.ac.jp

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/12 11:43:21

科目名/Subject : 人間形成学合同演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2020 李 仁子, 八畝 友広, 池尾 恭一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

人間形成学の研究方法Ⅱ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

人間形成の本質およびその動態的な展開過程についての洞察力を育成することを目的として、哲学、歴史学、文化人類学などの方法により、個別の研究課題に即した人間形成研究に関する合同の演習をおこなう。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育および人間形成を総合的に理解することができる。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1 回 「ガイダンス」

第 2 回～ 4 回 : 教育哲学の研究手法～個別の課題に即して～ (1) (担当 : 李)

第 5 回～ 7 回 : 教育思想史の研究手法～個別の課題に即して～ (1) (担当 : 池尾)

第 8 回～ 10 回 : 日本教育史の研究手法～個別の課題に即して～ (1) (担当 : 八畝)

第 11 回～ 14 回 : 教育人類学の研究手法～個別の課題に即して～ (1) (担当 : 李)

第 15 回 : 全体討議、まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

「討論への参加 (50%) およびレポートの内容 (50%)」によって評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

初回の授業で提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/25 09:03:34

科目名/Subject : 教育情報学応用論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2020 倉元 直樹

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

Advanced Seminar on Application Theories of Educational Informatics I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

指導と評価は一体である。各教科の指導法の成果を評価するためのテスト法の専門的な知識について習得するとともに、授業の進捗状況によっては ICT を活用したテスト法である e テスティングの基礎となる理論についても触れる。まず、テスト作成の基本、試験問題の開発、実施といった側面について我が国のテストの品質基準である「テスト・スタンダード」を参考とする。授業の後半には、テスト作成実習とデータ収集の演習も取り入れたい。教育情報学応用論特論 I、II の履修を前提とする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育評価・測定の方法に関する実践的な基礎を学ぶ。
- ・テスト法の実践について、我が国の実践に沿った方法論について学ぶ。
- ・将来、教育評価のための大規模テストの開発、実施に責任ある立場となるための基礎を学ぶ。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

授業計画

第 1 回：オリエンテーション

第 2 回：テスト・スタンダード 1：テスト・スタンダードの構成、基本条項

第 3 回：テスト・スタンダード 2：テストの定義

第 4 回：テスト・スタンダード 3：開発と頒布

第 5 回：テスト・スタンダード 4：実施と採点

第 6 回：テスト・スタンダード 5：結果の利用、記録と保管

第 7 回：テスト・スタンダード 6：コンピュータを利用したテスト

第 8 回：テスト・スタンダード 7：テスト関係者の責任と倫理

第 9 回：e テスティングの基礎理論 1：項目反応理論のモデル

第 10 回：e テスティングの基礎理論 2：テスト情報量とテストの精度

第 11 回：テスト開発演習 1：客観式テストの開発：テスト問題の作成と集計、分析

第 12 回：テスト開発演習 2：記述式テストの開発（1）：テスト問題の作成

第 13 回：テスト開発演習 3：記述式テストの開発（2）：ループリックの構成

第 14 回：テスト開発演習 4：e テスティングの開発：項目プールの考え方

第 15 回：まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席状況（ミニットペーパーと授業内の発言）とレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

テキスト： 日本テスト学会編（2007）『テスト・スタンダード』，金子書房

参考書： 荒井克弘・倉元直樹編著（2008）『全国学力調査——日米比較研究——』，金子書房

戸瀬信之・西村和雄編（2011）『教育における評価とモラル』，東信堂

その他、必要に応じて配付

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時間内に指示する。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 15:03:19

科目名/Subject : 多文化教育論特論

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 高橋 美能, 末松 和子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

多文化共生と人権教育

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本コースは、多文化共生と人権をテーマに学ぶ中で、グローバルシティズンシップに必要な知識、技能、態度、行動力とは何かをクラス内で議論し、社会に参加し、積極的に意見を述べる市民となっていく素養を身に着けることを目的としている。そのため、クラス内に「人権」を柱に据えた文化を築き、参加者一人ひとりがクラスに積極的に参加・貢献することが期待されている。

本コースの中ではビデオ教材や、フィールドトリップ、ゲストスピーカーなどを取り入れ、グローバル社会の中で、身近な人権問題を他人事ではなく、自分と関わりのある問題と捉え、いかに人権課題を解決していくのかを具体的に考え、提案してもらう。コースを通じて学んだ知識を基に、最後のプレゼンテーションを通じて、参加学生がグローバル社会の中で起こっているさまざまな課題・問題に対して意識を高め、身近な社会を変え、行動に移していく力を養っていく。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 多文化共生・人権の知識の深化
2. 人権課題に対して自分なりの意見を持つこと、当事者意識を持つこと
3. 人権課題に対して行動を起こすこと

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1 回目の授業 : イントロダクション「多文化共生と人権教育とは何か」

2-5 回目の授業 : 総論「多文化共生、人権の歴史、世界人権宣言など」

6-10 回目の授業 : 各論 : 個別具体的な人権問題「部落問題、アイヌ民族の問題、戦争と平和、東日本大震災、ジェンダー LGBT」

11-14 回目の授業 : グループでの発表準備&発表「授業で学んだ 5 つの人権課題に対して、グループ、または個人で身近に感じた（重要だと思う）問題を取り上げ、自分たちにできる解決策を考え、アクション・プランを立てて実際に行動に移した結果を発表すること」

15 回目の授業 : レポートの提出

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ディスカッション 30%、発表 40%、レポート 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Audrey Osler and Hugh Starkey (2010) “Teachers and Human Rights Education” Tretham Books

ジェームズ・A・バンクス+他 (著)、平沢安政 (訳) (2006) 『民主主義と多文化教育ーグローバル化時代における市民性教育のための原則と概念』、明石書店

Audrey Osler (2018) “Reflections on structural inequality, struggle and the meanin

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回授業前のリーディング課題や発表準備など

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: “○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 11:08:56

科目名/Subject : 教育測定学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 柴山 直

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

高次元統計解析

Statistical Analysis of high-dimensional data

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

高次元統計解析の原理を理解する

The aim of this exercise is to understand theories and methodologies in high-dimensional statistical analysis.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

高次元統計解析の手法を教育データに適用できるようになる。

After taking this course, you will be able to apply the high-dimensional statistical techniques to the analysis of educational data.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

進行予定 :

第 1 - 2 回 高次元データ

第 3 - 5 回 高次元データの幾何学的表現

第 6 - 7 回 高次元データに対する主成分分析の問題点

第 8 - 9 回 高次元主成分分析

第 10 - 12 回 高次元平均ベクトルの推測

第 13 - 15 回 高次元判別分析

Schedule :

1-2: High-dimensional data

3-5: Geometric representation of High-dimensional data

6-7: Curse of dimensionality on ordinary PCA

8-9: PCA for high-dimension

10-12: Inference on high-dimensional mean vectors

13-15: High-dimensional Discriminant analysis

5. 成績評価方法/Evaluation method :

毎回課す報告に対する評価の合計点

100% for submitted assignments

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書 :

青嶋誠・矢田和善 (2019), 高次元の統計学, 共立出版.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

積み上げ型の演習のため聴講制限有り : 教育測定特論 I を既修済みであること

"Educational measurement I" is required.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/12 13:45:45

科目名/Subject : スポーツ文化論特論 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 甲斐 健人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

メガ・スポーツイベントとその地域社会へのインパクト/Sport mega event and its impact for local community

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業は「開発主義とむし結びついたメガスポーツイベントと地域社会」をテーマに講義を行う。開発主義とは何かを確認する。スポーツイベントを受け入れる地域社会や地域住民、スポーツとかかわりながら生きようとする人々に注目し、スポーツイベントについて考察する。スポーツに付与されるイメージがもつ象徴的パワーを理解する。開発に懐疑的な風潮が強まる現代社会において、なぜスポーツは依然として開発主義と親和性をもつのか、その中で人々が見せる暮らしの工夫はいかなるものかについて議論する。

具体的には、メガ・スポーツイベントが地域社会や人々にとってどのような意味をもっているのか、主として日本の事例に基づき講義する。地域開発とスポーツが結びつきやすい仕組みについて考察し、その中で人々が見せる適応力について議論したい。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

開発主義とは何かを理解する。

メガ・スポーツイベントとその地域社会へのインパクトを分析する方法について理解する。

メガ・スポーツイベントが地域社会や人々にとってどのような意味をもっているのかを理解する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：なぜスポーツと開発主義を取り上げるのか

第2回：2020 東京五輪と開発主義

第3回：都市とメガ・スポーツイベント

第4回：新潟の開発とワールドカップ招致

第5回：鹿島の開発とワールドカップ招致

第6回：新潟鳥屋野開発と地域住民

第7回：鹿島コンビナート開発と地域住民

第8回：新全国総合開発計画とサッカー専門学校

第9回：サッカー専門学校とSリーグ

第10回：Sリーガーの生活戦略と日本企業の海外進出

第11回：震災とスポーツの奇縁

第12回：札幌の開発とメガ・スポーツイベント

第13回：メガスポーツ・イベントと学校教育

第14回：2020 東京五輪と地域社会

第15回：まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート (50%)、小レポート (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

適宜指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

関連文献の読み込みを求める

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/17 14:41:50

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 末松 和子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

多文化教育論研究演習Ⅱ Seminar II: Research on International Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

高等教育におけるカリキュラムの国際化、多文化教育、国際共修、留学生教育等の分野において先行研究レビューをもとに、リサーチクエスチョンを設定し、定性的研究アプローチを用いた研究（パイロット）を実施する。研究の進捗状況を発表しあい相互研鑽を図る。

This seminar provides students with an opportunity to gain deeper insights into international education such as internationalization of curriculum, intercultural/multicultural education, intercultural collaborative learning, education and support for international students. Based on the extensive literature review, students will develop research questions, identify an appropriate research method, and actually conduct a pilot study.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・先行研究レビューをもとに検証すべき課題を設定する
- ・定性的研究方法を学ぶ
- ・パイロット研究を実施する

Students should be able to

- develop a problem statement with the literature review
- select a research method suitable to their research
- conduct a pilot study

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1: 授業の概要説明、ディスカッション

第2～5回: 先行研究レビュー

第6～7回: リサーチクエスチョン設定

第8回～10回: 研究方法

第11回～14回: パイロット研究

第15回: 授業の振り返りと最終発表

1st Class: Introduction of the seminar and expectations for the students taking this seminar

2nd-5th class: Literature review

6th-7th class: Research questions

8th～10th class: Research methodologies

11th-14th: Conduct a pilot study

15: Reflection and final presentation

5. 成績評価方法/Evaluation method :

課題（レポート）50%、ディスカッションへの貢献 30%、最終プレゼンテーション 20%

Assignments (reports) 50%, Contribution to class discussions 30%, Final presentation 20%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内で配布する

Will be provided in class

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業に貢献できるよう予習すること

Students are encouraged to become independent learners

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/19 12:02:52

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 渡部 由紀

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
文献調査研究 II
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
多文化教育論研究演習 I・II は、グローバル共生教育論・多文化教育論コースを専攻する前期課程学生の課題研究論文・修士学士請求論文作成のための研究指導を主たる目的としたゼミである。演習 II では、演習 I で受講生が各自の研究テーマに即して進めてきた文献レビューを基礎に、研究論文の序章をドラフトする。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
 - 1) 研究課題および研究課題に対する具体的な問いを立てることができる。
 - 2) 研究論文の序章(ドラフト)を完成させる。
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
 - 第1回 授業概要の説明
 - 第2回 研究科題名(仮でもいい)と研究の概要と計画(A4-1枚)
 - 第3回~14回 受講学生による報告と討議
 - 第15回 授業の振り返りと最終成果報告
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
 - 30% 授業への参加・貢献
 - 30% 発表
 - 40% 研究論文の序章(ドラフト)
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
教科書は特に定めないが、授業に沿った参考図書を適宜紹介する。
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
学習目標の到達に必要な学習
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
10. **更新日付/Last Update :**
2020/02/15 14:00:17

科目名/Subject : 多文化教育論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 高橋 美能

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

多文化共生と教育

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業は、クラスという1つのコミュニティに参加する一人ひとりの間に「多文化共生」の関係性を構築するため、いかなる教育実践が効果的であるのかを考えることを目的としている。具体的には、学習環境、教育方法、学習テーマの3つの観点から、多文化共生実現に向けた教育実践を検討する。

授業では教育現場における実践に興味のある学生、および自身の研究テーマと関連のある学生を対象に、まずは多文化共生とは何かを考え議論する。そして、自身の研究テーマと多文化共生の関係性を考察し、クラス内での発表を通じて自身の研究を深め、論文執筆に向けた準備を行う

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 多文化共生社会の構築に必要な教育のあり方を考える。
2. 多文化共生と自身の研究の関係性を考え、発表や論文執筆を通じて自身の研究を深める。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

初回の授業はオリエンテーションで授業概要の説明、および自身の研究分野等の自己紹介を行ってもらう。2回目の授業以降は、定期的に自身の研究発表を行ってもらい、クラス内で参加者と共に議論する。最後はレポートの提出を求める。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席および議論への参加度 (30%)、発表 (30%)、レポート (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表の準備、およびレポート作成にかかる時間

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 11:04:37

科目名/Subject : 教育アセスメント研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 松林 優一郎

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

自然言語処理学の最前線

Cutting-edge research on natural language processing

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

大規模データを使った様々なテキスト解析技術について、特に基盤技術や汎用技術を中心に最前線の研究成果を学ぶ。演習は主要な論文の精読を中心とした輪講形式で進める。

This course offers an opportunity to learn recent research topics in the field of natural language processing (NLP) by collaboratively reading and discussing about important papers, particularly focusing on the ones about fundamental and general-purpose NLP technologies.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 自然言語処理に関する最新の研究成果に関する知見を深める
2. 学術論文を調査し、読み解く能力を得る
3. 論文読解を通して、問題の提起から解決手法の提案、結論までの論理的な考えの筋道をトレースできるようになる

The goals of this course are to:

1. widely understand the recent research in NLP,
2. improve the skills in surveying and reading academic papers, and
3. acquire an ability to trace the logical paths presented in papers.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 単語ベクトルと分布意味論 (1)
- 第3回 単語ベクトルと分布意味論 (2)
- 第4回 ニューラル言語モデル (1)
- 第5回 ニューラル言語モデル (2)
- 第6回 構文解析 (1)
- 第7回 構文解析 (1)
- 第8回 意味解析 (1)
- 第9回 意味解析 (2)
- 第10回 敵対的学習
- 第11回 強化学習
- 第12回 クラウドアノテーション
- 第13回 ニューラル機械翻訳
- 第14回 質問応答 (1)
- 第15回 質問応答 (2)

Seminar 1 Orientation

Seminar 2 Word vectors and distributed semantics (1)

Seminar 3 Word vectors and distributed semantics (2)

Seminar 4 Neural language models (1)

Seminar 5 Neural language models (2)

Seminar 6 Syntactic parsing (1)

Seminar 7 Syntactic parsing (2)

Seminar 8 Semantic parsing (1)

Seminar 9 Semantic parsing (2)

Seminar 10 Adversarial machine learning

Seminar 11 Reinforcement learning

Seminar 12 Cloud annotation

Seminar 13 Neural machine translation

Seminar 14 Question answering (1)

Seminar 15 Question answering (2)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業での発表と議論への参加度 (100%)

Presentation quality and participation in discussions (100%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義毎に適宜資料を配布する。

Materials will be distributed for each seminar.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

本研究演習履修のためには「教育アセスメント特論Ⅱ 前期 月曜日 3 講時」を履修済みのこと。

In order to take this course, students must have already taken "Advanced Lectures on Educational Assessment II" on Monday 3rd period on the first semester.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 20:16:42

科目名/Subject : 教育行政学研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 後藤 武俊

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育政策研究への政治哲学の応用 / Applying Political Philosophy on Education Policy Studies.

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

政治哲学で用いられる規範的分析の手法（功利主義、リベラリズム、共同体主義等の社会構想に基づく教育行政上の諸問題の分析）を学ぶ。

/ The course deals with the normative analysis on education policies by applying the concepts of political philosophy (Utilitarianism, Liberalism, Communitarianism and so on).

NOTICE: This course will be taught in Japanese.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・政治哲学の代表的な社会構想を理解できるようになる。
- ・政治哲学の代表的な社会構想を応用して教育行政上の諸問題を考察できるようになる。
- ・政治哲学の代表的な社会構想を駆使して適切な論証を行えるようになる。

/The goals of this course are to

- 1) understand typical conceptions in the field of political philosophy.
- 2) obtain the skill to discuss problems related to education policies by applying the knowledge of political philosophy.
- 3) obtain the skill to write an article by applying the knowledge of political philosophy.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

テキスト・参考書に挙げた図書を輪読するかたちで進めていく。論点・疑問点をまとめた資料（ワークシート）を毎回作成して持参することが求められる。

/ We will discuss the contents of the textbooks. Participants are required to write their impressions, thoughts and questions for the textbooks on the worksheet every week.

1. オリエンテーション / Orientation

2～8. テキスト①の購読 / Reading textbook No. 1

9～14. テキスト②の購読 / Reading textbook No. 2

15. まとめ / Final Discussion

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ワークシートへの評価（60%）、最終レポート（40%） /

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

ー Quality of comments written in worksheet: 60%

ー Final report: 40%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- ・キムリッカ, W. (千葉眞・岡崎晴輝他訳) (2005)『新版 現代政治理論』日本経済評論社。(テキスト① / Text No. 1)。
- ・ジェニングス, J. (吉良直・大桃敏行・高橋哲訳) (2018)『アメリカ教育改革のポリティクスー公正を求めた50年の戦い』東京大学出版会。(テキスト② / Text No. 2)。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

テキストの熟読およびワークシートの作成。 / Reading textbook and writing comments on worksheet.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

【使用言語】

日本語のみ。 / This course will be taught in Japanese.

【その他】

E-mail: taketoshi.goto.a8@tohoku.ac.jp

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 11:51:28

科目名/Subject : 教育情報学基礎論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 熊井 正之

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

アクセシビリティとユーザビリティ/Accessibility and Usability

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、学習コンテンツや学習システムのアクセシビリティとユーザビリティについて学ぶ。また、教育情報学の研究に必要な知識と技能の習得も目指す。

/This course deals with accessibility and usability of e-learning contents and platforms. It also helps students acquire the skills and knowledge necessary for conducting educational informatics research.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

この授業の目標は、(1)学習コンテンツや学習システムのアクセシビリティ・ユーザビリティを理解し、説明できるようになること、(2)教育情報学の研究に必要な知識と技能を習得することである。

/

The goals of this course are to

(1) be able to explain accessibility and usability of e-learning contents and platforms,

(2) acquire the skills and knowledge necessary for conducting educational informatics research.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. イントロダクション

2. アクセシビリティとユーザビリティ

3-4. Usability methods

5-7. ユーザビリティテスト

8-14. 発表と討論

15. 総括

/

1. Introduction

2. Definition of accessibility and usability

3-4. Usability methods

5-7. Usability testing

8-14. Presentation and discussion

15. Review

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表・授業への取り組み (約 80%)、学期末課題 (約 20%)

/Presentations and class participation (about 80%), final paper (about 20%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

各回に配付する資料を教科書・参考書として用いる。

/No textbooks will be used. References are handed out at every class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

課題に取り組むことを中心に、各回の配付資料を用いて復習すること。

/Students are required to make a thorough review each class using handouts, mainly by completing assignments.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

欠席する場合には事前に申し出てください。 /If you have to absent from class, you must notify the lecturer in advance.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/11 16:59:57

科目名/Subject : 心の健康教育に関する理論と実践

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 安保 英勇

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

心の健康教育に関する理論と実践

Theory and practice on mental health education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心の健康教育に関する理論を学び、実践（ロールプレイおよび高等学校）を行う。

Learn the theory of mental health education and practice (role play and classes in high school).

3. 学習の到達目標/Goal of study :

心の健康教育に関する理論を説明できる。

集団の特性に合った心の健康教育を立案・実践できる。

Students will be able to explain the theory of mental health education.

Students will be able to plan and practice mental health education that matches the characteristics of the group.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション

2. 心の健康教育の理論と実践例の紹介

3. -15. 受講生による心の健康教育の理論と実践例の紹介

(このうち 1-2 回高等学校に出向き、実施する)

1. Orientation.

2. Introduction of theory and practice examples of mental health education.

3. -15. Introduction of theory and practice examples of mental health education by students.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

プレゼンテーション (100%)

Presentation (100%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教室内で指示する

Text will be introduced in class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

プレゼンテーション作成

Making a presentation

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 14:09:21

科目名/Subject : 教育アセスメント研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 有本 昌弘

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

21 世紀型学習環境としてのアセスメントとリーダーシップを日本文化から検討する
Reconsidering Assessment and Leadership as a 21st Century Learning Environment

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

アセスメントとエヴァリュエーションのシナジー効果という政策と実践を通底する概念枠組みが、21 世紀型学習環境とそのイノベーションに結実している海外の動向を把握し、国内でもアクセスできる方法と受け入れられるアプローチや方向について検討する。その際、探究とゆとり教育から、教育の来し方を振り返るとともに、学際分野を切り拓くシステム思考とデザイン思考を核に、世界を見るグローバルコンピテンシー、21 世紀型のコンピテンシーを、日本文化から取り上げる試みをする。

To grasp a conceptual framework based on the policy and practice of synergy between assessment and evaluation, and the trends of the 21st century learning environment and the overseas trends resulting in its innovation, accessible methods and acceptable approaches. And look at 21st century competencies, such as global competencies that look at the world from Japanese culture.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

新聞や論文、雑誌の記事やニュースにアンテナを広げているという証拠を示すような深い課題をワークシートやカード配布により進めます。日本の文化スクリプト(例 アンナ ヴィエルジュビツカ (Anna Wierzbicka)) のフィールドへの応用では、パフォーマンス課題のうち 2 回は、読み物を通じて、手書きないし無償ソフトウェア利用による成果物提示を求めます。Worksheets and card distribution are used to carry out a deep task, such as showing evidence that the antenna has been extended to newspapers, articles, magazine articles and news. Two of the performance tasks require handwriting work etc through reading something..

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第 1 回 スクール・ベースト・アプローチによる開発と OECD シナリオ手法
- 第 2 回 日本の歴史的経緯の検討と実践の吟味および分析枠組みの探索
- 第 3 回 カリキュラム評価とアセスメントに関する課題とその枠組み
- 第 4 回 学びを創り出すアセスメントによるカリキュラム評価の再考
- 第 5 回 4 つの側面(知識、スキル、人間性、メタ学習)による 21 世紀コンピテンシー
- 第 6 回 PISA にみる課題(リテラシー、コンピテンシー)のレビュー
- 第 7 回 ISN 日本イノベーションスクールプロジェクト(NPO、企業との連携を含む)
- 第 8 回 OECD 2030 に向けたカリキュラムのリデザイン 海外の優れた実践との連携・高校との比較
- 第 9 回 アンナ ヴィエルジュビツカ(Anna Wierzbicka)のフィールドへの応用
- 第 10 回 "
- 第 11 回 "
- 第 12 回 "
- 第 13 回 "
- 第 14 回 "
- 第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

基本的にはレポート(40%)、出席点(40%)で総合的に判断する。用意したいいくつかの問いを含むアサインメントに対する何らかのアセスメントによる加点方式をとる(20%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Wierzbicka, Anna (2003) CrossCultural Pragmatics: The Semantics of Human Interaction. De Gruyter Mouton.
Wierzbicka, Anna (1997) Understanding Cultures Through Their Key Words: English, Russian, Polish, German, and Japanese (Oxford Studies in Anthropol

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

BYOD により Trello を用いて文献(書籍と論文)を指定し、関連文献等を探し出し、時間外学習の課題レポート作成を、時間外学修をより深めるミニパフォーマンス課題により行う。
データの再分析の時間を、講義のコマ数にカウントする。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business ○ JICA ベトナム派遣教育専門家、アフリカ・中南米(南アフリカ、ガーナ; ボリビア、ペルー) 派遣教員向け講義

9. その他/In addition :

下記を参照のこと

<https://researchmap.jp/read0140777/>

https://scholar.google.co.jp/citations?user=_Y1silcAAAAJ&hl=ja

https://www.researchgate.net/profile/Masahiro_Arimoto2/research

10. **更新日付/Last Update :**

2020/03/13 15:56:35

科目名/Subject : 発達臨床論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 長谷川 真里

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達心理学研究の動向 / Current trends of researches and studies of developmental psychology on childhood

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

主に子どもを対象とした発達心理学研究の論文を購読し、発達心理学の研究動向を把握するとともに、子どもを対象とする研究手法について理解する。

/ This course aims to describe the current trends of developmental studies on childhood, and to understand study methods through intensive reading the research papers of the developmental studies.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

現在の発達心理学研究における主要な研究テーマについて理解する。

/ At the end of the course, you should be able to describe main research interests and issues in current developmental psychology.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

発達心理学関連学会誌(教育心理学研究、発達心理学研究、心理学的研究、パーソナリティ研究など)の掲載論文を取り上げる。毎回、報告担当者がレジュメを作成し、査読者の立場にたって論文を紹介および考察する。

This course will cover articles published in academic journals related to developmental psychology. Every time, the reporter creates a resume and introduces the paper based on the reviewer's position.

第1回 オリエンテーション

第2-3回 発表にあたっての注意と準備

第4-14回 発表と討論

第15回 まとめとふりかえり

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献(70%), 期末レポート(30%)により評価する。

/ Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(70%) and term paper(30%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教育心理学研究、心理学的研究、発達心理学研究、パーソナリティ研究など

その他授業中に適宜参考書を紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

次週の発表論文を受講者全員が事前に読んでおくこと。/Students are expected to read the assigned papers beforehand and prepare for the discussions.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業の運営については、初回に説明する。/The course management will be explained in the first lecture.

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/26 14:04:11

科目名/Subject : 教育測定学研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 熊谷 龍一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

項目反応理論に基づくテストの分析手法

Test data analysis using item response theory

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

昨今、多くのテスト分析で用いられている項目反応理論 (Item Response Theory: 以下 IRT) について、その基本概念から発展モデルの理解、および実際のテストデータ分析手法を習得する。

This course deals with basic concepts and advanced model of item response theory. It also enhances the development of student's skill in test data analysis using item response theory.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. IRT の基本概念を理解し、テストデータ分析結果を正しく読み取ることができる。
2. 実際のテストデータに対して、IRT 分析を行うことができる。
3. IRT の発展モデル (多値型モデル、多次元モデル) について、その概要を説明できる。

The goals of this course are to

1. be able to understand the basic concept of IRT, read the result of test data analysis,
2. be able to analyse the real test data using IRT,
3. be able to describe and explain advanced model of IRT.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回: オリエンテーション: 授業全体の概要把握

第2回: IRT 理解に必要となる数学的知識 (1) 統計学の基礎

第3回: IRT 理解に必要となる数学的知識 (2) 基礎解析 (微分, 積分, 指数関数)

第4回: Concepts, Models, and Features

第5回: Ability and Item Parameter Estimation (1)

第6回: Ability and Item Parameter Estimation (2)

第7回: Assessment of Model-Data Fit

第8回: The Ability Scale

第9回: Item and Test Information and Efficiency Functions

第10回: Test Construction

第11回: Identification of Potentially Biased Test Items

第12回: Test Score Equating

第13回: Computerized Adaptive Testing

第14回: Future Directions of Item Response Theory

第15回: Conclusion

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (発言, 質問等, 50%), 適宜行う小レポート+最終レポート (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Hambleton, R. K., Swaminathan, H., and Rogers, H. J. (1991) Fundamentals of Item Response Theory. Sage Publications, Inc.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 11:59:15

科目名/Subject : 教育政策科学基礎論

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
教育政策科学の社会科学的基础 (Education Policy and Social Analysis)
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
本講義では、(1) 教育社会学の学問的性格、(2) その理論と方法の特質、について講述するとともに、(3) 教育社会学の各研究領域に即して概括的な説明をする。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
教育社会学という学問の特徴と研究の現状を理解し、社会学の視点から教育に関わる研究課題をみずから設定できる力量を身に付ける。
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**
 - 1 はじめに：社会学から教育を分析する
 - 2 メリット・クラシーの諸問題
 - 3 学歴と資格社会
 - 4 選抜機関としての学校
 - 5 教育におけるラベリング理論
 - 6 階級・言語・社会化
 - 7 人的資本と社会関係資本
 - 8 文化資本と教育達成
 - 9 日本の学校の社会学
 - 10 グローバル化と教育
 - 11 多文化主義と教育
 - 12 高等教育の拡大と変容
 - 13 教育社会学のパラダイム (1) : 1970 年代の展開
 - 14 教育社会学のパラダイム (2) : 1990 年代の展開
 - 15 教育社会学のパラダイム (3) : 2000 年代の展開
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
授業への参加度 (20%)、発表・課題 (30%)、定期試験 (50%)。
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
カラベル&ハルゼー (1980)『教育と社会変動』 東京大学出版会
ハルゼー (2005)『教育社会学：第三のソリューション』 九州大学出版会
ヒュー・ローダー (2012)『グローバル化・社会変動と教育』 東京大学出版会
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする
★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
★A high level of proficiency in English is required for this class.

★予習・復習は必ずやり遂げてから授業に出席すること
★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる
★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります
★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります
10. **更新日付/Last Update :**
2020/02/14 15:00:05

科目名/Subject : 成人教育研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 松本 大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
成人教育の理論と実践研究 (2)
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
(1) 自身の研究に関連する国内外の先行研究を収集し報告する。
(2) 学会発表や論文投稿を予定している場合は、その内容を発表・検討する。
3. 学習の到達目標/Goal of study :
(1) 自身の研究テーマに関わる研究動向を把握できる。
(2) 他者との協働的な関係のなかで研究課題を探究できる。
(3) 査読付きの学会誌における論文等から、研究方法や研究論文の作法を理解できる。
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
自らの研究テーマに関連して各自論文を収集、報告をして、それにもとづき議論を深める。
学会発表や論文投稿が近い場合には、その内容を報告・検討する。
5. 成績評価方法/Evaluation method :
発表 (50%)、授業への参加度 (50%)
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
教科書 : なし。
参考書 : 授業中に適宜紹介する。
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
先行研究を収集・批判的に検討し、報告資料を用意すること。
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note: "○" Indicates the practical business
9. その他/In addition :
特になし。
10. 更新日付/Last Update :
2020/03/18 14:49:34

科目名/Subject : 教育情報学応用論研究演習Ⅱ**曜日・講時/Day/Period :** 後期 火曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 2020 宮本 友弘**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :** 日本語**1. 授業題目/Class subject :**

ICT を活用した質問紙法の演習

Exercise of questionnaire method using ICT

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育評価に必要な情報を収集・分析する方法論の一つとして、ICT を活用した質問紙法の知識・技能を習得し、教育改善に向けてのエビデンスに基づく実践力を高める。まず、教育評価における質問紙法の利点・用途、及び、質問紙の設計、項目開発、実施、データ分析といった流れに沿って関連する理論について解説する。次に、グループワークの形態で、インターネットを利用した質問紙法の演習（目的と収集する教育情報の設定、質問紙の設計、インターネットへの実装とデータの収集、データの分析、教育改善に向けての提案）を行う。

In this course, students will acquire the knowledge and skills of the questionnaire method using ICT as one of the methodologies to collect and analyze the information required for educational evaluation, and enhance the evidence-based practical ability to improve education. In the first half of the course, students will learn the benefits and uses of the questionnaire method in educational evaluation, and theories related to questionnaire design, item development, implementation, and data analysis. In the second half of the course, students will conduct a group work on an Internet-based questionnaire survey. The main contents of the work consist of setting the purpose and educational information to be collected, designing a questionnaire, implementing it on the Internet and collecting data, analyzing data, and making proposals for improving education.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

○教育評価における質問紙法の利点を理解し、目的に応じた質問項目を開発することができる。

Students can understand the advantages of the questionnaire method in educational evaluation and develop question items according to the purpose.

○インターネットを利用して調査を実施することができる。

Students can conduct surveys using the Internet.

○収集されたデータを統計分析し、図表や文章で適切に表現することができる。

Students can analyze the collected data statistically and present the results in charts and text.

○調査結果をプレゼンテーション資料やレポートにまとめ、教育改善に活用することができる。

Students can create presentation materials and reports based on the survey results and use them to improve education.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：ガイダンス 授業の目的、内容、進め方

Guidance: course objectives, content and learning methods

第2回：教育評価における質問紙法の意義

Significance of questionnaire method in educational evaluation

第3回：学校現場における質問紙法の用途：学力の3要素との関連、自己評価ツールなど

How to use the questionnaire method in educational evaluation

第4回：質問紙の基本構成と設計手順

Basic structure of questionnaire and design procedure

第5回：項目開発の方法

Item development method

第6回：構成概念と尺度

Psychological constructs and scales

第7回：データの統計分析法①：相関分析

Statistical analysis method 1: Correlation analysis

第8回：データの統計分析法②：尺度の妥当性・信頼性（これまでの内容の確認テストの実施）

Statistical analysis method 2: Validity and reliability of the scale (Conduct a mastery test of the content learned so far)

第9回：インターネット調査演習（1）テーマ決定と調査計画の立案

Group work of Internet survey 1: Determination of research theme and preparation of research plan

第10回：インターネット調査演習（2）質問項目の作成

Group work of Internet survey 2: Development of question items

第11回：インターネット調査演習（3）質問紙のインターネットへの実装

Group work of Internet survey 3: Implementation of questionnaire on the Internet

第12回：インターネット調査演習（4）調査の実施

Group work of Internet survey 4: Conduct survey

第13回：インターネット調査演習（5）データの統計分析と資料作成

Group work of Internet survey 5: Statistical analysis of collected data and creation of result reports

第14回：インターネット調査演習（6）調査結果に基づく教育改善の提案に関するプレゼンテーション

Group work of Internet survey 6: Presentation on proposals for educational improvement based on survey results

第15回：まとめ 自分の研究や教育実践にどのように活かしていくか

Summary of learning contents and application in future research activities

5. 成績評価方法/Evaluation method:

○質問紙法の専門的な知識とICTを活用した質問紙調査の技能の2つの観点から評価する。

Evaluation is performed from two viewpoints: knowledge of questionnaire method and skill of questionnaire survey using ICT.

○質問紙法の専門的な知識の習得については、第8回目に実施する確認テストで評価する。

Knowledge of the questionnaire method is ev

6. 教科書および参考書/Textbook and references:

○テキスト

特になし（プリントを配布する）

No textbooks will be used.

References are handed out at every class.

○参考書・参考資料等

Reference books:

- ・鎌原雅彦他(1998). 心理学マニュアル 質問紙法 北大路書房
- ・小塩信司・西口利文(編)(2007). 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版
- ・田中敏(2006). 実践心理データ解析 改訂版 新曜社
- ・豊田秀樹(1988). 調査法講義 朝

7. 授業時間外学習/Preparation and Review:

○統計学の基礎について理解しておくことよい

Students are required to be able to understand the basics of statistics.

○エクセルの基本操作をできるようにしておくことよい

Students are required to be able to do basic Excel operations.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition:

○修士論文研究で質問紙調査を予定している方に役に立つ内容です。

This course is useful for students planning a questionnaire survey in master's thesis research.

10. 更新日付/Last Update:

2020/02/24 15:00:10

科目名/Subject : 発達臨床論研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 神谷 哲司

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

調査系量的心理学研究のリテラシー

Literacy for quantitative research around psychological study.

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業では、心理学とその関連領域における量的データを用いた調査系の論文を取り上げ、批判的に検討することによって、論文作成のリテラシー向上を目指す。

This course deals with the basic knowledge and skills of way to write academic papers through critical review and discussion about quantitative research.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 問題と目的における先行研究の引用の仕方と論旨展開の留意点について理解する
2. 収集するデータの特性を理解し、それに適した分析手法を選択できるようになる
3. 論文の目的と分析の結果との整合性に配慮し、結果を踏まえた適切な「考察」を行えるようになる

By the end of the course, participants should be able to do the following:

- Understand points of citation and article story on Introduction and Purpose.
- Choice an appropriate analysis method of the collected data.
- Explain reasonable the Discussion based on the Purpose and the Results on the article.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

この授業でいう「調査系」「量的」心理学研究とは、「質問紙・面接法」といった方法論に基づき、収集したデータを「数量」にコーディングを行い、その数値を用いて、情報の縮約、変数間の関連の検討、仮説の検証を行う研究を意味する心理学領域の研究を意味する。

本授業では、毎回、発表の担当者を決めて発表を行う。担当者は、調査系量的研究の論文を、自分の興味・関心に沿って1編選び、レジュメを作成して、授業の前半で報告する。後半はそれの報告を踏まえ、その論文の構成や論旨展開の在り方について、全体で討論を行う。

1. オリエンテーション
2. 調査系論文の構成と特徴
3. ~14. 個々のグループによる研究発表と質疑応答・討論
15. 全体のまとめ

In this class, we summarize "empirical research-based" and "quantitative" psychological research based on methodology such as "questionnaire / interview method", that is, research that tests hypotheses by coding collected data into "quantity".

Students select a academic empirical research-based" and "quantitative" paper and make a presentation of the paper. In the class of early half, presenters report an academic paper and point a couple of questions. Last half of the class, all participants make a discussion of the questions.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時間内の研究報告(30%), 授業態度・討論への参加状況(40%), 期末レポート(30%)により評価する。

- 1) Report of academi paper(30%), 2) A fraction of in-class contribution(40%). 3) Term-end report(30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

必要な資料はその都度配布する。

Will be provided in the class

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各回で発表される論文は、1週間前にレジュメとともに配布されるので、必ず精読してから授業に臨むこと。

また、担当した論文については、使用されている尺度項目や実験資材について可能な限り調べ、授業時間に資料として配布すること。

自ら主体的に疑問を提示し、その解決に臨む姿勢を求める。

The paper and its resume will be provided at the class of one week before. Participants must read the paper

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

初回授業時に発表の担当日を決めるので必ず出席すること。

Be sure to attend the first class to determine the date of the presentation.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:41:54

科目名/Subject : 教育情報アセスメント基礎論

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 有本 昌弘

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育アセスメントにおける社会文化と学びのテクノロジーリッチイノベーション Social
Socio-cultural learning theory and technology-rich innovation in educational assessment

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

アセスメントとその教授学習への関係、形成的アセスメントと社会文化的文脈、テクノロジーを活用したアセスメントへの新しいアプローチを学ぶ。アセスメントとエヴァリュエーションというフレームを根底に置きながら、切り口として、STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts and Math) コンテンツとシステム思考によってコンピテンシーを明示し、「学習する組織」を前提に進めるなかで、標記に迫る。文科省による委託事業「高等学校における多様な成果の評価手法の開発」の継承と発展として、短期的フィードバックをとまなうエビデンスが得られる仕組みと仕掛け（スマホやタブレット利用含む）を、高等学校の協力を得ながら進めていく。システムダイナミクスのソフトウェアを用いて、学問を横断するような形で「見える化」し、アセスメントツールを開発する。また、学習する組織については、実際にフィールドにて、教室プロセス、学校プロセス、社会的教育プロセスを、ソフトウェアを用いつつ、Causal Loop Diagram (CLD)を活用し、重層的にエビデンスとして捉えつつ、ナラティブ探究など質的にも吟味できる方法論を模索する。

To learn a new approach to assessment and its relationship to teaching and learning, formative assessment and socio-cultural context, technology-rich assessment. While underlying the frame of assessment and evaluation, by expressing the competency by STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts and Math) contents and system thinking, and proceeding on the premise of "learning organization" As the succession and development of "Development of assessment/ evaluation method of various outcomes at high school" project designated by MEXT, construct mechanisms (including smartphone and tablet) that provide evidence with short-term feedback, with the cooperation/collaboration to high schools. Using system dynamics software, "visualize" in a way that crosses academia and develop assessment tools. Also, with regard to the organizations to be learned, in actual field, using the Causal Loop Diagram (CLD) while using the software, classroom process, school process, social education process, while grasping as a multi-layered evidence as the narrative. Exploring a methodology that can also examine qualitatively, such as exploration.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

欧米の 200 の文献をレビューしたイアン・クラーク論文を、日本版に置き換える努力をした上で、国際的存在感を高める応用科学としての教育学構築の方法論の一つと前に踏み出す心構えを身につけるとともに、グローバルコンピテンシーアセスメントについて糸口を見つけることができる。

As one of the methodologies for building pedagogy/ education as an applied science that enhances international presence/ visibility, we can acquire the mental attitude to step forwards so that we can find clues about global competency assessment

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 脳科学と組織科学から「学習」と「教育情報アセスメント」の基礎を考える
- 第2回 子ども（学習者）の実態から目標（ねがいを含む）とのギャップを考える
- 第3回 近年の探究ベースの学習であるオープン学習環境（OLE）への日本の政策の特徴
- 第4回 21世紀コンピテンシー（ユネスコから、DeSeCo、ATC21S、4つの側面によるものまで）
- 第5回 'SRL' 自己調整学習 - kata script/kaizen
- 第6回 メタ認知 'MC' - Meta-cog. kizuki
- 第7回 社会文化理論、社会文化 'SCT' & 'SC' - self-efficacy Theory kankei
- 第8回 自尊心 'SE' - Self-esteem kizuna
- 第9回 各自のアセスメントタスクによるプレゼン
- 第10回 feedback との関連
- 第11回 post modern との関連
- 第12回 human well-being に向けた SDGs (Sustainable Development Goals) (持続可能な開発目標)
- 第13回 curiosity と日本文化
- 第14回 ルーブリックによるアセスメント
- 第15回 イプサチイブアセスメントによるまとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

基本的にはレポート(40%),出席点(40%)で総合的に判断する。用意したいいくつかの問いを含むアサインメントに対する何らかのアセスメントによる加点方式をとる(20%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Clark, I. (2012). Formative assessment: Assessment is for self-regulated learning. Educational Psychology Review,

Arimoto, M. et al (2015). Cultural Perspectives on Classroom Assessment -A Path Toward the. "Japanese Assessment for Learn

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

BYOD により Trello を用いて文献（書籍と論文）を指定し、関連文献等を探し出し、時間外学習の課題レポート作成を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness ○ JICA ベトナム派遣教育専門家、アフリカ・中南米（南アフリカ、ガーナ；ボリビア、ペルー）派遣来日教員向け講義

9. その他/In addition :

学部生開講科目「教育アセスメント論講義」については、別枠で開講し、初回と最終回のみ、合流する。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:05:17

科目名/Subject : 投影法特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 池田 忠義

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

TAT 演習

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理査定的重要手段である投影法のうち、TAT（主題統覚検査）を取り上げ、その特徴・実施方法・解釈の基礎について実習を通して学ぶ。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

TAT について、その理論的背景・特徴を把握すると同時に、実施・解釈の方法に関する基礎的な知識を身につける。また、自身が検査者・被験者の両方を体験し、自己理解を深める。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：TAT の理論的背景・特徴

第2回：TAT の実施法、検査者・被験者体験

第3回：TAT の各図版の特徴と解釈手続き

第4回：事例1 についての検討(1) 内容分析

第5回：事例1 についての検討(2) 形式分析

第6回：事例1 についての検討(3) 総合所見作成

第7回：事例1 の概要を踏まえての総合所見の検討

第8回：事例2 についての検討(1) 内容分析

第9回：事例2 についての検討(2) 形式分析

第10回：事例2 についての検討(3) 総合所見作成

第11回：事例2 の概要を踏まえての総合所見の検討

第12回：事例3 についての検討(1) 内容分析・形式分析

第13回：事例3 についての検討(2) 総合所見と事例理解

第14回：TAT における複数事例間の比較・検討

第15回：心理査定における TAT の活用

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的参加および発表（70%）、レポート（30%）による。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は特に指定しない。

参考書：TAT アナリシスー生きた人格診断 坪内順子 垣内出版

その他は、授業中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

参加者相互にTATを実施すること、事例検討に際しては、事前に配付する資料を予習した上で授業に臨むことが求められる。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この授業は、臨床心理研究コース所属の学生のために開講される。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/23 17:04:29

科目名/Subject : 臨床心理学基礎論

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 若島 孔文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学概論 / Clinical Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学における代表的諸理論（精神分析、来談者中心療法、認知・行動療法、家族療法など）について改札する。また、それら代表的諸理論の日本への導入における東北大学の役割と貢献について補足する。 / In this subject, we will explain the major theories of clinical psychology (psychoanalysis, client-centered therapy, cognitive behavioral therapy, family therapy, etc.). In addition, we supplement the Tohoku University's role and contribution in introducing these major theories into Japan.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①臨床心理学が人間を理解し、援助することを志向した実践の学問であることを知り、人間のこころの固有性と可変性に対する柔軟な視点について理解を深めること。
- ②東北大学の歴史の一端を知り、臨床心理学の大きな流れに向けて興味が喚起されること。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1. ～ 2. 生物・心理・社会モデルと心理療法の効果的要因について
- 3. ～ 5. 精神分析・分析心理学
- 6. 来談者中心療法
- 7. ～ 8. 認知・行動療法
- 9. ～ 10. システム理論とコミュニケーション理論
- 11. 家族療法のモデル
- 12. 解決志向短期療法
- 13. ナラティブセラピー
- 14. ～ 15. 事例の検討 /

- 1. ～ 2. Introduction to clinical psychology
- 3. ～ 5. Psychoanalysis
- 6. Client-centered therapy
- 7. ～ 8. Cognitive behavioral therapy
- 9. ～ 10. System theory and Communication theory
- 11. Family therapy
- 12. Solution focused brief therapy
- 13. Narrative therapy
- 14. ～ 15. Case study

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期間中、活動と複数のレポートによる。 / Evaluate by submitting activities and reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

野島一彦・岡村達也 2018 第3巻『臨床心理学概論』（遠見書房）

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については、授業の際、資料を配布する。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 11:12:51

科目名/Subject : 教育アセスメント概論

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 有本 昌弘

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

レッスンスタディとグローバルコンピテンシーに向けてのアセスメント Lesson Studies and Assessment for Global Competency

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

アセスメントとその教授学習への関係、形成的アセスメントと社会文化的文脈、テクノロジーを活用したアセスメントへの新しいアプローチを学ぶ。生徒の進路選択と関わり、近年の各国のカリキュラム改革の中で、21世紀型のコンピテンシー、そのアセスメントをどのようにデザインするか、教員の役割や研修（特に、ペダゴジカルリーダーシップ）について、OECDのDavid Instanceをはじめとするスタッフに逆提案する。その動向、背景についてレビューするとともに、手法の、成果やプロセス、文脈に応じた国内での応用を図る。Asia societyなどで提案されている次世代のグローバルコンピテンシーに、地元から迫るアプローチをとる。単に、雇用可能性に偏することのないよう、東北の地からの発信を、システム思考から考える。

Learn a new approach to assessment and its relationship to teaching learning, formative assessment and socio-cultural context, technology-rich assessment. In relation to student's career selection and involvement in recent years in each country's curriculum reform, the 21st century type of competency, how to design the assessment, about the role and training of teachers (especially pedagogical leadership), propose reverse to the OECD staff including David Instance. By reviewing the trends and background, to try to apply to adapt the method according to outcome, process and context. We pursue approach from the local to the next generation global competency proposed by Asian society and so on. Just think, from system thinking, outgoing from the home land of Tohoku so that it will not be biased toward employability.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

近年のassessment for learningの動向を日本の社会文化で検討しつつ、地元で検証し、これからのグローバルコンピテンシーに結びつける

While reviewing recent trends of assessment for learning in Japanese society and culture, we verify locally and link it to future global competency

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 講義のアウトライン、21世紀型学習環境の説明とクライテリアの共有

第2回 イノベティブな学習環境の模索

第3回 //

第4回 学習を最適化すること：学習科学研究の意味

第5回 //

第6回 研究に基づくイノベーションに向けて

第7回 オルタナティブ教育の貢献

第8回 状況に埋め込まれた教授法、カリキュラムの公正さ、民主主義の教授

第9回 学習環境の構築：メキシコ予備的フェーズからの授業

第10回 どうすればイノベーションが現場でうまく機能するか

第11回 イノベーションのダイナミクス：なぜイノベーションが生き残り、何が機能させるのか

第12回 オープン型の学習：システムを推進力とした教育イノベーションのモデル

第13回 日本文化からのコンピテンシーの吟味・検討

第14回 //

第15回 ルーブリック（評価指標）によるパフォーマンス課題の成果の共有

5. 成績評価方法/Evaluation method :

フィールドワーク含むパフォーマンス課題を複数回に分けたミニタスクによるレポート提出に関するレポート（50%）、授業中の発表及び議論の質（25%）、ポートフォリオの選択とルーブリック（採点指標）によるセルフ・ピアアセスメント（25%）とするが、これについては、意味のあるクライテリア（尺度や物差し）を受講生と探し、共有することに努める。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Arimoto, M. et al (2015). Cultural Perspectives on Classroom Assessment -A Path Toward the. "Japanese Assessment for Learning Network" -. Annual Bulletin, Graduate School of Education, Tohoku University, 1, 41 - 61.

Arimoto, M. & Xu, C. C. (2016) Scenar

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

BYODによりTrelloを用いて文献（書籍と論文）を指定し、関連文献等を探し出し、時間外学習の課題レポート作成を、時間外学修をより深めるミニパフォーマンス課題により行う。

データの再分析の時間を、講義のコマ数にカウントする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness ○ JICA ベトナム派遣教育専門家、アフリカ・中南米（南アフリカ、ガーナ；ボリビア、ペルー）派遣教員向け講義

9. その他/In addition :

下記を参照のこと

<https://researchmap.jp/read0140777/>

https://scholar.google.co.jp/citations?user=_YlsilcAAAAJ&hl=ja

https://www.researchgate.net/profile/Masahiro_Arimoto2/research

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:13:02

科目名/Subject : 家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 若島 孔文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 / Psychology of Families, Groups, Organizations and Communities

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

システム理論の視点から家族、集団、組織、地域社会への心理的援助について、その歴史と理論について考え、システムの動きを活用する方法、変化を導入するための実際について検討し、理解していく。 / In this lecture, we describe families, groups, organizations and communities from the viewpoint of system theory. I will explain the understanding and psychological aid of families, groups, organizations, and local communities based on their history and theory. Participants will consider how to utilize the movement of the system and how to promote change.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①臨床心理学における近年重要な発展領域である家族心理学の知識を得ること。
- ②それらの知識を集団、組織、地域社会の問題に適用し、問題解決の見通し、見立てを得られるようになること。 / ①To understand Family Psychology and Clinical Social Psychology; ②To understand how to solve problems of family, group, organization, community.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1. ～ 4. 家族面接の理解 (1) ～ (4)
- 5. コミュニケーション理論
- 6. システム理論
- 7. ～ 10. ワークによる家族面接 (1) ～ (4)
- 11. ～ 12. 緊急時支援と組織・地域社会へのアプローチ (1) ～ (2)
- 13. ～ 15. 東北大学における家族研究と支援モデルの展開 (1) ～ (3) /

- 1. ～ 4. To understand Family Session (1) ～ (4)
- 5. Pragmatics of Human Communication
- 6. System theory
- 7. ～ 10. Practice Family Session (1) ～ (4)
- 11. ～ 12. Emergency support and approach to organizations and communities
- 13. ～ 15. Development of family research and support model at Tohoku University

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業内における活動とレポート (複数回)。 / Evaluate by submitting activities and some reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

野島一彦・岡村達也 2018 第3巻『臨床心理学概論』 (遠見書房)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習として、代表的な個人療法 (精神分析、来談者中心療法など) に関して、読書し、理解しておくこと。復習及び課題として、授業時に配布した資料について理解を深めておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

- ・臨床心理の実習に関連すること多いため、早い時期での履修を期待する。
- ・臨床心理学コース以外の学生も履修・聴講可能である。
- ・毎年開講の予定である。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 11:11:14

科目名/Subject : 社会教育学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 石井山 竜平

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

地域生涯学習計画論の再検討

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

今日では、将来の人口減予測を受け、公共施設や事業の大幅な縮減計画が企図される一方で、地域には、①子どもの放課後の受け皿の拡充、②学校を地域が支援する関係づくり、③高齢世代の健康と命を守り合う地域包括ケアなど、従来行政が担っていた領域や、新たに発生した問題の解決を、地域の共助・互助力で担われることが期待され、そうした文脈から、社会教育には新たな期待が高まるなか、その機能が他部局の計画に絡め取られる傾向も現れている。

一方で注目すべきは、近年では、とりわけ少子高齢化や人口減少などの課題が厳しい地域において、行政計画を越えたところで、地域主導で地域の産業の担い手やコミュニティの担い手の育成を目指した計画が生み出され、地域の力で実動しているケースが目立ち始めていることである。

こうした、地域主導の人材育成計画の新たな展開を掴みながら、従来の社会教育計画論で蓄積されてきたもののなかで、今日に継承すべき内容とは何かを吟味する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・地方創生と社会教育をめぐる今日の状況と、地域生涯学習計画論の蓄積を理解する。
- ・共同調査を行い、共著のレポートをまとめる。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 イントロダクション
- 2 地方創生と社会教育をめぐる先行研究の検証 (1)
- 3 地方創生と社会教育をめぐる先行研究の検証 (2)
- 4 地域生涯学習計画論の検討 (1)
- 5 地域生涯学習計画論の検討 (2)
- 6 地域生涯学習計画論の検討 (3)
- 7 地域生涯学習計画論の検討 (4)
- 8 地域生涯学習計画論の検討 (5)
- 9 地域生涯学習計画論の検討 (6)
- 10 生涯学習計画化をめぐる調査 (1)
- 12 生涯学習計画化をめぐる調査 (2)
- 13 生涯学習計画化をめぐる調査 (3)
- 14 生涯学習計画化をめぐる調査 (4)
- 15 生涯学習計画化をめぐる調査 (5)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業および調査活動への参加、報告書の執筆内容に鑑みつつ、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

正規の授業日程以外で、週末や冬季休業中を活用した調査実習を予定している。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/22 13:54:08

科目名/Subject : 教育行政学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 青木 栄一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育行政の政府間関係

Intergovernmental Relations in Politics of Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育行政の政府間関係に関する代表的研究と政治学の関連文献を学ぶ。ストリートレベルの官僚制論の理解を通じて、たとえば「(教育の) 地方分権改革が、地方政治にどのような変容をもたらすのか?」「地方政府間で教育政策にはどのような相違が存在するのか、そして相違をもたらす要素は何か」という論点を扱う。

This course provides explanations of the intergovernmental relations in education, which is constructed of policy, election, political party, interest group, legislature, executive, bureaucracy, local government, street level bureaucracy and teachers union.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育行政の政府間関係についての文献（教育行政学に限らない）を批判的に読解できる。

The purpose of this course is to help students review the articles on intergovernmental relations and explain the mechanism of them.

英語文献から社会科学としての教育行政学に寄与する情報を析出できる。

The purpose of this course is to help students learn the essence of social sciences from English literature.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

内容及び進捗は以下の通りであるが、内容を変更する場合もある。

The contents and schedule are as shown below, but subject to change.

毎回、授業のテーマについてミニットペーパーを用いたディスカッションを行う。

In every class, students discuss the issues of politics and education using the Minute Paper.

1. イントロダクション Introduction

2. 政策選好 Policy preference

3. 選挙 Election

4. 政党 Political Party

5. 利益団体・アドボカシー・フィランソロピー Interest Group and Advocacy Group

6. フィランソロピー Philanthropy

7. 議会 Legislature

8. 執政府 Executive

9. 官僚制 Bureaucracy

10. 政策 Policy

11. 地方政府 Local Government

12. 教育行政 Politics of Education

13. ストリートレベル官僚制 Street Level Bureaucracy

14. 教員組合 Teachers Union

15. まとめのディスカッション Looking Back and Looking Forward

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への貢献度 (20%)、ミニットペーパー (40%)、期末レポート (40%)。

Class participation (20%), Reaction papers (40%), Review paper (40%).

ミニットペーパー (Reaction papers) は13回課され、最低でも10回の期限内提出が必要である。さもなければ試験の受験資格を失う。

There are 13 weeks with reading assignments; students should post at

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：使用しない。開講時に参考文献を提示する。

No textbooks will be used. References are provided via ISTU.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

指定したテキスト等の授業当日の該当箇所を読み予習してくる。これは全受講生にとって極めて重要なことである。

Every student is required to prepare for the assigned part of the designated textbook, papers, and books for each class.

ミニットペーパーを投稿すること。締め切りは授業の前日月曜日の午前9時である。

Every student is required to write pa

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

受講要件：「教育行政学講義Ⅰ・Ⅱ」。

※これに該当しない受講希望者は事前に担当教員と相談し、第1回授業までに最大で16,000字の教育行政学に関するレポートを提出し、受講可否に関する判断を仰ぐこと。

Students who have not got credits of Educational Administration I, II should see the lecturer.

教育政策科学コース博士課程前期及び他コース学生の「自由聴講」は認めない。

Students who are in master course of EPSA Program or other programs cannot audit.

担当教員ホームページ：<https://researchmap.jp/read0124718/>

Lecturer website: <https://researchmap.jp/read0124718/>

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/09 23:03:28

科目名/Subject : 発達障害学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 川崎 聡大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
言語・コミュニケーション障害の評価と支援
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
「読む」「書く」「聞く」「話す」といった言語モダリティの発達やその心的プロセスについて学び、ディスレクシアをはじめとする当該領域の障害に対する教育的アセスメント方法についても併せて学びます
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
本講義の到達目標は次の通りである①「読み」「書き」「聞く」「話す」の心的プロセスについて代表的なモデルを基に習熟を深める②①を基に読み書き障害や特異的言語障害などの障害機序について知る③それぞれのアセスメント法について知る。
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**
 1. イントロダクション＊講義全般の内容について概説する。
 2. Dyslexia と SLI とは① 定義と変遷
 3. Dyslexia と SLI とは② 病理及び疫学
 4. 「学業不振」と「学習障害」
 5. 「読み」の認知プロセスとその障害
 6. 「書き」の認知プロセスとその障害
 7. 「聞く」「話す」の認知プロセスとその障害①
 8. 「聞く」「話す」の認知プロセスとその障害②
 9. 「読み」「書き」の認知神経心理学的評価（アセスメント）
 10. 「聞く」「話す」の認知神経心理学的評価（アセスメント）
 11. コミュニケーションの障害とその背景①
 12. コミュニケーションの障害とその背景②
 13. 学習障害と学習意欲、二次障害等について
 14. 注意とその障害＊学習の観点から
 15. まとめ
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 40%, term-end examination 60%.
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
特に指定しない。必要に応じて資料を配布する
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
発達神経心理並びに心理検査法に関する項目を予習並びに復習しておくことが望ましい。
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business ○
9. **その他/In addition :**
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/18 13:08:10

科目名/Subject : 学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 小島 奈々恵

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
学校臨床心理学特論
School Clinical Psychology
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
教育分野における問題及びその背景, 心理社会的課題及び必要な支援について理解を深める。
Students will deepen their understanding about problems and its background, and psychosocial problems and the support needed in the field of education.
3. 学習の到達目標/Goal of study :
教育分野における問題と支援について理解し, 専門家としての在り方について考えを深める。
Students will deepen their understanding about problems and support in the field of education, and the meaning of becoming a professional clinical psychologist.
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
 1. 教育分野における基本
 2. 教育分野における問題と支援
 3. 教育分野における実践
 - ・問題: 不登校, いじめ, 非行・暴力行為
 - ・発達と教育
 - ・学習と教育
 - ・心理学的アセスメント
 - ・心理学的援助: SC, 連携, 情報共有
 - ・特別支援教育
 4. まとめ
 1. Basics in the field of education
 2. Problems and support in the field of education
 3. Practice in the field of education
 - ・Problem: school absence, bullying, misbehavior, violence
 - ・Development and education
 - ・Learning and education
 - ・Psychological assessment
 - ・Psychological support: SC, collaboration, sharing information
 - ・Special needs education
 4. Summary
5. 成績評価方法/Evaluation method :
授業への積極的参加および発表 (60%), レポート (40%)
Positive participation and presentation (60%), Report (40%)
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
特に指定しない。
Not specifically specified.
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
発表準備と、ディスカッションに積極的参加できるよう準備すること。
Preparation for one's presentation, and preparation for the discussions so that one may participate positively.
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note: "○" Indicates the practical business
9. その他/In addition :
臨床心理学コースの学生のための授業科目である。
This class is for students in the Clinical Psychology Course.
10. 更新日付/Last Update :
2020/03/18 10:41:17

科目名/Subject : 教育情報学応用論研究演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 佐藤 智子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

社会構成主義の学習方法と評価

Learning methods and evaluation of socio-constructivism

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本演習では、社会構成主義の概念や方法が、教育制度や教育カリキュラムの中でどのように具体的にデザインされ、実践されているのかを明らかにし、その在り方について熟議・考察する。

受講生がその具体的な実践方法や評価について調査・考察し、報告する。この報告に基づいて授業の場で対話と議論を図り、アイディアの創発と深化を目指す。

The object of this class is to clarify how the concepts and methods of socio-constructivism are specifically designed and practiced in the educational system and educational curriculum.

We aim at dialogue and discussion for emergence and deepening of each ideas.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1) 社会構成主義の学習理論が、現代教育の中でどのように具体化・制度化されているかを理解する。

2) 社会構成主義の考え方を踏まえて、その過程や成果を評価する方法論について自らの考えをまとめ深化させる。

3) 授業への積極的な参加を通して、学習に関する多様な考えや価値観を理解・受容したり、討議や対話に参画するために必要な能力を醸成・向上させる。

1) Understand how the learning concepts of socio-constructivism is realized and institutionalized in modern education practices.

2) Based on the concepts, to summarize and deepen your thoughts and ideas about process and the methodology to evaluate its outcome.

3) Understand and accept diverse ideas and values of learning through your active participation in classes, then to foster and improve each generic ability to facilitate your academic discussion and dialogue.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

この授業では、社会構成主義の考え方・理論的基礎を踏まえた上で、その考え方がどのように制度化され、カリキュラムの中でデザインされ、あるいは実践の中に導入されているのかを明らかにし、その方法と評価のあり方について考察する。

授業は、一方向的な講義ではなく、共創と対話を基本とするワークショップ形式とし、受講者には積極的な参加（発言と傾聴）を期待する。毎回の課題として、各自が授業の記録（議論の要約など）を作成し、リフレクション・レポート（前回授業内容のふり返りと考察）を行うことを基本とする。

予定の詳細は、状況に合わせて、受講生と相談の上で決定・調整する。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への積極的な参加（50%）

毎回の小レポート（授業記録とリフレクション・レポート）（50%）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

〈参考書〉OECD 教育研究革新センター『学習の本質—研究の活用から実践へ—』明石書店、2013 年

その他、必要に応じて授業内で紹介する。また各自で関連文献を探索して予習・復習することを期待する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

担当テーマについて各自で文献調査し、論点をまとめる。

毎回の授業について、授業記録（授業内容の要約）とリフレクション・レポートに取り組んでもらうことにより、学修の定着と思考の深化を図る。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

教育情報学応用論特論Ⅲの履修を前提とする。

問い合わせ・相談がある場合には、下記まで連絡してください。

メールアドレス : sato-t@tohoku.ac.jp

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/04 15:26:12

科目名/Subject : 教育情報学実践論特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2020 中島 平

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育情報学実践論特論Ⅱ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教えること、学ぶことの双方において、自他の認知スタイルの違いを理解して実践に活かすことは、モチベーション及び学習成果を高めるために大変重要である。この授業ではパーソナリティタイプの観点から、より深い自己理解・他者理解を身につけ、実際の教え・学ぶ場面における活用を通して、応用できるようにする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・パーソナリティタイプとは何かを説明できる
- ・自分自身のパーソナリティタイプを事例を挙げながら説明できる
- ・教え・学ぶ状況において、認知スタイルの違いがもたらす視点の歪みの例を挙げられる
- ・自らの認知スタイルを活かした学習方法を1つ提案し、実践の結果を述べられる

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション／自己紹介
2. パーソナリティタイプの理論 1
3. パーソナリティタイプの理論 2
4. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感覚-直観 1)
5. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感覚-直観 2)
6. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(外向-内向 1)
7. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(外向-内向 2)
8. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感情-思考 1)
9. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(感情-思考 2)
10. 自らのパーソナリティタイプを見いだす(判断-知覚)
11. タイプダイナミクス
12. パーソナリティタイプと学習 1
13. 自らのタイプに合った学習方法を考える
14. 学習の実践と振りかえり
15. 授業全体の振りかえり

5. 成績評価方法/Evaluation method :

1. ほぼ毎回の小レポート (20%)
2. 最終レポート (40%)
3. 授業内での種々の活動 (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

1. ほぼ毎回の小レポート
2. 最終レポート

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 13:07:30

科目名/Subject : 精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2020 前田 駿太, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) /Advanced Lecture on Psychiatry
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
精神医学および精神保健福祉に関する臨床的・実践的な事項について学ぶ。代表的な精神疾患等について、受講者がケーススタディとして発表し討論する。/The aim of this course is to help students acquire an understanding of clinical psychiatry and mental health.
3. 学習の到達目標/Goal of study :
精神医学・精神保健および代表的な精神疾患等を理解する。/The goal of this course is to understand clinical psychiatry, mental health, and psychiatric disorders.
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
 1. オリエンテーション Introduction
 2. 精神科医療 Psychiatric Care
 3. 精神保健福祉 Mental Health and Welfare
 4. 精神科診断－精神症状, 診断基準, 臨床検査 Psychiatric diagnosis
 5. 精神科治療－精神療法, 社会療法, 身体療法 Psychiatric treatment
 6. ケーススタディ①－統合失調症 Schizophrenia
 7. ケーススタディ②－うつ病 Depression
 8. ケーススタディ③－神経症 Neurosis
 9. ケーススタディ④－物質関連障害および嗜癖性障害 Substance related and addictive disorders
 10. ケーススタディ⑤－発達障害 Developmental disorders
 11. ケーススタディ⑥－自殺 Suicide
 12. ケーススタディ⑦－認知症 Dementia
 13. ケーススタディ⑧－災害時のメンタルヘルス Mental Health in Disaster
 14. スピーカーズビューロー (精神疾患当事者による体験談の聴講) Speaker' s Bureau
 15. 筆記試験 Exam
5. 成績評価方法/Evaluation method :
筆記試験 (50%)、発表・討論 (50%)
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
小此木啓吾、深津千賀子、大野 裕 (編) : 改訂 心の臨床家のための精神医学ハンドブック. 創元社、2004.
山下 格 : 精神医学ハンドブック、第 7 版. 日本評論社、2010.
沼 初枝 : 心理のための精神医学概論. ナカニシヤ出版、2014.
その他、授業内で適宜紹介する。
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
予習・復習についてはその都度指示する。
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
9. その他/In addition :
学部レベルの精神医学あるいは精神保健福祉を履修していることが望ましい。
10. 更新日付/Last Update :
2020/03/03 16:13:39

科目名/Subject : 学習心理学研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 1 講時

担当教員/Instructor : 2020 深谷 優子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
心理学研究の動向 2
Current Educational Psychology Trends and Issues 2
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
教育および関連する領域の心理学研究の領域において、受講生が各自テーマを設定し、実証研究論文を読み進めていくことで研究動向および課題を把握しつつ、展望論文を作成することを目的とする。
The aim of this course is to help students review published studies based on their own research interests.
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
各自の興味関心に基づき、日本国内外の心理学研究の実証研究論文（査読付）を 30 本以上読む。それらの研究論文を展望する論文を作成する。
Goal of study is to enable students to write a narrative review through intensive reading of peer-reviewed papers.
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
第 1 回：心理学研究の諸問題とその動向について
第 2 回 -- 第 3 回：テーマの決定および文献リストの作成
第 4 回 -- 第 10 回：実証研究論文の報告および討議
第 11 回 -- 第 15 回：展望論文の目次の作成および論文の執筆

(1) Current Educational Psychology Trends and Issues
(2) -- (3) Choosing a topic & Making reference list
(4) -- (10) Reports and Discussions of Research Papers on the reference list
(11) -- (15) Overview of the Paper & Organizing the Paper
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
発表および授業への参加・貢献 (60%)、期末レポート (40%) により評価する。
Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(60%) and term paper(40%).
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
授業中に適宜参考書を紹介する。
References and reading materials will be distributed at class.
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
・設定したテーマと作成した文献リストに基づき、30 本以上の論文を読む。
・自分の問題意識に基づき、読んだ論文を整理して展望論文を執筆する。

The students are expected to read considerable amount of research papers and to write a narrative review paper.
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
授業の運営については、初回に説明する。
This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.
10. **更新日付/Last Update :**
2020/02/26 17:40:07

科目名/Subject : 成人教育特論

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 松本 大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
日本の社会教育の国際的な位置
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
"Adult Education Quarterly"、"International Journal of Lifelong Education"、"New Directions for Adult and Continuing Education"を主な対象とし、これら成人教育や生涯学習に関する国際的な学術誌において日本の社会教育が主題となった論文を収集し講読する。これにより日本の社会教育の特徴を相対化し、国際的な文脈で日本の社会教育実践や自身の研究テーマをどのように価値づけていくのかを検討する。
3. 学習の到達目標/Goal of study :
(1) 日本の社会教育を国際的な研究動向のなかで特徴づけることができる。
(2) 将来的に自身の研究を国際的に発表する際の研究視点を養うことができる。
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
第1回 : ガイダンス
第2～14回 : 論文の報告と議論
第15回 : まとめ
5. 成績評価方法/Evaluation method :
発表 (40%)、授業への参加度 (30%)、レポート (30%)
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
教科書 : なし。
参考書 : 授業中に適宜紹介する。
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
受講者は、関連文献も積極的に収集整理しながら報告資料を作成すること。
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note: "○" Indicates the practical business
9. その他/In addition :
特になし。
10. 更新日付/Last Update :
2020/03/18 14:54:27

科目名/Subject : 人間形成史研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 八鍬 友広

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育社会史演習

Seminar on the social history of education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

日本教育史に関する文献を講読し、日本教育史に関わる事象について、広く社会的な文脈に位置づけて考察し、自らの研究を深めていくことができる能力を育成する。

This course has a seminar on the history of education in Japan. In this seminar students will have an opportunity to read the textbook on the history of education in Japan and to consider the history of education in Japan in the social context.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育社会史に関わる文献講読を通じて、日本の教育史を広く社会的な文脈で理解し、また各自の研究テーマとの関わりを追究する。本年は、山川出版社の新体系日本史シリーズ第16巻『教育社会史』を講読する。教育史学のみならず、歴史学や周辺の社会科学諸領域における研究成果にも留意しながら、教育史の研究課題について探究するものである。

The purpose of this course is to help students master the history of education in Japan and consider it in the social context by reading the textbook, "Social History of Education", edited by Masashi Tujimoto and Kouji Okita.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：演習の全体計画・文献講読分担

第2回：教育社会史という視点について

第3回：大陸文化の受容から日本文化の形成へ

第4回：中世社会における教育の多面性

第5回：文字社会の成立と出版メディア

第6回：近世社会における教育の多様性

第7回：近世民衆の人間形成と文化

第8回：幕府の教育政策と民衆

第9回：立身出世主義と近代教育

第10回：移民教育と異文化理解

第11回：植民地支配と教育

第12回：近世日本における教育社会史の課題

第13回：近代日本における教育社会史の課題

第14回：戦後日本における教育社会史の課題

第15回：教育社会史に関するカンファレンス

1. Decision of schedule and assignment

2. Viewpoint of the social history of education

3. Introducing the Chinese culture and forming the Japanese culture

4. Diversity of education in medieval Japan

5. Formation of the literal culture and the publication media in Japan

6. Diversity of education in Tokugawa Japan

7. Human formation and culture of people in Tokugawa Japan

8. Educational policy of Tokugawa Government and people

9. Success in life and modern educational system in Japan

10. Education for immigration and understanding of different culture

11. Colonization and education

12. Issues of social history of education in Tokugawa Japan

13. Issues of social history of education in modern Japan

14. Issues of social history of education after the second world war in Japan

15. Conference on the social history of education

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート課題（20％）、演習における発表（80％）

Report:20%

Presentation on conference:80%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

参考書：辻本雅史・沖田行司編『新体系日本史 16 教育社会史』（山川出版社 2002 年）

参考書：授業時間中適宜指示する

Reference book: Masashi Tsujimoto and Kouji Okita, 2002, "Social History of Education"

Yamakawa Shuppan. 辻本雅史・沖田行司編『新体系日本史 16 教育社会史』（山川出版社 2002 年）

Reference books will be introduced in the cou

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

参考書および提示する史料の講読、演習における発表の準備、レポート作成の準備等が必要となる。

Students need to read textbook and to prepare for report and presentation on conference.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 09:49:28

科目名/Subject : スポーツ文化論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 鷺谷 洋輔

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
身体文化をめぐる方法論
Methodologies on physical cultural experiences
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
本演習では、身体実践に関するエスノグラフィックな研究を中心に上げ、その方法論を整理し、可能性と限界とを考察、検討する。
The course focuses on examining methodologies of ethnographic works in the realm of physical cultural experiences and discusses their limitations and possibilities.
3. 学習の到達目標/Goal of study :
方法論と対象化の関係性を学ぶ
Understanding the relations between methodology and objectivization.
4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :
初回に指示する文献（社会学、人類学を中心とする英語文献）について、受講生がその整理検討と考察を発表する。
Each student will give presentations on materials proposed in the first class. The materials, in English, are picked from ethnographic works in the typical disciplines of sociology and/or anthropology.
5. 成績評価方法/Evaluation method :
出席参加（50%）、期末レポート（60%）
Participation (50%), Final paper (50%)
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
課題文献の精読、フィールドワークの実施
Read the assigned materials and conduct independent fieldwork.
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note: "○" Indicates the practical business
9. その他/In addition :
10. 更新日付/Last Update :
2020/03/16 10:32:59

科目名/Subject : 教育情報学実践論研究演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 中島 平

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
教育情報学実践論研究演習Ⅱ
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
教えること、あるいは学ぶことを、テクノロジーによってより効果的にするための方法を実践を通して学ぶ。
例えばショーンの省察的実践を学習者が身につけるのを支援するために、どのような学習プログラムとテクノロジーを提供できるかを学ぶ。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
 - ・あなた自身の興味や経験から、テクノロジーを活用してより効果的にしたい教育・学習のテーマを選ぶことができる。
 - ・選んだテーマの学習プロセスを記述し、テクノロジーによって改善・置き換えができる部分を見いだすことができる。
 - ・上記のテーマに関して、テクノロジーによってより効果的に支援するための方法を提案できる。
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**
 1. オリエンテーション
 2. テクノロジーによる教育・学習の支援
 3. 事例紹介 1
 4. 事例紹介 2
 5. テーマを選ぶ
 6. 学習プロセスを記述する
 7. 学習プロセスの課題を探る
 8. 課題に対する解決法を学ぶ 1
 9. 課題に対する解決法を学ぶ 2
 10. 課題に対する解決法を学ぶ 3
 11. テクノロジーの導入 1
 12. テクノロジーの導入 2
 13. 学習プログラムの設計 1
 14. 学習プログラムの設計 2
 15. 全体の振り返り
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
 1. 授業内での種々の活動への取り組み (20%)
 2. 授業内での発表 (30%)
 3. 最終レポート (50%)
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
 1. 毎回の復習
 2. 発表準備
 3. 最終レポート
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
 - ・授業において、研究開発中のテクノロジーを使ってもらふことがある。
 - ・授業で得られたデータ（授業映像など）を、後に研究目的で使う可能性がある。授業外でデータを使用されたくない場合は、事前に担当教員に連絡のこと。
10. **更新日付/Last Update :**
2020/02/14 13:08:44

科目名/Subject : 臨床心理査定演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 加藤 道代

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
心理アセスメント演習 / Psychological Assessment
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
ロールシャッハ・テスト包括システムを紹介し、実施方法と結果の整理および解釈の基本を学習する。 / This course is designed to enable participants to understand the Exner's Comprehensive System as one of the psychological assessment methods.
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
ロールシャッハ・テストにおけるコーディングの基本を学ぶ。アセスメント技術としての施行法の習得および検査データの統合の仕方を学ぶ。 / At the end of the course, participants are expected to develop coding skills and integrate assessment findings with the Exner's Comprehensive System.
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**
 1. はじめに / Theoretical background, norms
 2. ロールシャッハ・テストとは / Rorschach test and the Exner's Comprehensive System
 3. 実施手順 / Administration
 4. 反応領域 / Location and Space Codes
 5. 発達水準と組織化活動 / Development Quality and Z-scores
 6. 決定因 1 / Determinants1
 7. 決定因 2 / Determinants2
 8. 決定因 3 / Determinants3
 9. 反応内容と平凡反応 / Contents, Popular Codes
 10. 特殊スコア / Cognitive Codes and Other Special Scores
 11. 構造一覧表の作成 / Scoring a full protocol
 12. クラスタ分析の原則と解釈戦略 / Interpretive principles and procedures
 13. 構造分析 1 / Structural summary 1
 14. 構造分析 2 / Structural summary 2
 15. ケースのまとめ / Case Illustration
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
授業への取り組み (30%) / Participasion (30%)
小テスト (30%) / Quizzes (30%)
ケースレポート (40%) / Final case report (40%)
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
教科書: なし。資料を配布する。
参考書: ジョン・E・エクスナー著 中村紀子・野田昌道監訳 ロールシャッハ・テスト包括システムの基礎と解釈の原理— 2014 金剛出版 / Reference: John E Exner Jr. The Rorschach A Comprehensive System Vol.1-Basic Foundations and Principles of Interpretation (4th Edition). 2003.
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
上記テキスト (臨床心理相談室に備付) により、各自、事前事後学習を行うこと / Reference books kept in the counseling office are available for participants' preparation and review.
8. **実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
9. **その他/In addition :**
この授業は、臨床心理学コースの学生のために開設されている。 / This course is provided for master's students in clinical psychology.
10. **更新日付/Last Update :**
2020/02/14 14:11:55

科目名/Subject : 生涯教育科学基礎論

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 石井山 竜平

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

生涯学習と地域社会教育

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

成人教育とそれを支える公的条件をめぐる基本理念と、それをめぐる今日的課題についての理解を深める。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

現代では、学校教育に限定されない教育への世間的な認知は一定程度広がっている。しかし、そうした領域を指す、たとえば、「生涯学習」「社会教育」などの概念が普及したのは 20 世紀、とりわけその後半からのことであり、人類史からすれば、ごく最近のことであるという。このことが持つ意味とは何なのだろうか。そして今、地域における学習にはいかなる展開がみられるのだろうか。

この講義では、今日の地域学習の諸相を手がかりに、私たちが生きている現代社会の課題をとらえ返しつつ、これからの時代における地域生涯学習の在り方について考察する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- ・成熟社会における生活課題と、その解決を目指す学習実践の実際
- ・社会教育・生涯学習を支える理念と法制、国際的動向
- ・社会教育・生涯学習の制度と地方分権改革
- ・社会教育・生涯学習の提供主体の多元化
- ・変革の時代をきりひらく学びと自治の創造
- ・東日本大震災と社会教育、など。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

小レポート（約 3 回）、および学期末レポートによる総合評価

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第 9 版』（エイデル研究所、2017）など。その他、授業中に指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/22 13:43:17

科目名/Subject : 学校教育論特論**曜日・講時/Day/Period :** 後期 木曜日 3 講時**担当教員/Instructor :** 2020 劉 靖**単位数/Credit(s) :** 2**使用言語/Language Used in Course :** 日本語**1. 授業題目/Class subject :**

Global Education Reform Movement & The Future of Education in Asia-Pacific Region

グローバル教育改革運動とアジア太平洋地域における教育の未来

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

In the past decades, there is a rapid rise of global education reform movement (GERM) recognized as education policy borrowing for education improvement around the world. As a result, schools got fever, teachers and school leaders coughed heavily, parents got headache, and students lost their appetite to go to schools. This course aims to enable students to deepen their understanding of the ongoing global education reform movement at global and Asia-Pacific region levels. Also, it gives students a platform to explore alternative approaches for education change in Asia-Pacific region. Last but not the least, it is designed to enable students to reconsider the future of education in Japan and Asia-Pacific region by applying the alternative approaches.

The course has three parts. In the 1st part, students review theories and paradigm shifts of global education change in the past decades and common ways of the movement in the global education reform. In the 2nd part, students are invited to share their understanding and insights of the global education reform movements and alternative approaches in Asia-Pacific region by group presentations. In the last part, students are encouraged to explore the achievements and challenges of Japan's education reform and discuss about alternative approaches which can be applied to the future of Japan's education reform.

過去数十年間で、グローバル教育改革運動（GERM）は、教育改善を目指す教育政策のモデルとして世界諸国の教育システムに急速に普及されつつある。しかしながら、その結果、世界諸国の学校教育には様々な問題が生じている。本授業では、学習者がグローバル社会及びアジア太平洋地域におけるグローバル教育改革運動への理解を深め、アジア太平洋地域における教育改善のための新たなアプローチを探究することを通して、アジア太平洋地域（特に日本）における教育の将来を再考する能力を身につけることを目的とする。

本授業は3部で構成されている。第1部では、学習者は過去数十年間における世界の教育変遷に関する理論とパラダイムシフト、そしてグローバル教育改革における動きを理解する。第2部では、学習者はグローバル社会における教育改革の動きと、アジア太平洋地域における新たな教育改善アプローチについての理解と洞察をグループプレゼンテーションにより共有する。最後に、学習者は日本の教育改革の成果と課題を探究し、日本の教育の将来に適用できる代替アプローチについて議論する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

Goals of study are to enable students to: (1) have a in-depth understanding of the paradigm shifts of global education change and the global education reform movement (GERM), particularly in the Asia-Pacific region, (2) to obtain knowledge and skills of critical thinking for analyzing and interpreting educational issues, (3) to provide relevant and constructive recommendations for the future of education in Japan and the Asia-Pacific region.

本授業で学習者は、(1) グローバル教育変遷のパラダイムシフトとグローバル教育改革運動（GERM）への理解を深め、(2) 教育課題に関する分析と解釈に必要な知識と批判的な思考のスキルを習得し、(3) 日本を含むアジア太平洋地域における教育の将来に向けた適切かつ建設的な提言ができるようになる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

Week 1 Orientation オリエンテーション Education in the Era of SDGs

Week 2 Global Education Change グローバル教育の変遷

-the 1st way 第一の道

-the 2nd way 第二の道

-the 3rd way 第三の道

-the 4th way 第四の道

Week 3 Global Education Reform Movement (GERM) 1

グローバル教育改革運動 1

-Competition & School choice 競争と学校選択

Week 4 Global Education Reform Movement (GERM) 2

グローバル教育改革運動 2

-Curriculum reform カリキュラム改革

Week 5 Global Education Reform Movement (GERM) 3

グローバル教育改革運動 3

-Accountability & Standardization of Testing アカウンタビリティと標準化試験

Week 6 Global Education Reform Movement in Asia-Pacific Region 1

アジア太平洋地域におけるグローバル教育改革運動 1

Week 7 Global Education Reform Movement in Asia-Pacific Region 2

アジア太平洋地域におけるグローバル教育改革運動 2

Week 8 The Fourth Way of Global Education Change in Asia-Pacific Region 1

アジア太平洋地域におけるグローバル教育変遷の第四の道 1

Week 9 The Fourth Way of Global Education Change in Asia-Pacific Region 2

アジア太平洋地域におけるグローバル教育変遷の第四の道 2

Week 10 Global Education Reform Movement in Japan

日本におけるグローバル教育改革運動

Week 11 Exploring the Fourth Way of Japan's Education Reform 1

日本における教育改革の第四の道を探る 1

Week 12 Exploring the Fourth Way of Japan's Education Reform 2

日本における教育改革の第四の道を探る 2

Week 13 Exploring the Fourth Way of Japan's Education Reform 3

日本における教育改革の第四の道を探る 3

Week 14 Education of the Future

未来への教育

Week 15 Presentation session 発表

5. 成績評価方法/Evaluation method:

Class participation (25%) 授業参加 (25%)

Group preparation (35%) グループワーク (35%)

Final report (40%) 最終報告書 (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references:

教科書: 適宜、配布 (ISTU を通して) 予定。Reading assignments will be distributed through ISTU.

参考文献 References:

藤田英典著『教育改革: 共生時代の学校づくり』岩波書店、1997 年

Hargreaves, A., & Shirley, D. (2009). The Fourth Way: The Inspiring Future of Educational Change. Thousand Oaks: Corwin.

Harg

7. 授業時間外学習/Preparation and Review:

1. Students are highly encouraged to collect information on relevant alternative approaches for educational change and reform in the Asia-Pacific region and actively share the information at class. 学生には、アジア太平洋地域における教育の変遷と改革に向けた新たなアプローチに関する情報を収集し、クラスで情報を共有す

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition:

1. This course is provided as course included in 2020 International Graduate Program in Japanese Studies. 本科目は 2020 年度日本学国際共同大学院の科目として提供される。

2. A high level of reading comprehension in English is expected for this course. However, English beginners are also warmly welcome to join the class. 本講義は、英語での高い読解力が望ましい。ただし、このことは英語初学者の受講を排除するものではない。

3. Both English and Japanese will be used in this course. Students are highly encouraged to take part in

discussion and make presentations in English. この授業は英語と日本語で行われる。学生には英語で議論および発表に参加することを強く推奨する。

4. Office hour: Friday 2nd period

オフィスアワー：金曜日 2 限

5. 担当教員メールアドレス：jing.liu.e8@tohoku.ac.jp

Email of Lecturer in Charge: jing.liu.e8@tohoku.ac.jp

10. **更新日付/Last Update :**

2020/03/07 16:57:17

科目名/Subject : 人間形成論研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 李 仁子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

在日外国人とトランスナショナリズム

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

現代日本には多様な外国人が暮らしている。国籍も異なれば、日本に入国した時期も異なる。在留資格も、仕事も、家族構成も、母国との関係もさまざまである。在日コリアン4世もいれば、いくつもの国を経て数年前に日本にやってきたという人もいる。このように人によって国境の越え方や跨ぎ方は多様だが、確実に言えることはトランスナショナルな動きや現象が日本においても増大しつつあるということである。この演習では、そうした趨勢の中で在日外国人がどのような生活戦略（経済的・社会的・文化的）を立てているのか、またその上で自分たちの子どもに対してどのような教育戦略を編み出し実践に移しているのかを探り、彼らのトランスナショナルな生活世界の一端を理解することを目指す

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・ グローバル時代における大きな潮流となりつつあるトランスナショナルな現象や生き方に関する理解を深める。
- ・ トランスナショナルな教育戦略の現状をおさえることで、現代日本の教育を再検討するための知見と視座を得る。
- ・ 在日外国人のトランスナショナルな生活世界を知ることを通じて、自らが自明のものとして生きている生活世界や文化を相対化する文化人類学的な眼差しを身につける。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1) オリエンテーション
- 2) トランスナショナルとは何か
- 3) グローバル時代のトランスナショナル現象①
- 4) グローバル時代のトランスナショナル現象②
- 5) 過去におけるさまざまな生活戦略
- 6) 差別とヘイトスピーチ
- 7) 現代におけるさまざまな生活戦略①
- 8) マイノリティとグローバル・スタンダード
- 9) 現代におけるさまざまな生活戦略②
- 10) 血縁、IT、トランスナショナル・ネットワーク
- 11) 現代におけるさまざまな生活戦略③
- 12) 子どもの教育戦略①（教育の場）
- 13) 子どもの教育戦略②（教育の質）
- 14) 子どもの教育戦略③（教育の目標）
- 15) 日本におけるトランスナショナリズムのいま

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業での発表やディスカッション（50%）、レポート（50%）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業の初回に紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業においては積極的に発言し、自発的に発表するような姿勢が求められる。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/25 09:00:08

科目名/Subject : 教育社会学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
応用多変量解析 (Advanced Social Statistics)
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
社会学で用いられる計量分析の中級以上の手法を修得する
3. 学習の到達目標/Goal of study :
(1) 社会学で用いられる計量分析の中級以上の手法を理解する
(2) 一般化線形モデルの理論を理解し、応用した分析ができる
(3) STATA を用いて中級以上の計量分析を行うことができる
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
1 はじめに : 計量分析の可能性と限界
2 指数型分布族と一般化線形モデル
3 尤度推定と統計量
4 正規線形モデル
5 STATA 実習 (1)
6 二値変数の回帰分析
7 名義・順序変数の回帰分析
8 STATA 実習 (2)
9 ポアソン回帰
10 生存時間分析
11 STATA 実習 (3)
12 制限従属変数モデル
13 パネル・データの分析
14 傾向スコアと因果分析
15 マルチレベル分析
5. 成績評価方法/Evaluation method :
授業への参加度 (20%), 発表・レポート (40%), 課題 (40%)
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
Greene, W. (2011). *Econometric Analysis*. Pearson Education.
Dobson, A. J. & Barnett, A. (2008). *An Introduction to Generalized Linear Models*. Chapman and Hall/CRC.
Agresti, A. (2007). *An Introduction to Categorical Data Analysis*. Wiley-Interscience.
Ho
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする
★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note: "○" Indicates the practical business ○
9. その他/In addition :
★This is NOT an introductory class.
★A high level of proficiency in English is required for this class.

★Assignment は必ずやり遂げてから授業に出席すること
★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる
★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります
★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります
★本授業科目は、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会が共同で設立した一般社団法人社会調査協会の定める「専門社会調査士のための必修科目」のうち、「I. 多変量解析に関する演習 (実習) 科目」として認定の申請を予定している授業科目である。社会調査士資格については、<http://jasr.or.jp/>を参照のこと。
10. 更新日付/Last Update :
2020/02/14 15:03:22

科目名/Subject : 学習心理学特論 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

学習方略に関する研究の動向

Research trends on learning strategies

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

近刊のハンドブック掲載論文を参考資料として、学習方略に関する研究の動向について検討する。

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the research trends on learning strategies..

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①学習方略に関する研究動向について知る。
- ②研究動向と自身の研究テーマとの関連について理解する。

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Obtain basic knowledge about the research trends on learning strategies.
- ・ Understand the relationship between current trends and their research subjects.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

以下のトピックに関する研究動向について検討する。

- ・ 誤答と誤概念
- ・ マルチメディア
- ・ 協同学習
- ・ 自己説明
- ・ メタ理解
- ・ 自己調整学習

This course deals with the following topics.

- ・ Student errors and misconceptions
- ・ Multimedia in learning and instruction
- ・ Collaborative learning
- ・ Self-Explaining
- ・ Students' metacomprehension
- ・ Self-Regulated learning
- ・

5. 成績評価方法/Evaluation method :

討議への参加度 50%、期末レポート 50%

Class attendance and attitude in class: 50% - Report: 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

Dunlosky, J., & Rawson, K. A. (Eds.). (2019). The Cambridge Handbook of Cognition and Education. Cambridge University Press.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

あらかじめ指定された文献を読み、内容を理解しておくとともに、必要に応じて事前学習や資料調べを行う。

The students are recommended to prepare each lecture by reading the corresponding chapter in the textbook.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

連絡先: kudou@sed.tohoku.ac.jp

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/19 15:31:19

科目名/Subject : 生涯学習論合同演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 石井山 竜平, 甲斐 健人, 鷲谷 洋輔

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
生涯学習研究の新動向
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
生涯学習に関係する注目すべき研究成果を取り上げ、教員および大学院生全員での検討を行う。また、関連学会の年報、紀要への投稿予定者や、学会発表予定者の事前検討会も合わせて行う。
3. 学習の到達目標/Goal of study :
教員も院生も共に学び合う場であるので、到達目標は特に設定しない。
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
 - ・日本社会教育学会等の紀要論文、及び年報論文などの検討
 - ・学会発表、論文投稿の事前検討
5. 成績評価方法/Evaluation method :
出席及びレポート、討議への参加などを総合的に評価する。
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
受講生で話し合いながら決定する。
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note: "○" Indicates the practical business
9. その他/In addition :
担当教員を指導教員とする院生は、すでに受講済みの学生であっても、原則参加すること。
10. 更新日付/Last Update :
2020/03/22 13:50:01

科目名/Subject : 教育情報学実践論研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 小嶋 秀樹

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

人間科学と認知工学の融合による新しい「学び」の実践的構築に向けた文献研究

Reviewing the research papers on designing innovative "learning" based on the integration of human sciences and cognitive engineering

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

人間科学と認知工学の融合による新しい「学び」を構築するために、人間科学研究および認知工学研究の重要文献をレビューする。究極的なゴールは人間理解であり、脳科学・心理学・ロボット工学などからの研究アプローチを学び、修士論文研究など今後の学修や研究に向けた見通し・動機づけを与える。

In this course of the seminar, students review a series of academically important papers and books on human sciences and cognitive engineering in order to be able to construct a new perspective for "learning". The ultimate goal of this seminar is the understanding of humans by integrating the approaches from brain science, psychology, and robotic engineering. Through these activities, students are expected to be able to foresee their future studies and research on the field.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・新しい「学び」を構想・研究するために必要となる人間科学・認知工学に関する重要研究について基礎的な理解をもつ。
- ・自分が調べた文献の概要（理論的背景、実験内容、結果の意義など）を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- ・これら重要研究に対する理解をもとに、今後の研究の進め方を具体的に考察・説明することができる。
- ・To be able to understand the fundamentals of human sciences and cognitive engineering for future "learning".
- ・To be able to understand the contents of research papers and explain it using one's own words.
- ・To be able to envision further study and research on this field by integrating the existing knowledge.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：イントロダクション：人間研究のための諸科学
- 第2回：論文紹介（1）認知科学
- 第3回：ディスカッション（1）認知科学
- 第4回：論文紹介（2）コミュニケーション科学
- 第5回：ディスカッション（2）コミュニケーション科学
- 第6回：論文紹介（3）発達心理学
- 第7回：論文紹介（3）発達心理学（つづき）
- 第8回：ディスカッション（3）発達心理学
- 第9回：論文紹介（4）一般言語学
- 第10回：論文紹介（4）一般言語学（つづき）
- 第11回：ディスカッション（4）一般言語学
- 第12回：論文紹介（5）進化心理学
- 第13回：論文紹介（5）進化心理学（つづき）
- 第14回：ディスカッション（5）進化心理学
- 第15回：まとめ：諸科学の統合による人間研究

5. 成績評価方法/Evaluation method :

各ターゲット文献についてのレビュー発表とディスカッションへの参画度によって評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

とくになし。ターゲット文献は都度提供する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

ターゲット文献をそれを扱う演習時までにはあらかじめ読んでおくこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 09:03:12

科目名/Subject : 教育心理学研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 深谷 優子, 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育心理学研究の構想と展開 2

Research concept and its development of educational psychology 2

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業は、教育心理学研究演習 I を踏まえて、大学院生各自の研究について、それぞれの構想ないしデータ収集中の研究の途中経過を報告し、参加者全員で検討することを通して、研究の構想とその具体化、研究結果の記述などについて相互に学習する機会を提供することを目的とする。

The aim of this course is to help students acquire necessary skills and knowledge that needed to conduct psychological research in education.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①研究計画の立案方法について知識を得る。
- ②自身の研究構想を実現するための具体的なデータ収集計画を立案できる。
- ③教育心理学研究におけるデータ分析の手法について理解を深める。
- ④自身の研究のデータ分析を的確に行うことができる。
- ⑤研究結果や考察の記述・呈示の方法について知識を得る。
- ⑥自身の研究結果について、適切な考察を記述できる。

The goals of this course are to

- (1) Learn the knowledge to make your own research plan.
- (2) Develop a data collection plan for your research.
- (3) Understand data collection techniques.
- (4) Analyze your data accurately.
- (5) Learn the knowledge about how to write research results and considerations
- (6) Consider your research results appropriately.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第 1 回 ~ 第 15 回 学生各自が自身の研究構想ないし途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。

Each student reports on their own research concept or progress and discusses it. Then, they report what changes have been made to their research plans as a result of the discussion. In addition, they report on their data and the results of their analysis.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献 (80%), 期末レポート (20%) により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution (80%) and term paper (20%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に用いない。参考書については授業内で適宜紹介する。

Will be introduced in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・研究構想 (途中経過も含む) を立案する。
- ・データおよびその分析を遂行する。
- ・討議の準備 (報告者によるレジュメ作成, 受講者による質問準備等) を行う。
- ・討議の結果を研究構想・計画, 論文等に反映させる。

The students are expected to 1) make their own research plan; 2) analyze their data; 3) prepare for discussion; 4) reflect the results of discussions

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他/In addition :

この講義は教育心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げ

ない。

This course is for students whose research interests in Educational Psychology. Other psychology students are also welcomed.

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/26 17:48:06

科目名/Subject : 発達心理学研究演習Ⅳ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 神谷 哲司, 長谷川 真里

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達心理学研究の方法と分析 2

Methods and Analyses of Developmental Psychology Research II

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、大学院生各自の研究について、それぞれの構想と内容（目的・方法・結果等）を発表し、参加者全員で検討することを通して、研究の進め方、研究結果の記述、提示の方法について学ぶことを目的とする。

This course deals with the basic psychological research skills through discussion about participants' research design and report.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 研究計画の立案方法について学ぶ。
2. 発達心理学研究におけるデータ分析の手法について学ぶ。
3. 研究の結果と研究目的、考察との関連性の記述方法について学ぶ。

The goals of this course are to learn

1. the way to make a research design
2. methods of data analysis on developmental psychological research.
3. how to describe connected thesis through purpose, results, and discussion.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回～第15回 学生各自が自身の研究構想ないし、途中経過について報告し、自由討議を行う。さらに、討議の結果、構想ないし研究計画にどのような変更が加えられたかについて報告する。研究で得られたデータおよびその分析についても報告対象とし、これらについて議論を行う。

Each participants report on their own research concept or progress and discusses it. Then they report what changes have been made to their research plans as a result of the discussion. In addition, they report on their data and the results of their analysis.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献(80%), 期末レポート(20%)により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution (80%) and term paper (20%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に用いない。参考書等については、授業時間内に適宜紹介する。

Will be introduced in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・研究構想の立案
- ・データ分析
- ・討議の準備（報告者によるレジュメ作成、受講者による質問準備等）を行う。
- ・討議の結果を研究構想・計画、論文等に反映させる。

The participants are expected to 1) make their own research plan; 2) analyze their data; 3) prepare for discussion; 4) reflect the results of discussion in their research

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この講義は発達心理学を研究テーマとした学生を対象としているが、他の心理学分野を研究テーマとする学生の参加も妨げない。

This course is for students whose research interests in Developmental Psychology. Other psychology students are also welcomed.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:41:54

科目名/Subject : 臨床心理実習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 加藤 道代, 若島 孔文, 安保 英勇, 吉田 沙蘭, 前田 駿太, 砂川 芽吹, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
心理臨床ケースカンファレンス / Case Studies in Clinical Psychology
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
心理面接に関する基本的な事項について、事例を通して学び、心理臨床の理論と方法を理解する。 / This course deals with case studies to help participants learn basic concepts and principles of clinical psychology. It also provides an overview of therapeutic approach and practical skills for psychological counseling.
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
グループ討論や全体討論を通して、カウンセラーがどのように相談者の状況や感情を理解し、問題解決のために動くことができるのかを理解すること。面接の枠組み、見立て、諸技法による対応を現実の事例対応に活かせるようになること。 / Through class work and group discussion, participants should be able to do the following:
 - ・ Understand how counselors work to identify issues, explore clients' feelings, and resolve their concerns.
 - ・ Apply therapeutic structure, approach and skills to actual psychological counseling situations.
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
授業では各回 1 事例の検討を行う。面接担当者による事例報告、簡単な質疑応答後、グループワークによる事例検討を行う。受講者は、事例について意見、疑問等を積極的に発言し、グループおよび全体で議論し、事例の理解を深める。 / Psychological case studies based on presentation of counseling cases and group discussions.
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
グループワークへの参加状況 (40%) / Participation in group discussion (40%)
事例に関する各回レポート (60%) / Brief report each week (60%)
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
教科書は特に定めない。テキストは適宜紹介する。 / Reference will be introduced in the class.
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
予習・・・資料は授業終の月曜日から臨床心理相談室事務室内で閲覧できるので、事前に目を通しておくとよい。 / Participants are expected to prepare each discussion by reading the case materials prior to the class.
復習・課題・・・授業を通じて事例から学んだことはレポートにまとめて翌週提出する。 / Participants should turn in brief report each week.
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
 - ・この授業は臨床心理学コースの学生のために開設される。 / This course is provided for master's students in clinical psychology.
 - ・来談者の人権を尊重し、個人、家族等、関係者の情報保護に十分な配慮をすること。 / Respect the human rights and protect personal privacy for clients and the people concerned.
10. **更新日付/Last Update :**
2020/02/14 14:14:03

科目名/Subject : 臨床心理面接特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 吉田 沙蘭, 加藤 道代, 若島 孔文, 安保 英勇, 前田 駿太, 砂川 芽吹, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
臨床心理面接法
Method of Clinical Counseling
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
多様な臨床心理学的理論に基づいた見立てや介入の方法について、実際の事例を用いて学び、体験的に理解することを目的とする。
In this class, the participants learn about the method of assessment and intervention based on various psychological theories, using actual cases. The aim of this class is to understand experientially how to apply psychological theories to the cases.
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
 1. 多様な心理学的理論について、実際の事例と結びつけて理解すること
 2. 理論に関する知識を活用し、事例の見立てや介入について考えられるようになること
 3. ひとつの事例について複数の理論的背景を基にした解説を聞くことで、比較の視点を養うとともに、より柔軟かつ多角的な事例の捉え方をすることができるようになること
 1. To understand various psychological theories through actual cases.
 2. To consider the assessment and intervention using psychological theories.
 3. To attain flexible and various perspective in dealing with clinical cases.
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
毎回の授業では、学生が提示した事例を用いて、各担当教員が多様な理論的背景に基づいた解説を行う。
受講者は解説を受け、グループディスカッションおよび個人ワークを行い、各種理論および事例に対する理解を深める。
The faculty members will explain the cases presented by the participants based on various theoretical backgrounds.
The participants deepen their understanding of various theories and cases through group discussions and individual work.
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
期末レポートにより評価する
Term paper (100%)
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
特に指定しない
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
事例に関する資料は授業週の月曜日から臨床心理相談室事務室内で閲覧できるので、事前に目を通しておくことが望ましい
Participants are expected to read the case report prior to the lecture.
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
この授業は臨床心理学コースの学生のために開講される
This class is provided for the students of clinical psychology course.
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/10 22:06:30

科目名/Subject : グローバル共生教育論合同演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 劉 靖, 松本 大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

グローバル共生教育論研究 Research on Educational Practices for Global Coexistence

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

持続可能な社会の時代に向けて、社会、経済および環境といった様々な分野の変容と共に、教育のあり方の再検討も必要になっている。本講義では、グローバル社会における諸教育課題を取り上げ、参加者全員での検討を行うと共に、参加者が各自の研究テーマを探し、修士論文作成に向けた課題設定や先行研究や研究手法などについての指導を目的とする。

In the era of SDGs, with the changes of society, economy and environment, it is necessary to reconsider the role of education. In this seminar, participants will discuss educational issues of the global society, select research topics, and acquire knowledge and skills of how to set up research topic, how to conduct literature review and how to conduct research.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

本演習の目的は次の3点である。

- ①グローバル社会における諸教育課題を理解できるようになる。
- ②グローバル共生教育に関する諸理論を応用しグローバル社会における諸教育問題を考察できるようになる。
- ③グローバル社会における諸教育課題に関する研究能力を身に着けるようになる。

Three Goals of this seminars, including,

1. To deepen understanding of the roles of education in achieving a sustainable society;
2. To be able to provide an educational perspective to issues in the Era of SDGs;
3. To be able to consider and set up research topic through case studies of educational issues in Asia including Japan.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 Session 1 : オリエンテーション Orientation

第2回-3回 Session 2-3 : グローバル共生教育論研究について Introduction to Research on Educational Practice for Global Coexistence

第4回 Session 4 : 課題設定 How to select a topic?

第5回 Session 5 : 先行研究 How to conduct literature review?

第6回 Session 6 : 研究手法 Research methodology

第7回-12回 Session 7-12 : 受講学生による報告と研究指導 Presentations & Guidance

第13回-14回 Session 13-14 : 発表のやり方と論文の書き方 How to present research findings & How to write thesis?

第15回 Session 15 : 授業の振り返りと最終成果報告 Reflection & Final presentation

5. 成績評価方法/Evaluation method :

講義への貢献度 (20%)、発表 (40%) および最終レポート (40%) で総合的に評価する。

Participants will be evaluated comprehensively through contribution to the class (20%), presentation (40%), and final report (40%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業ごとに提供する。References will be provided in each class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/03 19:46:27

科目名/Subject : 教育情報学応用論概論

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 倉元 直樹, 宮本 友弘

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

Intermediate Lecture on Application Theories of Educational Informatics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

青年期にあたる高校生の心身の発達状況を所与の前提として、「高大接続」という概念を中心に大学進学の実像について「学ぶ側」と「教える側」の双方の視点から迫る。前半では現在の我が国の大学入試の実情について、学際的な学術研究や各種の教育関連データを基に国際的な軸と歴史的な軸から俯瞰的に把握する視点を学ぶ。後半では高校の進路指導や大学入試の実施について、社会的、制度的な観点でアプローチするとともに、事例から具体的に学ぶ。最後に受講者自身の経験を交換し、受験生、学生にとって望ましい大学入試制度の条件を考える。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・自らが経験してきた大学入試について教員・大学の側から見る視点の転換を行う。
- ・教育の一環として、選抜制度をどのように位置づけるか、多層的に考える視座を獲得する。
- ・高校と大学の接続関係を題材にして歴史的・国際的視点からの広い視野を養う。
- ・将来、教員や保護者の立場で入学者選抜に関わる際に重要な考え方について学ぶ。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：オリエンテーション——高大接続：大学入試に対する受験者以外の視点——
- 第2回：大学入試の現場1：実施側から見た共通試験、個別試験の実情（担当：宮本友弘）
- 第3回：大学入試の現場2：高校における進路指導の考え方（担当：宮本友弘）
- 第4回：大学入試の現場3：受験勉強に対する批判と受験指導の教育的意義（担当：宮本友弘）
- 第5回：世界の大学入試1：世界の大学と学校教育、入学者選抜制度（担当：倉元直樹）
- 第6回：世界の大学入試2：北米の大学入学者選抜（担当：倉元直樹）
- 第7回：世界の大学入試3：ヨーロッパの大学入学者選抜（担当：倉元直樹）
- 第8回：世界の大学入試4：東アジアの大学入学者選抜他（担当：倉元直樹）
- 第9回：大学入試の歴史1：戦前の旧制高校入試制度（担当：倉元直樹）
- 第10回：大学入試の歴史2：戦後の大学入試制度（担当：倉元直樹）
- 第11回：大学入試の歴史3：現在の教育改革と大学入試（担当：倉元直樹）
- 第12回：大学入試の諸相1：進路指導と進学動向の地域における多様性（担当：宮本友弘）
- 第13回：大学入試の諸相2：進路指導と進学動向の設置者、学校種による多様性（担当：宮本友弘）
- 第14回：大学入試の諸相3：大学の学生獲得戦略と教育産業（担当：宮本友弘）
- 第15回：まとめ（討論）：望ましい大学入試制度——体験の共有と相対化——（担当：全員）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席状況（ミニットペーパーと授業内の発言）とレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- 東北大学高等教育開発推進センター編（2011）『高大接続関係のパラダイム転換と再構築』東北大学出版会
- 東北大学高等教育開発推進センター編（2012）『高等学校学習指導要領 VS 大学入試』同上
- 東北大学高等教育開発推進センター編（2013）『大学入試と高校現場——進学指導の教育的意義——』同上
- 東北大学高等教育開発推進センター編（2014）『「書く力」を伸ばす——高大接続における取組みと課題——』同上
- 東北大学高度教養教育・学生支援機構編（2016）『高大接続改革にどう向き合うか』同上
- その他、必要

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回の講義内容の予習・復習、課題提出

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

ゲスト講師を招く予定あり。初回の講義で授業運営方針について説明する。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 15:04:41

科目名/Subject : 人間形成史特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 池尾 恭一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
カント教育学研究/Reading Kant's Texts
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
18 世紀ドイツの哲学者カントによれば、人間理性の関心は (1) 私は何を知りうるか、(2) 私は何をなすべきか、(3) 私は何を望んでよいかという問いに向かい、これら三つの問いが (4) 人間とは何であるかという問いに集約される。カントの『人間学』および『教育学』の読解を通して、カントの人間形成観を明らかにしていく。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
カントのテキストを読み解き、そこにみられる思想を追思考することを通して、自律的に思考することができる。
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**
1～2. カント倫理学 概観 3～4. カントの実用的人間学 概観 5～6 カントの教育学 概観 7～9. 『教育学』序論 読解 10～11. 『教育学』自然的教育論 physical education 読解 12～14. 『教育学』人間形成論 cultivation of the mind, moral culture 読解 15. カントの人間形成観 総括
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
テキストの講読 (英語訳を主に使用する) とその内容に関するディスカッションへの積極的な参加・取り組みを総合的に評価する。
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
Kant, Anthropologie in pragmatischer Hinsicht, 1798.
(Anthropology from a Pragmatic Point of View)
Immanuel Kant über Pädagogik, herausgegeben von Friedrich Theodor Rink, 1803.
(Education BY IMMANUEL KANT translated by Annette Churton)
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
Students are required to prepare for class.
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
一部前年度からの継続の授業であるが、新規の受講者には十分な配慮を行う。
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/13 12:18:08

科目名/Subject : 比較教育学研究演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 2 講時

担当教員/Instructor : 2020 井本 佳宏

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

比較教育学の方法論の再検討 / Reconsidering Methodologies of Comparative Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業では、比較教育学の方法論について、エビデンスの取扱いに焦点を当てて再検討を行うことを通じて、比較教育学の学問的性質への理解を深めるとともに、比較教育学的思考のセンスを身につけることを目指す。そのため、各回の授業においては、本テーマに関連する論稿の講読を行う。 / This course aims to acquire a comparative perspective on education and deepen an understanding of the characteristics of comparative education as an academic discipline by reconsidering the methodologies of comparative education focusing on the handling of evidence. In each lesson, we will read texts related to this theme and discuss it.

Notice: This course will be taught in Japanese.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 比較教育学の方法論上の諸課題について把握する。
2. 教育学研究におけるエビデンスをめぐる諸論点について把握する。
3. 比較教育学の学問的性質を理解する。

/The goals of this course are to

- understand the issues of methodologies of comparative education,
- understand the issues concerning “evidence” in educational studies,
- understand the characteristics of comparative education as a discipline.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 オリエンテーション / Orientation

第2回 方法論を編みなおす(1) / Reformulate Methodologies 1

第3回 方法論を編みなおす(2) / Reformulate Methodologies 2

第4回 方法論を編みなおす(3) / Reformulate Methodologies 3

第5回 方法論を編みなおす(4) / Reformulate Methodologies 4

第6回 方法論を編みなおす(5) / Reformulate Methodologies 5

第7回 「エビデンスに基づく教育」再考(1) / Reconsidering “Evidence-Based Education” 1

第8回 「エビデンスに基づく教育」再考(2) / Reconsidering “Evidence-Based Education” 2

第9回 「エビデンスに基づく教育」再考(3) / Reconsidering “Evidence-Based Education” 3

第10回 「エビデンスに基づく教育」再考(4) / Reconsidering “Evidence-Based Education” 4

第11回 「エビデンスに基づく教育」再考(5) / Reconsidering “Evidence-Based Education” 5

第12回 「エビデンスに基づく教育」再考(6) / Reconsidering “Evidence-Based Education” 6

第13回 「エビデンスに基づく教育」再考(7) / Reconsidering “Evidence-Based Education” 7

第14回 「エビデンスに基づく教育」再考(8) / Reconsidering “Evidence-Based Education” 8

第15回 全体のまとめと補足 / Review, reflection, and course evaluation

5. 成績評価方法/Evaluation method :

1. 授業内での報告および議論への貢献 (50%)
2. 期末レポート (50%)

/Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Presentation and attitude in class: 50%
- Final paper: 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

○教科書 / Texts

- ・日本比較教育学会『比較教育学研究』第57号、東信堂、2015年

(Comparative Education: Bulletin of the Japan Comparative Education Society, 57)

- ・杉田浩崇・熊井将太編『「エビデンスに基づく教育」の関を探る—教育学における規範と事実をめぐる—』春風社、2019年

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・検討対象の文献については授業までに必ず読み、要点をメモにまとめておくこと。
- ・各回の報告担当者は事前にプレゼンの準備をすること。

/The students are required to read the assigned papers.

The students in charge of the presentation in each lesson are required to prepare for it.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: “○” Indicates the practical business

9. その他/In addition :

オフィスアワー 火曜日 13:00～15:00

／Office Hour: 13:00-15:00, Every Tuesday

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/11 18:00:58

科目名/Subject : 臨床心理学概論

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 中島 正雄

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
臨床心理学に基づく多様な支援
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
臨床心理学は、心の傷や躓きの体験をもつ人を支援する実践的な学問である。本授業では、臨床心理学の支援の基本的な考え方や多様な支援方法に関する実践的な知識について、テーマを選んで事例論文を読み込み、ディスカッションを通して学ぶ。
3. 学習の到達目標/Goal of study :
臨床心理学に基づく支援の考え方、テーマに応じた支援方法と支援内容について理解を深める。
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
 - 1 オリエンテーション
(2回目以降: 事例論文を選んでそのテーマにおける支援方法と支援内容についての発表と討議)
 - 2、3 : いじめ・ハラスメント
 - 4、5 : 自閉症スペクトラム障害
 - 6、7 : 不登校・ひきこもり
 - 8、9 : 神経症性障害
 - 10、11 : 気分障害
 - 12、13 : 統合失調症
 - 14 自殺、他職種との連携・協働など
 - 15 まとめ
5. 成績評価方法/Evaluation method :
ディスカッションへの参加度 (20%)、発表 (30%)、期末レポート (50%)
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
授業内で適宜紹介する。
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note: "○" Indicates the practical business
9. その他/In addition :
それぞれのテーマに関する事例論文について、1人1回以上は発表を行う。発表の後は全員で事例検討を行うが、その事例検討の内容も含めて発表者はレポートを書いて提出することを課題とする。
10. 更新日付/Last Update :
2020/03/25 14:17:56

科目名/Subject : 教育情報学基礎論特論 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 3 講時

担当教員/Instructor : 2020 渡部 信一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

「人工知能」の学習と人間の「学び」

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

「人工知能」の学習と人間の「学び」との違いを自分なりに考え、その点について他の人と議論する。
これからの「人口知能社会」における教育や学校のあり方を検討する。

教科書を読みまとめ、みんなと議論し、それを元に自分の考えをまとめ直すという作業を行う。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

人間の「学び」についての専門的な知識を習得し、人工知能の学習とは異なることを理解する。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1 オリエンテーション

2 シンクロする「教育現場」と「人工知能」開発：なぜ「人工知能」に着目するのか？ (第1回目)

3 シンクロする「教育現場」と「人工知能」開発：なぜ「人工知能」に着目するのか？ (第2回目)

4 人工知能の「ディープラーニング」：「学習」はどのように生まれるか？ (第1回目)

5 人工知能の「ディープラーニング」：「学習」はどのように生まれるか？ (第2回目)

6 「教師あり学習」を支えるビッグデータ：「教師の役割」とは何か？ (第1回目)

7 「教師あり学習」を支えるビッグデータ：「教師の役割」とは何か？ (第2回目)

8 自律的に学習する最新の人工知能：「学習者が教師を超える」という発想 (第1回目)

9 自律的に学習する最新の人工知能：「学習者が教師を超える」という発想 (第2回目)

10 人工知能に負けない「教育」：「学習者のフレーム」という視点 (第1回目)

11 人工知能に負けない「教育」：「学習者のフレーム」という視点 (第2回目)

12 人工知能と「教育」の未来 (第1回目)

13 ケーススタディ① コンピュータによる「カウンセリング」への挑戦

14 ケーススタディ② 最新のテクノロジーで伝統芸能の本質を捉えることは可能か？

15 まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

教科書を読みまとめる能力、みんなと議論する能力、そして自分の考えをまとめ直す能力を評価対象とする。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書： 渡部信一著 『A I に負けない「教育」』(大修館書店 2018)

(教科書は図書館等で借りるか、購入することが望ましい。)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

教科書を読みまとめる作業は、授業時間外の学習で行う。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 08:18:55

科目名/Subject : 産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 榎原 佐和子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

産業心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

昨今の社会情勢の中、職場における心理職の果たす役割は大きくなってきている。産業・労働領域で働く心理職は、心理学・臨床心理学・精神医学だけでなく、産業・労働領域に関する法令、厚生労働省の指針、働く人のストレスに関する知見、モチベーション、リーダーシップに関する知見等、さまざまな知識に基づいて活動する必要がある。本授業では、産業・労働領域で働く心理職として知っておくべき基本的知識を調べ、それらに基づき討論を行い、産業・労働領域で働く心理職として身に付けておくべき知識・態度の習得を目指す。

また、産業・労働領域で働く心理職は、職場というコミュニティで働く心理職である。そのため、人事や上司、産業医等からコンサルテーションを依頼されることも多い。模擬コンサルテーションを通して、職場におけるコンサルテーションの基本を身に付けることも本授業の目的とする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・産業・労働領域で働く心理職として身に付けておくべき知識・態度を習得する。
- ・働く人のメンタルヘルス対策に関する知識を深める。
- ・自らのキャリアについて考えることができるようになる。
- ・職場におけるコンサルテーションの基本を身に付けることができる。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- ・オリエンテーション、産業・労働分野で働く心理職とは
- ・働く人のメンタルヘルスに関する産業・労働分野の法令、労働災害防止計画
- ・精神疾患の労災認定、過労死、ワークライフバランス
- ・労働者の心の健康に関する指針
- ・働く人のストレス、自殺対策基本法、
- ・働く人のストレス、職場におけるハラスメント
- ・働く人のストレス、ストレスチェック制度、ストレスマネジメント
- ・職場復帰支援
- ・産業・労働分野の社会資源
- ・キャリア支援
- ・ワークモチベーション、ワークエンゲージメント
- ・障害のある人の就労、障害者雇用促進法
- ・職場におけるコンサルテーション

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (50%)、レポート (50%) を総合して評価する。

*個人でのプレゼンテーション、グループでのプレゼンテーションを行う予定である。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書 : 特に指定しない。

参考書 : 馬場昌雄・馬場房子・岡村一成 (監修) (2017). 産業・組織心理学 改訂版 白桃書房

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各授業時に適宜指示する。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business ○

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/23 16:38:50

科目名/Subject : 教育社会学研究演習 II

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 島 一則

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育経済学領域における計量分析 Intermediate-Level Statistics for Economics of Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本演習では、教育経済学で用いられる複数の統計的手法について、関連論文・図書の講読と議論を通じて理解を深める。

Students will deepen their understanding of statistical methods used in economics of education through reading related papers and books and discussing.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

受講学生は、基礎的な統計手法から重回帰分析までの学部レベルの基礎的な知識を踏まえて、より深いレベルの知識の獲得と R を使った演習により、中級レベルの統計的知識と R の基礎的な利用法を学ぶ（想定対象者・SPSS を利用した経験はあるが R は利用経験のない院生）ことが、専門的知識・技能という観点からはその到達目標となる。また、汎用的技能・態度・志向性という観点からは、コミュニケーションスキル・論理的思考力・自己管理力・批判的思考力、生涯学習力を向上させる。特に数量的スキルの向上に力点を置く。

Based on the basic knowledge about the undergraduate level statistics to multiple regression analysis, students can acquire intermediate-level statistical knowledge and R.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 回：調査とデータ (Survey and Data)
- 2 回：記述統計量 (Descriptive Statistics)
- 3 回：母集団と標本 (Population and Sample)
- 4 回：仮説と統計的検定 (Hypothesis and Statistical Test)
- 5 回：クロス集計 (Cross Tabulation)
- 6 回：平均の差の検定 (Difference Test of Mean)
- 7 回：分散分析 (ANOVA)
- 8 回：相関分析 (Correlation Analysis)
- 9 回：3 変数の関連 (Relation of Three Variables)
- 10 回：単回帰分析 (Simple Regression Analysis)
- 11 回：重回帰分析 (Multiple Regression Analysis)
- 12 回：ダミー変数・相互作用項 (Dummy Variables and Interaction Terms)
- 13 回：主成分分析 (Principal Component Analysis)
- 14 回：因子分析 (Factor Analysis)
- 15 回：マルチレベル分析 (Multi-Level Analysis)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業内容についての理解とコミットメント (50%)・最終レポート (50%) による。ただし、出席状況によっては受験資格を喪失する。

Quiz (50%) / Final Reports (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：特になし
授業ごとに指示する

Textbook : Nothing special

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。

For the preparation and review, specific contents will be instructed in the class.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業中の発言など積極的な関与を求める

Seeking active involvement, such as remarks during class

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/09 19:19:30

科目名/Subject : 教育アセスメント研究演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 熊谷 龍一, 柴山 直, 有本 昌弘, 松林 優一郎, 佐藤 智子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育評価・測定論研究の実際 (2)

Research of Educational Assessment and Measurement II

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

各自の関心に基づいた研究を遂行し、その発表と共同討議を通じて、教育評価・教育測定論に関する高度な知見を確立することを目的とする。

The aim of this course is to acquire the comprehensive knowledge about educational assessment and measurement. Students tackle some research topics based on individual interests, make oral presentation and discuss collaboratively.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 各自の研究テーマに沿った研究を遂行できる。
2. 発表と共同討議を通じて、教育評価・教育測定論分野の幅広い知見を獲得する。
3. 発表と共同討議を通じて、研究者に求められる討議能力を獲得する。

The goals of this course are to

1. Tackle some research topics based on individual interests,
2. Obtain comprehensive knowledge about educational assessment and measurement, through oral presentations and joint discussions,
3. Obtain the discussion ability as researchers, through presentations and joint discussions.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション (1 回)
2. 各自の研究発表と共同討議 (14 回)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表・レビュー (70%), 討議への参加 (30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義中に適宜指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

先行研究の探索・整理, レビューの執筆, 発表資料の作成

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

教育情報アセスメントコースの教育評価測定論領域に所属する院生は、すでに受講済みの学生であっても、各自の研究を相対化し知見を広げる機会となるので、原則参加すること。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 11:57:37

科目名/Subject : 教育情報学基礎論研究演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 4 講時

担当教員/Instructor : 2020 佐藤 克美

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

ICT 教材の作製・ICT を用いた学びの体験

Learning experiences by creating of ICT teaching materials and using ICT

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ICT を効果的に教育に活用するためには、単にそれを使うだけでなく教育者が ICT の基礎を理解し、それを用いた教材を作製したり評価したりできること、さらには ICT を学習者に使用させることができることが重要である。また ICT 活用が学習者に与える影響を理解しなければならない。そこで本演習では ICT を用いた教育の例として CG を用いた教材を取り上げ、それを実際にデザイン、プログラムし作製する。さらには ICT 用いた学びを受講生自らが実際に体験することで、ICT を活用した教育手法の基本について体得する。

To use ICT effectively in education, educators not only need to use it, but also need to understand the basics of ICT, to create and evaluate teaching materials using it. It is important that learners can use it, but educators also need to understand the influence ICT utilization gives it to learners. Therefore, this course takes up teaching materials by using CG as an example of education using ICT, and students actually create those designs and programs. In addition, students will learn about the ICT-based educational methods by actually experiencing ICT-based learning.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・ ICT が人と社会にどのような影響を及ぼすかを理解する。
- ・ ICT を活用した教材の作製ができる。(特に CG を用いた教材の作製)
- ・ 自ら ICT を積極的に活用し学ぶことができる。
- ・ ICT を教育・学習に活用しようとする人に対して、適切な支援・助言ができる。

This purpose of this course is to help students better:

- ・ Understand how ICT affects people and society.
- ・ Create teaching materials using ICT. (Especially, create the teaching materials by using CG)
- ・ Be able to actively utilize and learn ICT.
- ・ Appropriate support and advice can be provided to those who intend to use ICT for education and learning.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション ～概要、評価方法の説明～
2. 人間と ICT との関わり
3. ICT による社会と文化の変化
4. コミュニティの活用と新しい文化
5. CG 教材を用いた教育(1) CG 教材のデザイン
6. CG 教材を用いた教育(2) CG 教材の作り方
7. CG 教材を用いた教育(3) CG 教材の作製①
8. CG 教材を用いた教育(4) CG 教材の作製②
9. CG 教材を用いた教育(5) CG 教材の受講と評価
10. モノづくりによる学習(1) 外部情報の取得(センサーの活用)
11. モノづくりによる学習(2) プログラムによる動作制御(ロボット)
12. モノづくりによる学習(3) 簡単な教育ロボットのデザイン
13. モノづくりによる学習(4) 簡単な教育ロボットの製作
14. モノづくりによる学習(5) ロボットを活用した学びの体験
15. まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業毎に行うミニットペーパーの内容、授業内の発言とレポート課題、及び演習中作製した成果物により評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

必要に応じて配布

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

教材作製などの活動は授業時間外にも相当な時間行う必要があります。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

ICTについてポジティブに活用し、それらを生かした新しい使い方について模索する意欲が必要です。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 15:14:49

科目名/Subject : 人間形成学概論 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 笹田 博通 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
人間形成への問い
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
教育という事象を広く人間形成として捉え直した上で、教育哲学の立場から、その人間形成の在り方を多角的かつ重層的に検討する。これによって、生涯にわたる教育＝人間形成の課題の核心を究明する。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
教育および人間形成を原理的に考察することができる。
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**
第1回：オリエンテーション
第2回：教育哲学とは何か ～教育の哲学と人間形成論～
第3回：教育的環境の構造（1）～人間形成にとっての自然～
第4回：教育的環境の構造（2）～人間形成にとっての文化～
第5回：教育的環境の構造（3）～人間形成にとっての社会～
第6回：教育的環境の構造（4）～人間形成の成立する世界～
第7回：人間形成観の類型（1）～自由志向型の人間形成観～
第8回：人間形成観の類型（2）～社会志向型の人間形成観～
第9回：人間形成観の類型（3）～文化志向型の人間形成観～
第10回：人間形成観の類型（4）～場所志向型の人間形成観～
第11回：教育的行為の構造（1）～教育的行為の基本的性格～
第12回：教育的行為の構造（2）～教育的関係と教育的行為～
第13回：教育的行為の構造（3）～教育の権威と責任の問題～
第14回：教育的行為の構造（4）～教育の挫折可能性の問題～
第15回：総括
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
全授業終了後に課すレポートの内容によって評価する。
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
教科書：特になし
参考書：細谷恒夫『教育の哲学——人間形成の基礎理論——』創文社、1962 源 了圓『文化と人間形成』（教育学大全集1）第一法規、1982 千葉泰爾編『教育の本質と目的』福村出版、1991 原研二・佐藤研一・松山雄三・笹田博通編『多元的文化の論理——新たな文化の創生へ向けて——』東北大学出版会、2005 笹田博通編著『教育的思考の歩み』ナカニシヤ出版、2015 日本仏教教育学会編『仏教的世界の教育論理——仏教と教育の接点——』法蔵館、2016 笹田博通・山口匡・相澤伸幸編著『考える道徳』
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
授業で指示した文献を読み復習すること。
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/04 23:44:31

科目名/Subject : 臨床心理学特論Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 5 講時

担当教員/Instructor : 2020 吉田 沙蘭

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学概論

Clinical Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

グループワークなどを通して、臨床心理学の専門家として必要な知識と技能、社会的責任に関わることの統合的な見通しを得る。

The participants gain an integrated perspective on knowledge, skills and social responsibility necessary for clinical psychologist.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

臨床心理学の専門家として他職種と関わる現場で働く際に求められる、実践的な態度、知識および技能を身につけること。

The aim of this class is to acquire practical attitudes, knowledge and skills required when the participants work in a field as a clinical psychologist collaborating with other experts.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション

2. 心理士として社会・組織の中で働くということ

3-8. 心理援助の専門職として働くために

コミュニティにおける心理援助

グループを通しての心理援助

家族を通しての心理援助

人生の移行について理解する

ストレスとバーンアウト

9-13. 社会で働くのためのスキル

情報収集・情報提供

コーディネート・コンサルテーション

グループへの介入・ファシリテーション

研修企画・運営

アウトリーチ

14. 社会に出てからのスキルアップ

15. 研究者として社会・組織の中で働くということ

1. Introduction

2. The role of clinical psychologists in organization

3-8. How to work as a psychologist

9-13. The skills required to work as a psychologist in organization

14. Skill up after graduation

15. The role of researchers in organization

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表や討論を含む授業への参加度 (60%)、レポート (40%) による総合評価

Participation in group work (60%) , Term paper (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

心理援助の専門職として働くために-臨床心理士・カウンセラー・PSW の実践テキスト (金剛出版)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

1人あたり1回、事前に該当テーマについてまとめ、発表を担当する (#3~#8)

The participants required to be in charge of presentation once per person.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この授業は、臨床心理学コースの学生のために開講されている。

臨床心理学コースの学生は、必ず履修すること。

This class is provided for the students of clinical psychology course.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 22:06:30

科目名/Subject : 発達障害学研究演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学研究法 (2)

Research methods of developmental disabilities (2)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

課題論文・修士論文、学会発表論文、学術論文などの作成に向け、文献紹介・研究発表とそれらに基づく議論を通じて受講者各自の研究内容を深めることを目的とする。

Those who take this advanced seminar will advance their own research through introduction of literature in relevant areas and presentation of their own research, and discussion based on them.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①論文作成及びプレゼンテーションのスキルを習得する。

②受講者各自の研究テーマに関する国内外の研究動向、理論を把握する。

③受講者各自の研究を纏める。

After taking this advanced seminar, you should be able to :

①Prepare the thesis and research presentation at academic societies.

②Describe theories and the research trends on your own research themes.

③Make your own research thesis.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1～5. 各自が研究テーマに沿って収集したデータの分析結果の検討

6～10. 各自の研究テーマに関し、得られた知見と従来の知見との比較検討

11～15. 各自の研究のまとめ

1～5. To analyze collected data and examine the results

6～10. To compare newly discovered findings with previously revealed findings

11～15. To write a research paper

5. 成績評価方法/Evaluation method :

平常点 (50%), 討論への参加 (25%), 研究発表内容 (25%) により、総合的に評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance (50%), participation in discussions (25%), and contents of research presentations (25%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。必要な資料は授業の際に配布する。

Not specified. Necessary materials will be distributed during class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

研究発表・論文作成に向け、国内外の研究論文の知見の整理、収集したデータの分析を進める。

You need to organize findings of domestic and foreign research papers and analyze collected data for research presentations and paper writing.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他/In addition :

この授業は、発達障害学を専攻する学生を対象とする。また、発達障害学研究演習Ⅰと連続して行うので、受講者はⅠ・Ⅲの両方を履修すること。

This class is for students majoring in "Developmental Disorders". In addition, students must take Seminar I and seminar III, as both seminars will be conducted consecutively.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/06 16:47:47

科目名/Subject : 発達障害学研究演習Ⅳ

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 6 講時

担当教員/Instructor : 2020 川崎 聡大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学研究法

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

研究計画法を中心に、課題研究、修士論文の作成に向けた研究指導を行う。受講者は自分の研究に関する先行研究のレビューならびに研究状況の発表を行い、質疑や討論を通して研究を深める。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

先行研究の検索ならびにレビュー（プレゼンテーション）の方法について習熟し、研究方法や最新の研究知見について理解を深める。

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

本演習は修士論文作成に向けた演習であり、以下の通り各自の研究テーマに沿った発表から 15 回を構成する。1. 先行研究のレビュー, 2. 各自の研究に関する構想発表, 3. 各自の研究計画に該当する必要な研究法（統計解析等）の習熟。これらについて受講生相互の討論により理解を深める。

*本演習は前期のⅡを引き継ぐものであり継続した履修がのぞまれる

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業（ディスカッション）への参加（70%）、レポート（30%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 70%
- Short reports: 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自の発表内容並びに関連領域について適宜習熟を深める。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この授業は 1・2 学期を通して行われるので、受講者は連続して履修すること。

本演習は発達障害に関する研究を修論のテーマとする学生を対照とし、演習の中で研究データを深めうるものを対象とする。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/17 16:01:37

